

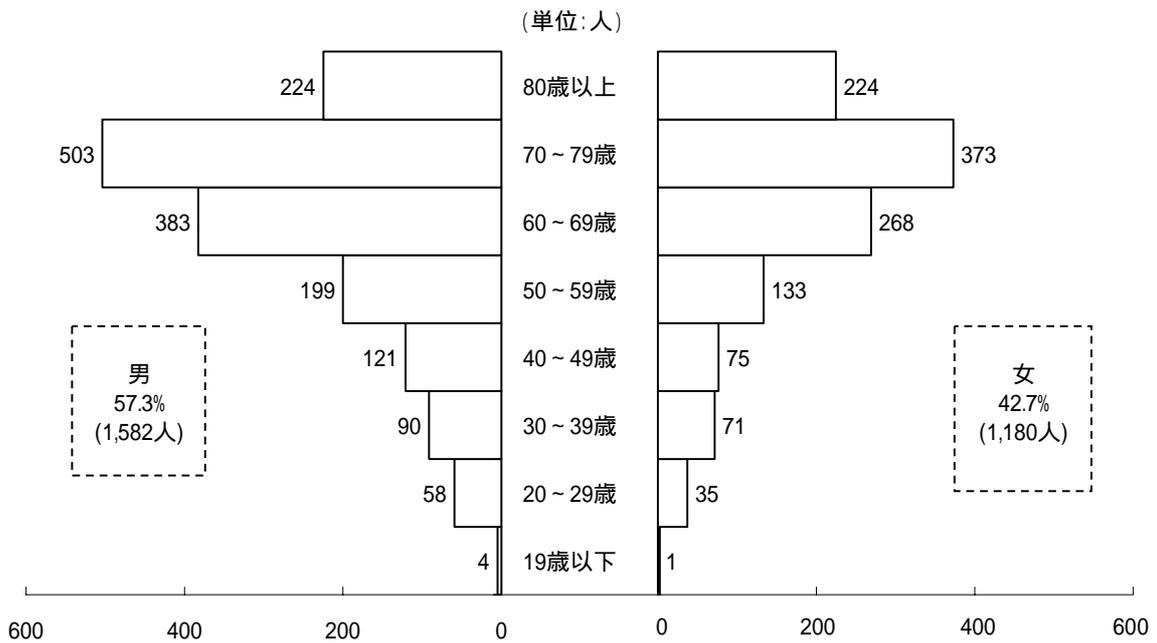
第2章 身体障害者の状況

1 基本的属性

(1) 性・年齢階級

回答者を性別にみると「男性」57.3% (1,582人)、「女性」42.7% (1,180人)である。
年齢階級は男女ともに「70～79歳」が最も多くなっている。(図 -1-1)

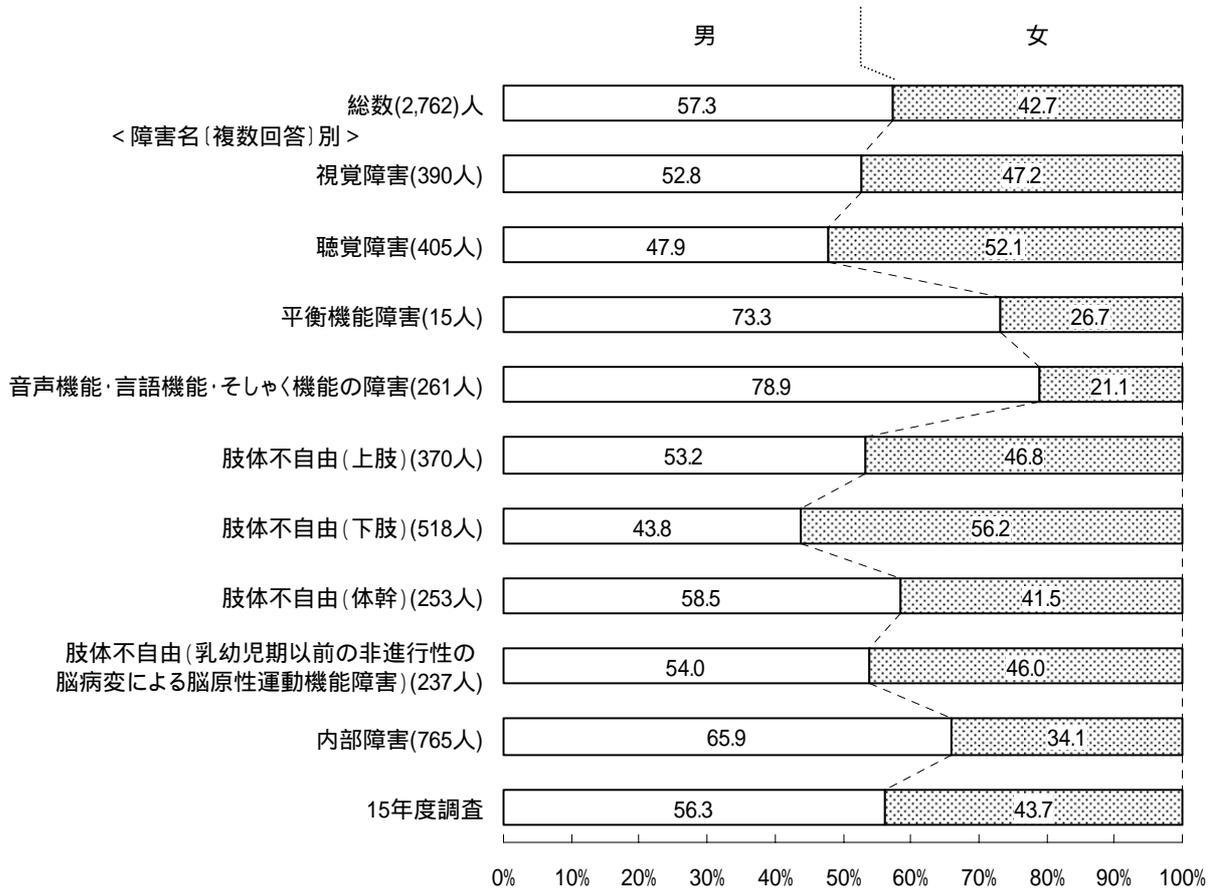
図 -1-1 性・年齢階級



(2) 性別 - 障害名〔複数回答〕別

性別を障害名別にみると、聴覚障害、肢体不自由（下肢）を除く全ての障害で女性よりも男性の割合が高くなっている。（図 -1-2）

図 -1-2 性別 - 障害名〔複数回答〕別



(3) 年齢階級 - 障害名〔複数回答〕別

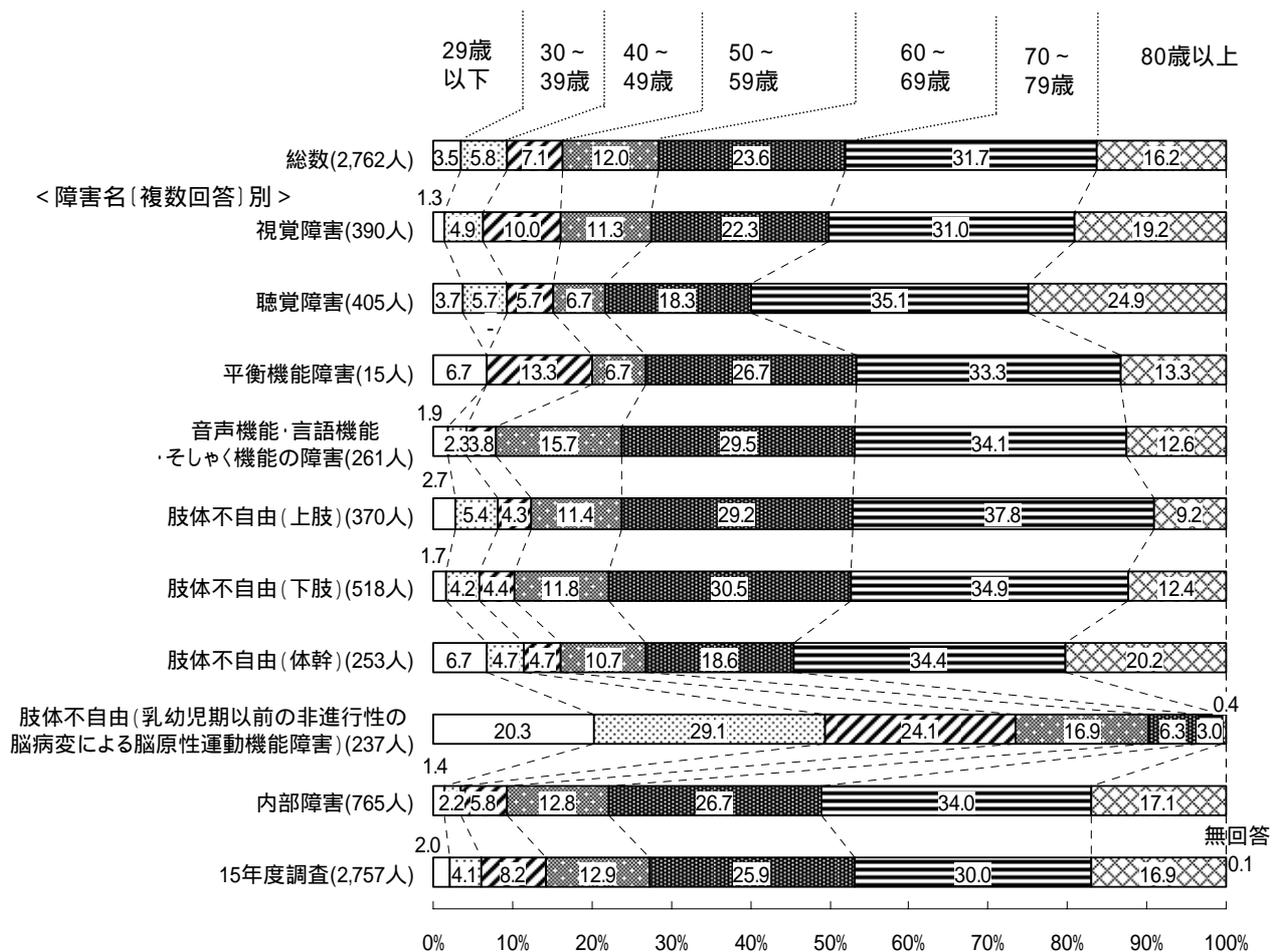
年齢階級は、「70～79歳」の割合が最も高く31.7%、次いで「60～69歳」23.6%、「80歳以上」16.2%となっており、これらを合わせた60歳以上の割合は71.5%と7割を超えている。

年齢階級を障害名別にみると「70～79歳」の割合は、肢体不自由（上肢）が37.8%と高く、「80歳以上」の割合は、聴覚障害が24.9%と他の障害よりも高いが目立つ。

一方、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の約5割近くが20代～30代（「29歳以下 20.3%」「30～39歳 29.1%」）の若い年代となっている。

前回調査（15年度調査）と比べると「29歳以下」「30～39歳」「70～79歳」の階級の割合が増加している。（図 -1-3）

図 -1-3 年齢階級 - 障害名〔複数回答〕別



(4) 現在の生活の場 - 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別

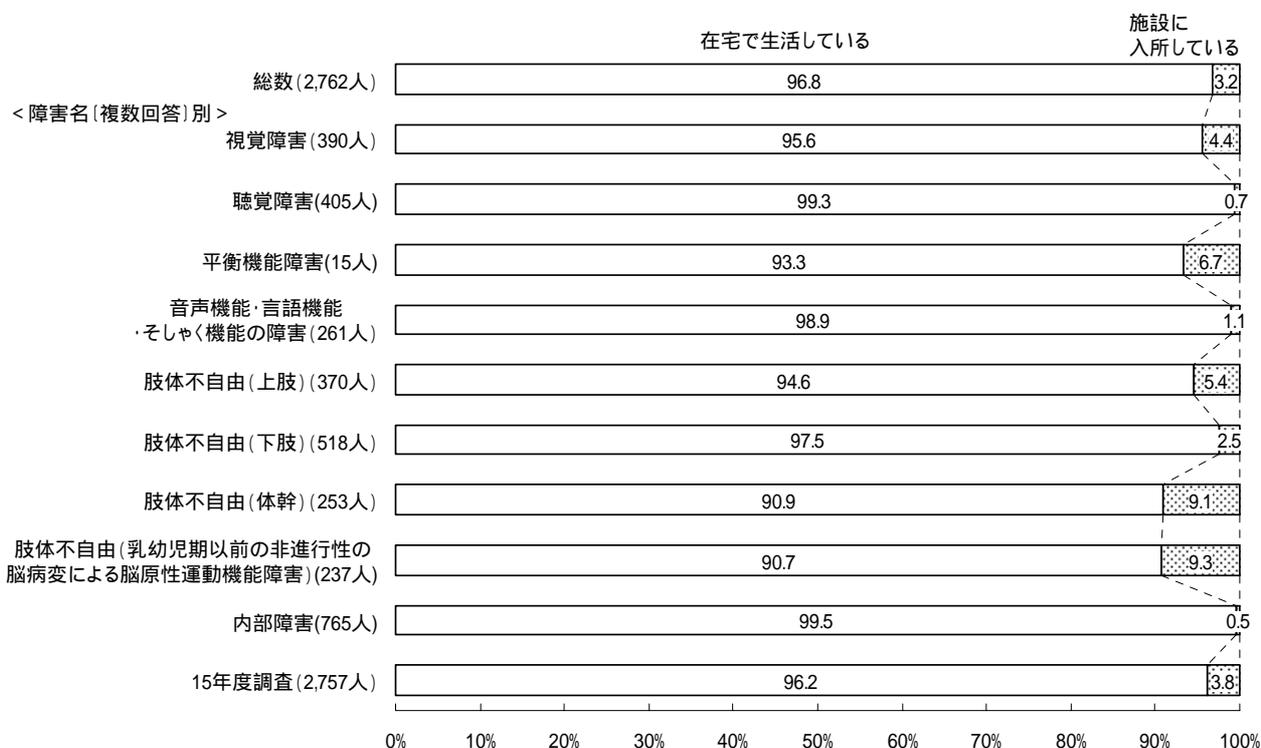
「施設に入所している」割合は肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳原性運動機能障害）(9.3%) および肢体不自由（体幹）(9.1%)で高くなっている

現在の生活の場について、「在宅で生活している」割合は96.8%、「施設に入所している」割合は3.2%となっている。

身体障害者手帳の障害名別にみると、「施設に入所している」割合は肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳原性運動機能障害）が9.3%と高く、次いで肢体不自由（体幹）が9.1%となっている。（図 -1-4）

問 現在の生活の場はどこですか。

図 -1-4 現在の生活の場 - 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別



(5) 住まいの種類 - 障害名〔複数回答〕別

在宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）2,674 人が対象

住まいの種類は「持家」が 60.1% 「借家・賃貸住宅等」が 37.1%

在宅者（施設入所者を除く）の住まいの種類みると「持家」の割合が最も高く 60.1%、「借家・賃貸住宅等」の割合が 37.1%と続く。「持家(一戸建て)」の割合は前回調査の 52.1%から 47.3%に減少し、「持家(分譲マンション等)」の割合は 9.7%から 12.7%に増加した。
(表 -1-1)

問 あなたのお住まいの種類はどれですか。

表 -1-1 住まいの種類 - 障害名〔複数回答〕別

	総数	持家			借家・賃貸住宅等								その他	無回答
		持家 (一戸建て)	持家 (分譲マンション)	借家・賃貸住宅等	貸都・区 市町村の公 営住宅	団 賃住宅	都 市機 構(旧公 社)など の賃 住宅	民 間 賃 貸 住 宅 (一 戸 建 て)	民 間 賃 貸 住 宅 (共 同 住 宅)	間 借 り	社 宅 な ど の 給 与 住 宅	身 体 障 害 者 福 祉 ホ ー ム ・ 重 度 身 体 障 害 者 グ ル ー プ ホ ー ム		
総数	100.0 (2,674)	60.1	47.3	12.7	37.1	16.0	5.5	1.7	12.8	0.3	0.8	0.2	1.1	1.6
視覚障害	100.0 (373)	54.7	43.2	11.5	43.7	18.0	5.6	2.1	17.4	0.3	0.3	-	0.5	1.1
聴覚障害	100.0 (402)	56.7	46.5	10.2	41.3	21.4	6.7	1.2	11.2	-	0.7	-	0.7	1.2
平衡機能障害	100.0 (14)	50.0	50.0	-	42.9	28.6	-	-	14.3	-	-	7.1	-	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (258)	58.5	45.3	13.2	38.0	14.0	5.0	1.6	16.3	-	1.2	-	1.9	1.6
肢体不自由(上肢)	100.0 (350)	60.0	45.1	14.9	35.7	17.7	4.3	1.1	12.3	-	0.3	0.3	1.7	2.3
肢体不自由(下肢)	100.0 (505)	60.0	46.1	13.9	36.4	16.6	5.7	2.4	11.5	-	0.2	0.2	1.2	2.2
肢体不自由(体幹)	100.0 (230)	62.6	46.5	16.1	33.0	17.0	2.6	2.2	9.6	0.4	1.3	-	3.0	1.3
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (215)	53.0	38.6	14.4	43.3	20.9	3.7	1.9	14.9	-	1.9	0.9	2.3	0.5
内部障害	100.0 (761)	63.9	51.2	12.6	33.4	12.0	6.3	1.2	12.4	0.7	0.9	0.3	0.7	1.8
15年度調査	100.0 (2,653)	61.8	52.1	9.7	37.4	21.8	-	2.5	9.7	0.5	0.9	0.1	0.6	-

(注) 住居の種類については、所有、賃貸の名義が障害者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、調査結果と所有者、賃貸の名義人とは必ずしも一致しない。

(6) 一緒に暮らしている人〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、障害を持った時期別
在宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）2,674人が対象

前回調査よりも「一人で暮らしている」割合が2.9ポイント増加

一緒に暮らしている人は、「配偶者」の割合が52.5%と最も高く、次いで「子ども」の29.6%となっている。障害名別にみると「親」と暮らしている割合は、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳原性運動機能障害）が64.2%と最も高く、「一人で暮らしている」割合が高いのは聴覚障害で24.9%となっている。障害を持った時期別にみると「配偶者」と一緒に暮らしている人は、60代が66.5%と高い。前回調査（15年度調査）と比べると、「一人で暮らしている」割合が18.3%から21.2%と2.9ポイント増加した。（表 -1-2）

問 あなたは現在、だれと一緒に生活していますか。

表 -1-2 一緒に暮らしている人 - 障害名〔複数回答〕、障害を持った時期別

	総数	親	配偶者	子ども	兄弟姉妹	族その他の親	一人で暮ら	その他	無回答	
総数	100.0 (2,674)	13.8	52.5	29.6	6.0	5.5	21.2	1.9	0.2	
障害名 (複数回答)別	視覚障害	100.0 (373)	10.2	51.2	29.8	4.3	5.4	24.7	1.9	-
	聴覚障害	100.0 (402)	11.7	44.3	31.3	6.5	6.5	24.9	1.0	0.2
	平衡機能障害	100.0 (14)	21.4	50.0	14.3	-	-	21.4	7.1	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (258)	10.9	61.2	26.0	4.7	5.4	19.4	2.7	-
	肢体不自由(上肢)	100.0 (350)	12.6	57.1	30.6	4.6	4.3	18.0	2.6	0.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (505)	9.1	54.1	32.5	4.0	4.2	20.6	2.4	0.2
	肢体不自由(体幹)	100.0 (230)	13.0	55.2	28.7	5.7	7.0	14.3	4.8	0.4
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (215)	64.2	12.1	7.4	27.4	3.7	18.1	4.2	0.5
	内部障害	100.0 (761)	8.4	60.7	31.7	3.7	6.2	21.4	1.2	0.3
障害を持った時期別	出生前または出生時	100.0 (352)	49.4	25.6	15.1	23.9	4.3	17.0	4.0	0.3
	0～3歳	100.0 (95)	28.4	35.8	12.6	14.7	2.1	26.3	2.1	1.1
	4～12歳	100.0 (88)	20.5	43.2	25.0	8.0	4.5	23.9	1.1	-
	13～17歳	100.0 (29)	17.2	41.4	24.1	3.4	-	31.0	-	-
	18歳～29歳	100.0 (133)	24.8	46.6	25.6	9.0	3.0	17.3	1.5	-
	30歳～39歳	100.0 (144)	16.7	52.8	29.9	1.4	4.2	21.5	2.1	-
	40歳～49歳	100.0 (245)	13.5	56.3	33.5	3.7	3.7	22.9	2.0	0.4
	50歳～59歳	100.0 (508)	5.3	60.6	36.4	2.6	7.7	23.6	1.6	0.2
	60歳～69歳	100.0 (568)	2.1	66.5	30.8	1.6	6.7	19.0	0.9	-
70歳以上	100.0 (415)	1.0	52.5	35.4	0.7	6.3	22.7	1.4	0.2	
15年度調査	100.0 (2,757)	12.1	53.3	34.7	4.6	9.3	18.3	4.5	0.3	

(7) 配偶者の手帳所持の有無と手帳の種類〔複数回答〕

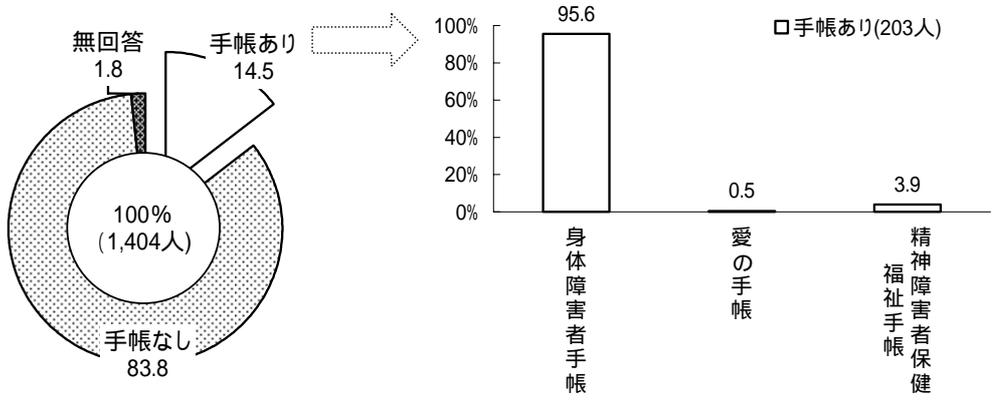
調査基準日現在、配偶者と生活している 1,404 人が対象

はいくうしや てちょうしよじしや わりあい
配偶者が手帳所持者である割合は 14.5%

配偶者について手帳所持者かどうか尋ねたところ、「手帳あり」と回答した割合は 14.5% (203 人)であった。また、「手帳あり」と回答した人の手帳の種類別の割合は「身体障害者手帳」95.6%、「愛の手帳」0.5%、「精神障害者保健福祉手帳」3.9%であった。(図 -1-5)

とい はいくうしや てちょうしよじしや
問 配偶者は、手帳所持者ですか。

図 -1-5 配偶者の手帳所持の有無と手帳の種類〔複数回答〕



(8) 配偶者の手帳所持の有無と手帳の種類〔複数回答〕 - 年齢階級 (本人) 別

調査基準日現在、配偶者と生活している 1,404 人が対象

配偶者の手帳所持の有無を年齢階級別にみると、「手帳あり」の割合は、49 歳以下 (39 歳以下 20.5%、40~49 歳 26.2%) で比較的高くなっている。(表 -1-3)

表 -1-3 配偶者の手帳所持の有無と手帳の種類〔複数回答〕 - 年齢階級 (本人) 別

	総数	手帳あり	身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	手帳なし	無回答
総数	100.0 (1,404)	14.5	13.8	0.1	0.6	83.8	1.8
39歳以下	100.0 (44)	20.5	20.5	-	-	79.5	-
40~49歳	100.0 (61)	26.2	24.6	-	1.6	70.5	3.3
50~59歳	100.0 (155)	15.5	14.2	0.6	0.6	82.6	1.9
60~69歳	100.0 (403)	12.4	11.9	-	0.5	85.6	2.0
70~79歳	100.0 (532)	15.2	14.5	-	0.8	83.6	1.1
(再掲)総数 65歳以上	100.0 (977)	13.2	12.7	-	0.5	85.3	1.5

2 障害の状況

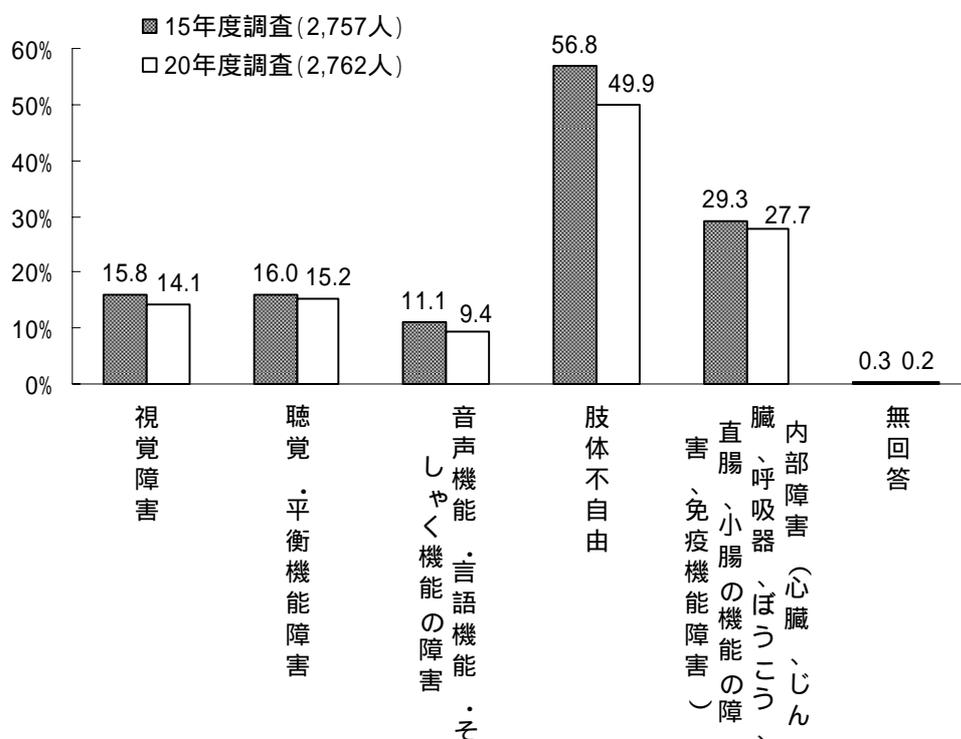
(1) 障害の種類〔複数回答〕

回答者の障害の種類は「肢体不自由」の割合が最も高く、次いで「内部障害」が高い

身体障害者手帳の障害の種類割合は、「肢体不自由」49.9%、「内部障害」27.7%、「聴覚・平衡機能障害」15.2%と続く。(図 -2-1)

問 あなたの身体障害者手帳に記載されている障害名は何ですか。

図 -2-1 障害の種類〔複数回答〕



(注) 肢体不自由は「上肢」「下肢」「体幹」「乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害」を合わせた割合である。

(2) 身体障害者手帳の等級(障害名別) - 身体障害者手帳の等級(総合等級)別

手帳の等級が1級の割合は「**肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳原性運動機能障害)**」が67.1%と最も高く、次に高いのは「**内部障害**」の65.6%

身体障害者手帳の等級をみると、音声機能・言語機能・そしゃく機能障害の「3級」(60.5%)、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳原性運動機能障害)の「1級」(67.1%)、内部障害の「1級」(65.6%)で、それぞれ5割以上となっている。(表 -2-1)

問 手帳に記載された障害の程度(総合等級)をお答えください。

表 -2-1 身体障害者手帳の等級(障害名別) - 身体障害者手帳の等級(総合等級)別

障害名 総合等級	(a)視覚障害									(b)聴覚障害									(c)平衡機能障害									
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	
総数	100.0 (390)	24.4	32.1	7.7	10.0	13.8	10.8	1.0	0.3	100.0 (405)	-	28.1	9.6	28.1	-	28.9	4.0	1.2	100.0 (15)	-	-	6.7	-	40.0	-	26.7	26.7	
1級	100.0 (103)	92.2	1.0	1.9	-	1.9	-	1.9	1.0	100.0 (32)	-	34.4	-	12.5	-	12.5	34.4	6.3	100.0 (2)	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
2級	100.0 (127)	-	96.9	1.6	0.8	-	-	0.8	-	100.0 (109)	-	93.6	0.9	1.8	-	1.8	1.8	-	100.0 (3)	-	-	-	-	33.3	-	66.7	-	
3級	100.0 (29)	-	-	89.7	3.4	6.9	-	-	-	100.0 (40)	-	-	95.0	5.0	-	-	-	-	100.0 (2)	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	
4級	100.0 (39)	-	-	-	94.9	2.6	2.6	-	-	100.0 (111)	-	-	-	95.5	-	0.9	1.8	1.8	100.0 (3)	-	-	-	-	33.3	-	-	66.7	
5級	100.0 (49)	-	-	-	-	98.0	2.0	-	-	100.0 (1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0 (3)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	
6級	100.0 (40)	-	-	-	-	-	97.5	2.5	-	100.0 (109)	-	-	-	-	-	99.1	-	0.9	100.0 (2)	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	

障害名 総合等級	(d)音声機能・言語機能・そしゃく機能障害									(e)肢体不自由(上肢)									(f)肢体不自由(下肢)								
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答
総数	100.0 (261)	-	-	60.5	31.8	-	-	6.9	0.8	100.0 (370)	18.1	35.1	20.5	8.6	3.0	7.3	3.8	3.5	100.0 (518)	13.1	16.0	24.1	32.6	6.6	3.7	1.9	1.9
1級	100.0 (26)	-	-	42.3	7.7	-	-	46.2	3.8	100.0 (124)	53.2	33.9	7.3	-	-	-	5.6	-	100.0 (112)	59.8	8.9	18.8	4.5	0.9	-	4.5	2.7
2級	100.0 (15)	-	-	53.3	33.3	-	-	13.3	-	100.0 (122)	-	70.5	20.5	-	-	2.5	3.3	3.3	100.0 (125)	-	57.6	10.4	24.8	-	2.4	3.2	1.6
3級	100.0 (140)	-	-	97.1	2.1	-	-	0.7	-	100.0 (57)	-	3.5	71.9	7.0	-	5.3	1.8	10.5	100.0 (106)	-	-	84.9	9.4	1.9	1.9	-	1.9
4級	100.0 (76)	-	-	-	96.1	-	-	2.6	1.3	100.0 (34)	-	-	-	82.4	-	2.9	5.9	8.8	100.0 (128)	-	-	-	96.1	1.6	-	0.8	1.6
5級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (12)	-	-	-	-	91.7	8.3	-	-	100.0 (29)	-	-	-	-	96.6	3.4	-	-
6級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (19)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0 (14)	-	-	-	-	-	92.9	-	7.1

障害名 総合等級	(g)肢体不自由(体幹)									(h)肢体不自由(脳原性)									(i)内部障害								
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答
総数	100.0 (253)	28.5	32.8	21.7	3.2	10.3	0.8	2.0	0.8	100.0 (237)	67.1	17.7	5.1	5.9	1.7	1.7	0.4	0.4	100.0 (765)	65.6	1.8	11.5	20.3	0.3	0.1	0.4	-
1級	100.0 (97)	73.2	16.5	3.1	-	2.1	-	4.1	1.0	100.0 (163)	97.5	0.6	-	1.2	-	-	0.6	-	100.0 (504)	99.6	-	-	0.2	-	-	0.2	-
2級	100.0 (77)	-	85.7	11.7	1.3	-	1.3	-	-	100.0 (44)	-	93.2	-	4.5	-	-	-	2.3	100.0 (21)	-	66.7	14.3	14.3	-	-	4.8	-
3級	100.0 (47)	-	-	89.4	2.1	4.3	-	2.1	2.1	100.0 (12)	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0 (86)	-	-	98.8	1.2	-	-	-	-
4級	100.0 (7)	-	-	14.3	85.7	-	-	-	-	100.0 (10)	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0 (149)	-	-	-	100.0	-	-	-	-
5級	100.0 (23)	-	-	-	-	95.7	4.3	-	-	100.0 (4)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0 (2)	-	-	-	-	100.0	-	-	-
6級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (4)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0 (1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-

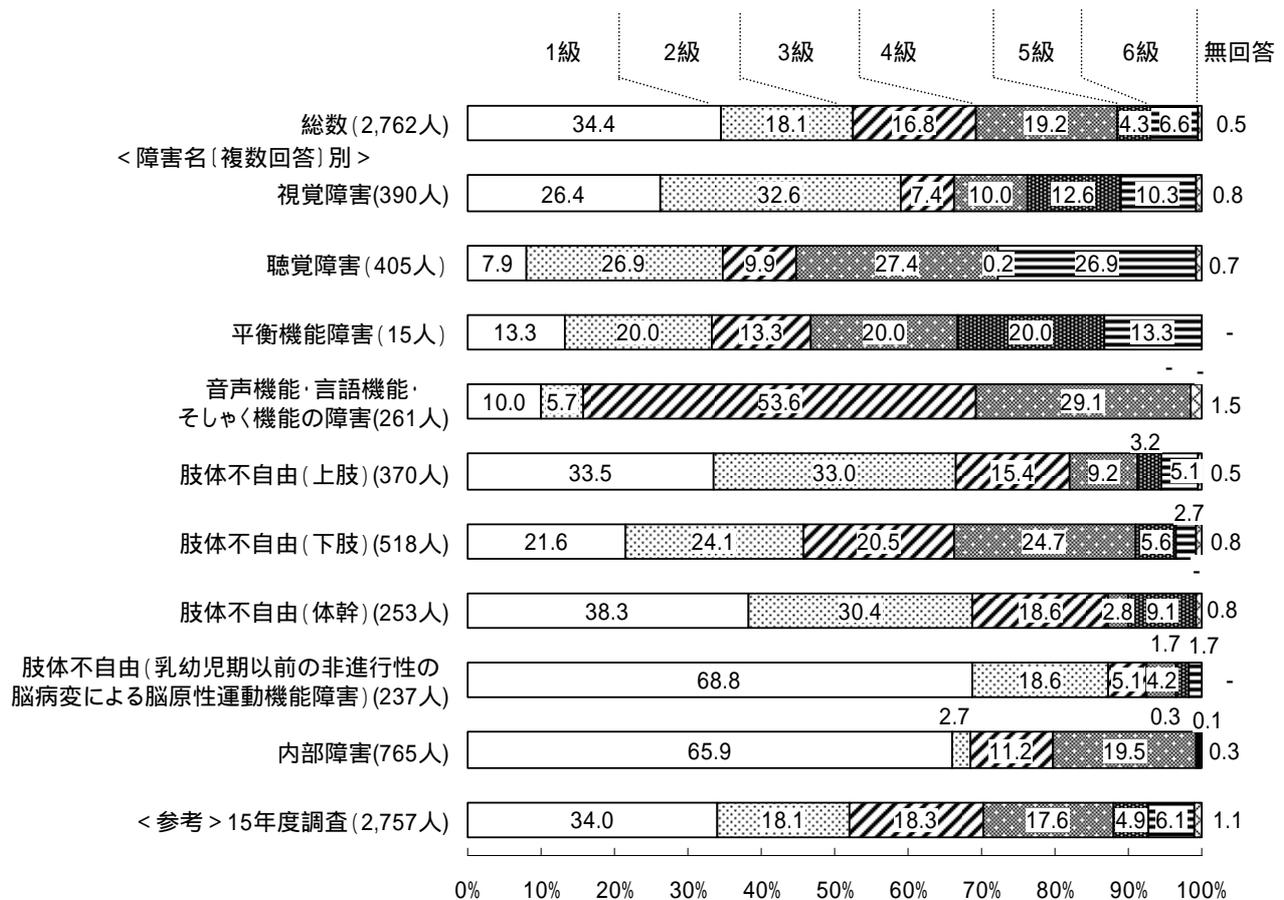
(注)・総合等級とは、2つ以上の障害が重複する場合に、重複する障害の合計指数に応じて認定されるもの。(1つのみ障害の場合は、その該当する等級で回答してもらっている。)
 ・(上肢)2級 - 総合等級3級、(体幹)3級 - 総合等級4級は誤って回答したものと思われる。

(3) 身体障害者手帳の等級(総合等級) - 障害名〔複数回答〕別

身体障害者手帳の等級(総合等級)の割合は、「1級」が最も高く34.4%、次いで「4級」が19.2%、「2級」が18.1%となっている。

障害名別にみると、「1級」の割合は肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)が68.8%と最も高く、次いで内部障害の65.9%となっている。(図-2-2)

図 -2-2 身体障害者手帳の等級(総合等級) - 障害名〔複数回答〕別



(注) 前回調査(15年度調査)は、手帳の等級は総合等級では聞いていない。

(4) 障害を持った時期 - 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別

障害を持った時期は「40～64歳」の割合が37.8%、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「出生前または出生時」の割合が78.9%

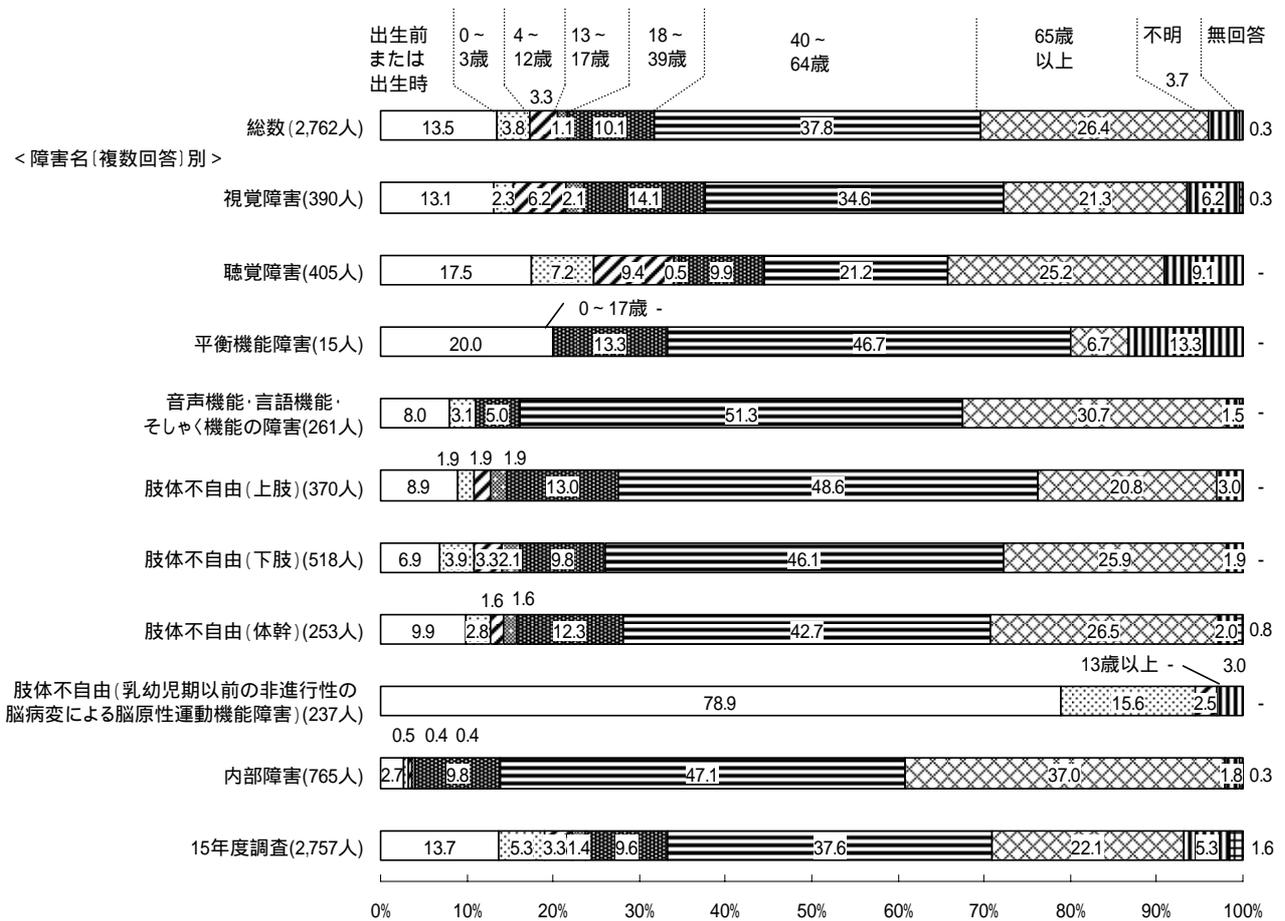
障害を持った時期について尋ねたところ、「40～64歳」の割合が37.8%と最も高くなっている。

障害名別で見ると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「出生前または出生時」の割合が78.9%と高い。

また、内部障害では「65歳以上」の割合が37.0%と高くなっている。前回調査（15年度調査）と比べると「65歳以上」の割合が4.3ポイント増加した。（図 -2-3）

問 あなたが障害を持ったのはいつですか。

図 -2-3 障害を持った時期 - 障害名〔複数回答〕別



(5) 障害を持った時期 - 年齢階級別

障害を持った時期について年齢階級別にみると、障害を持った時期が「65歳以上」と答えた割合は、現在の年齢が80歳以上の方が64.5%と高く、障害を持った時期が「出生前または出生時」と答えた割合は、現在の年齢が29歳以下(73.5%)と30代(55.3%)で高くなっている。(表 -2-2)

表 -2-2 障害を持った時期 - 年齢階級別

	総数	出生前または出生時	0 ～ 3 歳	4 ～ 12 歳	13 ～ 17 歳	18 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳以上	不明	無回答	(再掲) 65歳以上
総数	100.0 (2,762)	13.5	3.8	3.3	1.1	4.9	5.2	9.0	18.8	20.9	15.5	3.7	0.3	26.4
29歳以下	100.0 (98)	<u>73.5</u>	11.2	4.1	2.0	7.1	-	-	-	-	-	2.0	-	-
30～39歳	100.0 (161)	<u>55.3</u>	12.4	5.0	3.7	11.8	8.7	-	-	-	-	1.9	1.2	-
40～49歳	100.0 (196)	35.7	7.7	6.6	2.0	11.2	17.3	16.8	-	-	-	2.6	-	-
50～59歳	100.0 (332)	17.2	6.3	2.7	0.6	3.6	7.8	28.3	29.5	-	-	3.9	-	-
60～69歳	100.0 (651)	6.3	2.6	4.1	0.9	3.1	4.1	10.1	38.4	27.0	-	3.1	0.2	7.1
70～79歳	100.0 (876)	3.3	1.8	2.5	1.0	3.8	4.1	4.7	16.4	37.1	21.0	4.0	0.2	45.0
80歳以上	100.0 (448)	3.1	1.3	1.6	0.2	4.9	1.8	3.1	6.3	17.2	54.5	5.6	0.4	<u>64.5</u>
(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,693)	3.8	1.7	2.6	0.7	3.8	3.4	5.0	17.0	32.1	25.3	4.3	0.3	43.1

(6) 主な障害の原因 - 障害名〔複数回答〕別

主な障害の原因は疾患(感染症、中毒性疾患、その他の疾患)によるものが46.5%、
 事故(交通事故、労働災害、戦傷病・戦災等、その他の事故)によるものが8.6%

主な障害の原因は、疾患(「感染症」「中毒性疾患」「その他の疾患」の合計)によるものの割合が46.5%と高く、事故(「交通事故」「労働災害」「戦傷病・戦災等」「その他の事故」の合計)によるものは8.6%となっている。

障害名別にみると疾患(「感染症」「中毒性疾患」「その他の疾患」の合計)の割合は音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害で高く72.4%、事故(「交通事故」「労働災害」「戦傷病・戦災等」の合計)の割合は肢体不自由(下肢)で18.3%と、総数(8.6%)の割合と比べて10ポイント近く高い。(表 -2-3)

問 主な障害についてお聞きします。その障害の原因は何ですか。

表 -2-3 主な障害の原因 - 障害名〔複数回答〕別

	総数	交通事故	労働災害	戦傷病・戦災等	その他の事故	感染症	中毒性疾患	その他の疾患	薬害	出生時の損傷	加齢	その他	不明	無回答	
総数	100.0 (2,762)	3.0	2.1	0.5	3.0	2.5	0.0	43.9	1.3	8.0	4.8	11.4	18.5	0.8	
		8.6				46.5									
視覚障害	100.0 (390)	1.8	1.5	0.5	3.8	2.6	-	38.2	1.5	4.1	5.9	14.6	24.4	1.0	
聴覚障害	100.0 (405)	1.2	3.0	1.2	0.7	4.0	-	26.4	4.4	7.9	9.9	11.6	28.6	1.0	
平衡機能障害	100.0 (15)	-	6.7	-	-	-	-	46.7	-	13.3	6.7	6.7	20.0	-	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	0.8	0.4	-	1.1	0.8	-	71.6	0.4	3.1	-	9.2	11.5	1.1	
		18.3				72.4									
肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	5.4	7.0	1.1	2.7	0.5	-	54.3	0.5	6.2	1.1	7.8	12.4	0.8	
肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	8.5	1.4	0.8	7.7	1.9	-	46.1	0.6	5.4	6.6	8.3	12.0	0.8	
肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	6.3	0.8	0.4	5.5	2.4	-	51.4	0.8	8.7	2.0	8.3	12.6	0.8	
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	0.4	-	-	0.8	3.8	-	9.3	0.8	53.2	-	13.5	17.3	0.8	
内部障害	100.0 (765)	0.4	0.5	-	0.5	2.9	0.1	56.3	0.5	1.4	4.7	12.0	19.7	0.8	
15年度調査	100.0 (2,757)	2.7	3.0	1.0	4.3	2.2	0.2	45.3	1.1	9.4	4.6	6.8	18.1	1.5	

(7) 障害の疾病名〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕別

障害の疾病名は、1位「^{い しんぞうしっかん}心臓疾患」(14.8%)、2位「^{い のうけっかんしょうがい}脳血管障害」(12.4%)
 3位「^{い のうせい}脳性まひ」(9.2%)、4位「^{い じんぞうしっかん}じん臓疾患」(8.4%)

障害の疾病名の割合は「心臓疾患」(14.8%)が最も高く、次いで「脳血管障害」(12.4%)
 「脳性まひ」(9.2%)「じん臓疾患」(8.4%)と続く。

障害名別にみると、視覚障害では「網脈絡膜・視神経疾患」の割合が49.7%と高く、肢
 体不自由(上肢)及び肢体不自由(体幹)では「脳血管障害」の割合が43.8%、39.1%と
 それぞれ高くなっている。また、肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳
 原性運動機能障害)では「脳性まひ」の割合が92.0%と高く、内部障害では「心臓疾患」
 が49.5%と高い。(表 -2-4)

問 あなたの障害の疾病名は何ですか。

表 -2-4 障害の疾病名〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕別

	総 数	脳 性 ま ひ	ひ 脊 髄 性 小 児 ま	脊 髄 損 傷 (対 ま ひ)	脊 髄 損 傷 (四 肢 ま ひ)	性 進 行 性 筋 萎 縮 疾 患	脳 血 管 障 害	脳 挫 傷	経 其 他 の 脳 神	骨 関 節 疾 患	患 リ ウ マ チ 性 疾	中 耳 性 疾 患	内 耳 性 疾 患
総数	100.0 (2,762)	9.2	0.9	1.0	2.0	0.5	12.4	0.5	3.2	6.6	2.2	3.9	7.0
視覚障害	100.0 (390)	1.0	-	0.3	-	0.3	3.6	0.3	1.0	1.0	-	0.8	1.3
聴覚障害	100.0 (405)	1.0	-	0.5	0.5	-	1.2	0.2	0.5	1.5	0.2	25.9	46.2
平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	-	-	-	-	26.7	-	6.7	-	-	-	33.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の 障害	100.0 (261)	1.9	0.8	-	-	0.4	32.2	0.8	5.4	0.4	-	0.4	3.8
肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	8.4	1.4	0.8	4.1	1.6	43.8	1.1	5.9	8.1	11.4	0.5	0.8
肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	4.8	3.3	3.1	4.8	1.2	26.4	1.0	5.2	27.4	7.3	0.2	0.6
肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	11.9	-	5.1	9.5	3.2	39.1	1.6	15.8	5.5	3.2	0.4	0.4
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性 の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	92.0	1.7	0.4	1.3	-	0.8	-	3.8	0.8	-	0.4	1.3
内部障害	100.0 (765)	0.3	-	-	0.1	0.3	2.4	-	1.0	0.9	0.5	0.1	0.8
15年度調査	100.0 (2,757)	9.9	1.6	1.3	2.2	0.6	11.0	0.4	2.0	8.6	2.4	4.0	8.2

角膜疾患	水晶体疾患	網脈絡膜・視神経性疾患	じん臓疾患	心臓疾患	呼吸器疾患	ぼうこう疾患	大腸疾患	小腸疾患	後天性免疫不全症候群	その他	不明	無回答
2.1	2.3	7.3	<u>8.4</u>	<u>14.8</u>	3.1	1.4	2.8	0.4	0.3	14.3	6.5	1.4
14.4	14.9	<u>49.7</u>	2.6	2.6	0.3	-	0.3	-	-	17.2	8.7	3.3
0.7	1.0	1.2	0.5	1.7	0.7	0.2	0.2	-	0.2	10.6	23.0	1.7
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0	-
-	-	0.8	1.1	2.3	7.7	-	0.4	-	0.8	43.3	6.9	1.1
-	-	0.5	1.1	4.1	0.8	0.3	0.8	0.3	-	17.0	3.2	1.1
0.2	0.4	1.4	1.2	2.5	0.8	0.2	1.0	0.2	0.2	17.8	2.5	0.6
-	-	1.2	2.0	4.7	4.0	0.8	0.8	-	-	9.5	4.0	0.4
-	-	-	0.4	-	0.8	-	-	-	-	3.8	3.0	1.3
0.3	0.5	0.4	29.5	<u>49.5</u>	7.5	4.7	9.3	1.2	0.8	3.9	0.3	0.9
3.4	3.3	8.9	7.9	15.5	7.9	1.5	3.2	0.3	0.1	5.2	3.3	4.7

(8) 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕別

身体障害者手帳以外の手帳（しんたいしょうがいしやてちょういがい てちょう も わりあい）を持っている割合は6.6%

身体障害者手帳以外の手帳所持の有無の割合は、「手帳あり」が6.6%、「手帳なし」が89.9%となっている。

障害名別でみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の割合は、「手帳あり」が45.1%で、その全ての人（45.1%）が「愛の手帳」所持者である。（表 -2-5）

問 あなたは身体障害者手帳（しんたいしょうがいしやてちょういがい てちょう も）をお持ちですか。

表 -2-5 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕別

	総数	手帳あり	愛の手帳				その他	手帳なし	無回答
			愛の手帳	健精神福祉障害者保	戦傷病者手帳	その他			
総数	100.0 (2,762)	6.6	5.7	0.5	0.1	0.3	89.9	3.5	
視覚障害	100.0 (390)	2.3	1.5	0.5	0.3	-	94.9	2.8	
聴覚障害	100.0 (405)	5.7	4.0	0.7	0.2	0.7	90.9	3.5	
平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	6.7	-	-	-	93.3	-	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	1.9	1.1	0.4	-	0.4	94.3	3.8	
肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	5.4	4.6	0.8	-	-	90.0	4.6	
肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	4.1	3.1	0.6	-	0.4	92.1	3.9	
肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	9.1	7.9	0.8	0.4	-	88.9	2.0	
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	45.1	45.1	0.4	-	-	51.9	3.0	
内部障害	100.0 (765)	1.3	0.8	0.3	-	0.3	95.4	3.3	
15年度調査	100.0 (2,757)	4.3	2.9	0.4	0.2	0.8	93.2	2.5	

3 健康・医療

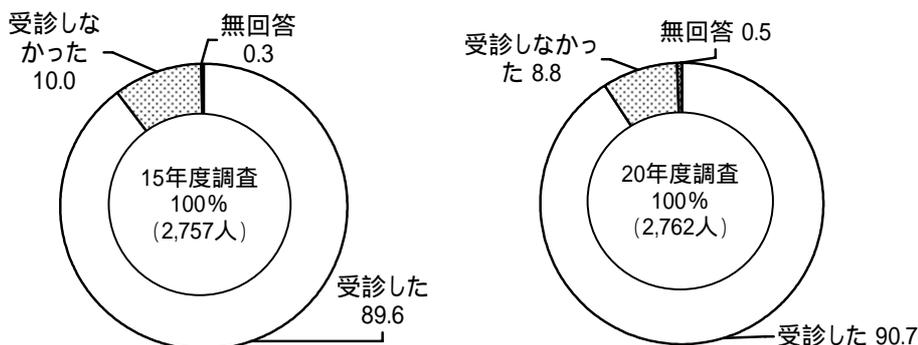
(1) 過去1年間の受診の有無

過去1年間に「受診した」割合は90.7%

過去1年間の受診（障害に起因する場合に限らず、すべての病気・ケガ等を含む。）の有無は「受診した」割合が90.7%であった。（図 -3-1）

問 あなたは過去1年間に受診したことがありますか。

図 -3-1 過去1年間の受診の有無



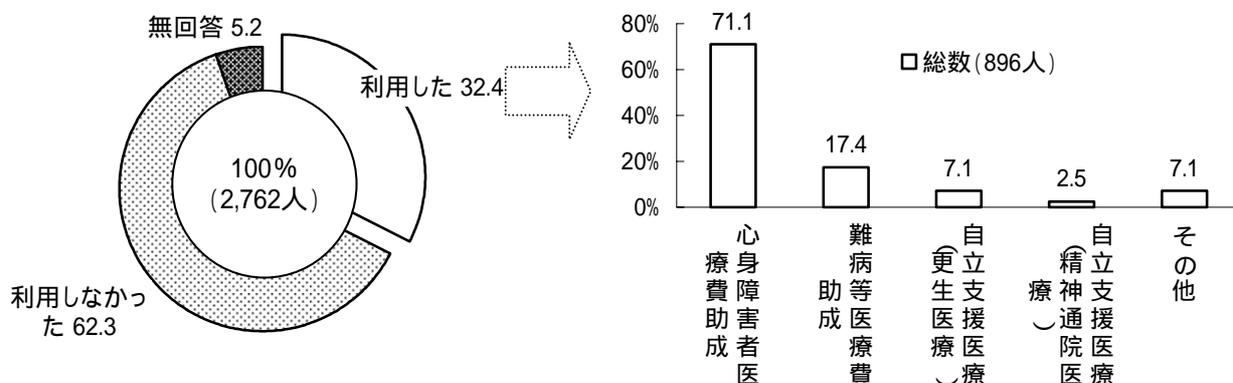
(2) 過去1年間の医療費助成の利用

過去1年間に医療費助成を「利用した」割合は32.4%

過去1年間に医療費助成の利用の割合は「利用した」が32.4%、「利用しなかった」が62.3%であった。「利用した」人（896人）の内、最も割合が高いのは「心身障害者医療費助成」（71.1%）、次いで「難病等医療費助成」（17.4%）となっている。（図 -3-2）

問 あなたは過去1年間に医療費助成を利用しましたか。

図 -3-2 過去1年間の医療費助成の利用



(3) 過去1年間の医療費助成の利用 - 年齢階級別

過去1年間の医療費助成の利用について、年齢階級別にみると「利用した」人は、年齢が高くなるにつれて、割合が減少している。難病等医療費助成を利用した人は40代(8.2%)、50代(9.0%)で総数(5.6%)よりも高いのが目立つ。(表 -3-1)

表 -3-1 過去1年間の医療費助成の利用 - 年齢階級別

	総数	利用した	利用した					その他	利用しなかった	無回答
			療費助成	心身障害者医療	自立支援医療(更生医療)	療(自立支援医療(精神通院医療))	助成			
総数	100.0 (2,762)	32.4	23.1	2.3	0.8	5.6	2.3	62.3	5.2	
29歳以下	100.0 (98)	61.2	55.1	3.1	5.1	2.0	2.0	33.7	5.1	
30～39歳	100.0 (161)	54.7	47.2	3.1	2.5	2.5	1.9	40.4	5.0	
40～49歳	100.0 (196)	47.4	32.7	7.7	1.5	8.2	1.5	46.4	6.1	
50～59歳	100.0 (332)	40.7	28.6	2.7	1.5	9.0	1.8	54.2	5.1	
60～69歳	100.0 (651)	33.0	22.0	1.5	0.6	6.6	3.2	61.8	5.2	
70～79歳	100.0 (876)	23.7	16.6	1.3	-	4.6	2.4	71.5	4.8	
80歳以上	100.0 (448)	21.7	13.4	2.5	0.2	4.7	1.8	72.5	5.8	
(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,693)	24.4	16.6	1.4	0.2	4.8	2.2	70.4	5.2	
15年度調査	100.0 (2,757)	43.5	34.6	0.8	...	6.6	3.2	53.2	3.3	

(注) 前回調査(15年度調査)では「自立支援医療(精神通院医療)」の選択肢は設けていない。

4 日常生活の状況

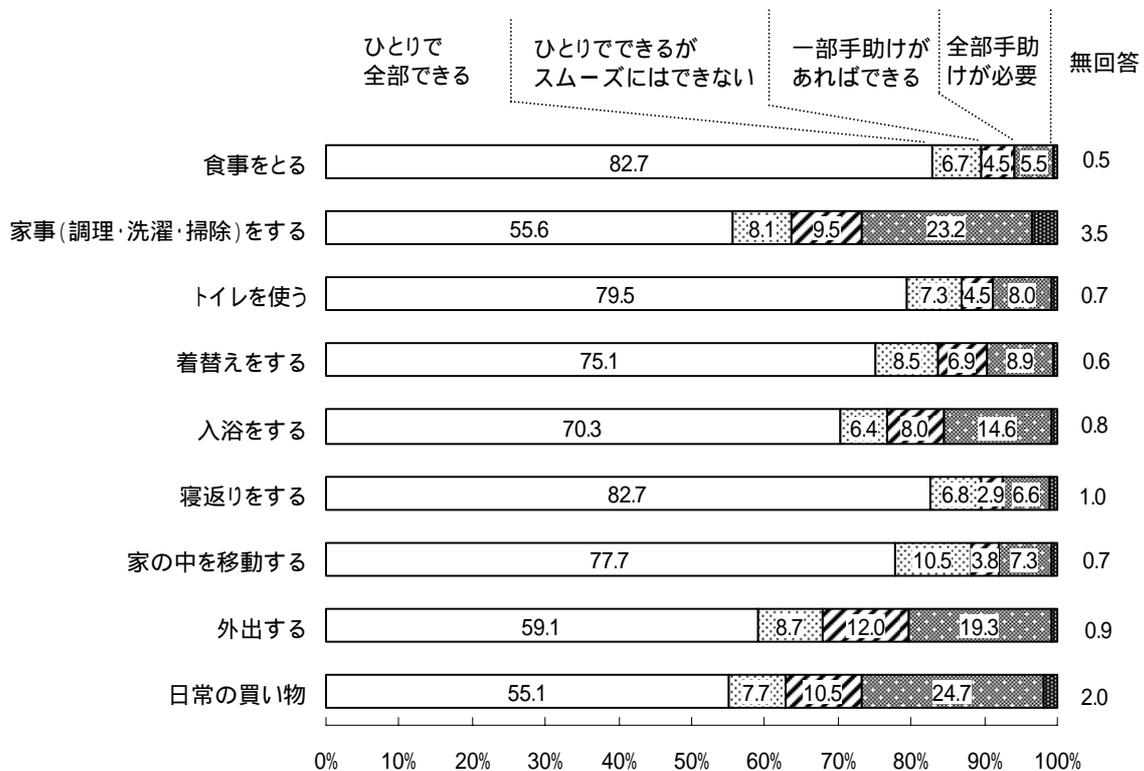
(1) 日常生活動作能力

日常生活動作能力で「ひとりで全部できる」割合が低いのは、日常の買い物と家事（調理・洗濯・掃除）でそれぞれ6割未満

9項目の日常生活動作能力のうち、「ひとりで全部できる」と答えた割合が最も高いのは、食事をする及び寝返りをするで、それぞれ82.7%である。一方、割合が低いのは、日常の買い物の55.1%と、家事（調理・洗濯・掃除）の55.6%となっている。（図 -4-1）

問 あなたは次の動作について、自分一人ですみますか。

図 -4-1 日常生活動作能力



(注)・できる、できないの判断について現に補装具等を使用している人は、使用した状態で聞いている。

・総数は9項目とも2,762人である。

(2) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)
 - 障害を持った時期、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) を障害を持った時期別にみると、「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」について「全部手助けが必要」の割合は、出生前または出生時が最も高く 38.4% であった。

身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別にみると、「a 食事をとる」「c トイレを使う」ことが「ひとりで全部できる」割合は、3 級～6 級の人で 8 割以上となっている。(表 -4-1)

表 -4-1 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) - 障害を持った時期、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

	a 食事をとる						b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする						c トイレを使う								
	総数	きひとりで全部できる	がひとりで全部できる	がひとりで全部できる	一部手助けが必要	全部手助けが必要	無回答	総数	きひとりで全部できる	がひとりで全部できる	がひとりで全部できる	一部手助けが必要	全部手助けが必要	無回答	総数	きひとりで全部できる	がひとりで全部できる	がひとりで全部できる	一部手助けが必要	全部手助けが必要	無回答
総数	100.0 (2,762)	82.7	6.7	4.5	5.5	0.5	100.0 (2,762)	55.6	8.1	9.5	23.2	3.5	100.0 (2,762)	79.5	7.3	4.5	8.0	0.7			
障害を持った時期別	出生前または出生時	100.0 (372)	65.6	8.6	7.8	17.5	0.5	100.0 (372)	41.9	7.5	11.0	38.4	1.1	100.0 (372)	63.4	8.1	8.3	20.2	-		
	0～3歳	100.0 (106)	75.5	6.6	7.5	10.4	-	100.0 (106)	53.8	6.6	12.3	22.6	4.7	100.0 (106)	74.5	5.7	5.7	13.2	0.9		
	4～12歳	100.0 (90)	87.8	4.4	3.3	4.4	-	100.0 (90)	72.2	8.9	2.2	14.4	2.2	100.0 (90)	87.8	4.4	1.1	5.6	1.1		
	13～17歳	100.0 (30)	93.3	-	3.3	3.3	-	100.0 (30)	70.0	6.7	16.7	6.7	-	100.0 (30)	86.7	6.7	3.3	3.3	-		
	18歳～29歳	100.0 (135)	93.3	0.7	2.2	2.2	1.5	100.0 (135)	65.2	5.2	11.9	14.1	3.7	100.0 (135)	88.1	5.2	0.7	3.7	2.2		
	30歳～39歳	100.0 (145)	90.3	6.9	2.1	-	0.7	100.0 (145)	64.8	9.0	9.7	14.5	2.1	100.0 (145)	84.1	11.0	2.8	1.4	0.7		
	40歳～49歳	100.0 (248)	83.5	8.9	4.8	2.0	0.8	100.0 (248)	61.7	9.7	9.7	16.5	2.4	100.0 (248)	83.9	8.9	2.4	4.4	0.4		
	50歳～59歳	100.0 (520)	85.2	7.1	4.4	2.5	0.8	100.0 (520)	60.2	8.8	10.0	17.9	3.1	100.0 (520)	83.5	8.1	4.0	3.8	0.6		
	60歳～69歳	100.0 (578)	87.0	6.1	2.9	3.8	0.2	100.0 (578)	53.8	8.3	8.1	24.4	5.4	100.0 (578)	82.2	5.7	5.7	5.7	0.7		
	70歳以上	100.0 (428)	83.9	7.2	4.2	4.4	0.2	100.0 (428)	53.5	7.5	8.4	26.4	4.2	100.0 (428)	79.2	7.5	4.0	8.9	0.5		
(再掲)65歳以上	100.0 (729)	84.8	7.1	3.4	4.5	0.1	100.0 (729)	53.3	7.8	8.2	25.8	4.7	100.0 (729)	79.6	6.3	5.3	8.2	0.5			
身体障害者手帳の等級別 (総合等級)	1級	100.0 (951)	72.7	8.0	6.5	12.3	0.5	100.0 (951)	46.4	5.6	9.9	34.4	3.8	100.0 (951)	68.0	6.7	7.7	16.8	0.7		
	2級	100.0 (500)	77.2	11.0	7.6	4.2	-	100.0 (500)	42.4	10.8	12.6	31.8	2.4	100.0 (500)	73.8	13.6	5.0	7.2	0.4		
	3級	100.0 (465)	<u>88.0</u>	5.8	3.2	1.9	1.1	100.0 (465)	58.3	12.0	9.7	16.6	3.4	100.0 (465)	<u>86.2</u>	7.7	2.6	2.8	0.6		
	4級	100.0 (531)	<u>93.6</u>	4.0	0.9	0.8	0.8	100.0 (531)	73.4	5.6	6.8	10.0	4.1	100.0 (531)	<u>92.5</u>	4.1	1.1	1.3	0.9		
	5級	100.0 (119)	<u>95.0</u>	4.2	0.8	-	-	100.0 (119)	68.9	11.8	9.2	8.4	1.7	100.0 (119)	<u>90.8</u>	6.7	1.7	0.8	-		
	6級	100.0 (182)	<u>96.7</u>	1.1	1.1	1.1	-	100.0 (182)	73.6	8.8	6.6	8.2	2.7	100.0 (182)	<u>93.4</u>	1.6	2.7	2.2	-		

(3) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)
 - 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) を、障害名別にみると、「a 食事をとる」「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」「c トイレを使う」について「全部手助けが必要」の割合は、肢体不自由 (体幹) と肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) が他の障害よりも高い。

現在一緒に生活している人別にみると「全部手助けが必要」の割合は、親と一緒に暮らしている人及び兄弟姉妹と一緒に生活している人が比較的高くなっている。(表 -4-2)

表 -4-2 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) - 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	a 食事をとる						b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする						c トイレを使う						
	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがスムーズにはできない	ひとりでできるが一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがスムーズにはできない	ひとりでできるが一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ひとりでできるがスムーズにはできない	ひとりでできるが一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	
総数	100.0 (2,762)	82.7	6.7	4.5	5.5	0.5	100.0 (2,762)	55.6	8.1	9.5	23.2	3.5	100.0 (2,762)	79.5	7.3	4.5	8.0	0.7	
身体障害者手帳の障害名 (複数回答) 別	視覚障害 (390)	100.0	80.8	7.9	6.7	4.1	0.5	100.0	49.5	12.6	12.8	21.8	3.3	100.0	85.9	7.9	1.8	3.8	0.5
	聴覚障害 (405)	100.0	95.8	2.0	1.2	0.7	0.2	100.0	78.3	6.7	5.2	7.9	2.0	100.0	94.1	2.5	1.0	2.0	0.5
	平衡機能障害 (15)	100.0	53.3	6.7	20.0	20.0	-	100.0	46.7	6.7	13.3	20.0	13.3	100.0	66.7	6.7	6.7	20.0	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (261)	100.0	82.8	7.3	3.4	5.4	1.1	100.0	63.6	5.4	6.9	18.8	5.4	100.0	87.4	3.4	3.4	5.0	0.8
	肢体不自由 (上肢) (370)	100.0	65.4	15.7	9.5	8.6	0.8	100.0	26.2	10.0	13.0	47.8	3.0	100.0	56.2	17.0	12.7	13.8	0.3
	肢体不自由 (下肢) (518)	100.0	76.6	12.2	4.8	5.8	0.6	100.0	40.7	10.6	11.4	34.2	3.1	100.0	65.6	16.4	7.5	9.3	1.2
	肢体不自由 (体幹) (253)	100.0	55.7	12.3	11.5	<u>20.2</u>	0.4	100.0	14.6	8.7	14.2	<u>57.3</u>	5.1	100.0	42.7	16.2	11.5	<u>29.2</u>	0.4
	肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) (237)	100.0	48.1	12.7	13.1	<u>25.7</u>	0.4	100.0	18.1	10.1	11.0	<u>57.0</u>	3.8	100.0	43.0	11.0	13.9	<u>31.6</u>	0.4
	内部障害 (765)	100.0	93.9	3.1	1.6	0.9	0.5	100.0	74.2	5.0	7.2	10.5	3.1	100.0	91.8	3.3	2.5	1.8	0.7
現在一緒に生活している人 (複数回答) 別	親 (368)	100.0	71.7	6.8	7.6	<u>13.3</u>	0.5	100.0	44.6	8.2	10.6	<u>34.5</u>	2.2	100.0	68.5	7.3	7.1	<u>16.8</u>	0.3
	配偶者 (1,404)	100.0	87.1	6.1	4.0	2.5	0.3	100.0	58.7	8.1	8.8	20.0	4.3	100.0	84.5	6.6	4.1	4.5	0.4
	子ども (791)	100.0	89.8	4.7	3.4	1.9	0.3	100.0	60.1	8.7	9.2	18.7	3.3	100.0	85.0	6.1	4.0	4.3	0.6
	兄弟姉妹 (160)	100.0	73.8	5.0	8.1	<u>12.5</u>	0.6	100.0	44.4	5.6	12.5	<u>33.1</u>	4.4	100.0	69.4	6.3	6.9	<u>16.9</u>	0.6
	その他の親族 (147)	100.0	84.4	3.4	6.1	6.1	-	100.0	51.7	10.9	6.8	27.9	2.7	100.0	76.9	8.2	6.8	8.2	-
	一人で暮らしている (566)	100.0	87.8	8.1	2.1	1.4	0.5	100.0	68.6	9.2	9.7	12.2	0.4	100.0	87.1	8.5	1.9	2.1	0.4

(4) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

- 障害を持った時期、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする) の「e 入浴をする」について「全部手助けが必要」の割合を障害を持った時期別でみると出生前または出生時が 27.2% と高く、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別にみると「1 級」が 25.8% と高くなっている。(表 -4-3)

表 -4-3 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

- 障害を持った時期、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

	d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする							
	総数	きり ひとりで 全部で	でき ない	が ス ム ズ に は る	ひ と り で 可 能 な 部 分 を 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総数	きり ひとりで 全部で	でき ない	が ス ム ズ に は る	ひ と り で 可 能 な 部 分 を 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総数	きり ひとりで 全部で	でき ない	が ス ム ズ に は る	ひ と り で 可 能 な 部 分 を 手 助 け が あ る	要 全 部 手 助 け が 必 要
総数	100.0 (2,762)	75.1	8.5	6.9	8.9	0.6	100.0 (2,762)	70.3	6.4	8.0	14.6	0.8	100.0 (2,762)	82.7	6.8	2.9	6.6	1.0		
障害を持った時期別	出生前または出生時	100.0 (372)	60.8	9.9	7.8	21.5	-	100.0 (372)	57.5	7.0	8.1	<u>27.2</u>	0.3	100.0 (372)	74.7	8.9	1.6	14.8	-	
	0~3歳	100.0 (106)	68.9	9.4	4.7	17.0	-	100.0 (106)	65.1	6.6	11.3	17.0	-	100.0 (106)	79.2	3.8	6.6	8.5	1.9	
	4~12歳	100.0 (90)	86.7	3.3	2.2	6.7	1.1	100.0 (90)	84.4	3.3	2.2	8.9	1.1	100.0 (90)	90.0	2.2	1.1	5.6	1.1	
	13~17歳	100.0 (30)	83.3	6.7	6.7	3.3	-	100.0 (30)	83.3	10.0	3.3	3.3	-	100.0 (30)	86.7	3.3	-	3.3	6.7	
	18歳~29歳	100.0 (135)	88.1	5.2	3.0	2.2	1.5	100.0 (135)	84.4	3.7	5.2	5.2	1.5	100.0 (135)	91.9	3.7	-	3.0	1.5	
	30歳~39歳	100.0 (145)	77.9	10.3	7.6	2.8	1.4	100.0 (145)	73.8	10.3	10.3	5.5	-	100.0 (145)	83.4	10.3	4.8	1.4	-	
	40歳~49歳	100.0 (248)	76.2	13.3	4.8	5.2	0.4	100.0 (248)	76.2	8.1	5.2	10.1	0.4	100.0 (248)	84.7	7.7	1.2	5.6	0.8	
	50歳~59歳	100.0 (520)	79.6	6.9	7.9	4.8	0.8	100.0 (520)	74.0	4.6	7.7	12.9	0.8	100.0 (520)	85.0	6.2	4.0	3.7	1.2	
	60歳~69歳	100.0 (578)	75.4	9.2	8.1	6.9	0.3	100.0 (578)	68.7	7.8	10.4	12.8	0.3	100.0 (578)	81.8	7.6	3.8	5.5	1.2	
	70歳以上	100.0 (428)	76.0	6.5	7.6	9.5	0.5	100.0 (428)	67.9	5.5	8.1	16.6	1.8	100.0 (428)	83.8	5.8	2.3	7.4	0.7	
(再掲)65歳以上	100.0 (729)	75.3	7.1	8.2	9.0	0.4	100.0 (729)	68.3	5.6	9.4	15.5	1.2	100.0 (729)	83.4	6.3	2.9	6.8	0.7		
身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別	1級	100.0 (951)	65.0	6.9	8.8	18.5	0.7	100.0 (951)	60.1	4.5	8.8	<u>25.8</u>	0.7	100.0 (951)	74.4	6.7	5.0	12.8	0.9	
	2級	100.0 (500)	64.4	16.4	9.8	9.0	0.4	100.0 (500)	61.0	9.6	11.4	17.6	0.4	100.0 (500)	76.8	11.0	3.8	7.6	0.8	
	3級	100.0 (465)	80.9	9.2	5.8	3.4	0.6	100.0 (465)	74.4	8.2	8.6	7.7	1.1	100.0 (465)	88.2	6.5	1.5	3.0	0.9	
	4級	100.0 (531)	89.8	4.9	3.6	1.1	0.6	100.0 (531)	85.1	5.6	4.3	4.0	0.9	100.0 (531)	92.8	4.5	0.4	0.9	1.3	
	5級	100.0 (119)	84.0	10.1	5.0	0.8	-	100.0 (119)	82.4	7.6	6.7	3.4	-	100.0 (119)	89.9	6.7	0.8	1.7	0.8	
	6級	100.0 (182)	92.3	3.3	2.7	1.6	-	100.0 (182)	87.9	4.9	3.3	3.3	0.5	100.0 (182)	95.1	3.8	-	0.5	0.5	

(5) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

- 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする) の「e 入浴をする」について「全部手助けが必要」の割合を身体障害者手帳の障害名別にみると肢体不自由 (体幹) の割合が高く (46.2%)、また「f 寝返りをする」についても「全部手助けが必要」の割合は肢体不自由 (体幹) が高くなっている。 (24.1%)

表 -4-4 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

- 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする										
	総数	ひとりで全部できる	ムひとりズにはできないがス	ムひとりズにはできないがス	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ムひとりズにはできないがス	ムひとりズにはできないがス	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	ひとりで全部できる	ムひとりズにはできないがス	ムひとりズにはできないがス	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答		
総数	100.0 (2,762)	75.1	8.5	6.9	8.9	0.6	100.0 (2,762)	70.3	6.4	8.0	14.6	0.8	100.0 (2,762)	82.7	6.8	2.9	6.6	1.0					
身体障害者手帳の障害名 (複数回答) 別	視覚障害	100.0 (390)	81.8	9.5	3.1	4.6	1.0	100.0 (390)	78.7	7.2	6.2	7.2	0.8	100.0 (390)	88.7	6.2	1.3	2.6	1.3				
	聴覚障害	100.0 (405)	93.6	2.7	1.7	1.7	0.2	100.0 (405)	89.1	3.5	3.0	3.7	0.7	100.0 (405)	96.0	2.7	-	1.0	0.2				
	平衡機能障害	100.0 (15)	66.7	6.7	-	26.7	-	100.0 (15)	60.0	13.3	-	26.7	-	100.0 (15)	73.3	6.7	-	20.0	-				
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	82.4	5.7	4.6	6.5	0.8	100.0 (261)	76.6	6.1	7.7	8.8	0.8	100.0 (261)	88.5	4.2	0.8	5.7	0.8				
	肢体不自由 (上肢)	100.0 (370)	43.8	17.0	20.5	18.1	0.5	100.0 (370)	37.6	10.8	17.0	34.3	0.3	100.0 (370)	58.1	17.3	8.4	15.4	0.8				
	肢体不自由 (下肢)	100.0 (518)	59.7	16.2	12.2	10.8	1.2	100.0 (518)	51.0	11.0	13.9	22.8	1.4	100.0 (518)	69.7	11.8	6.4	11.0	1.2				
	肢体不自由 (体幹)	100.0 (253)	33.6	13.8	20.6	32.0	-	100.0 (253)	26.5	8.7	18.2	46.2	0.4	100.0 (253)	49.8	15.4	8.7	24.1	2.0				
	肢体不自由 (乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	36.7	15.2	13.9	34.2	-	100.0 (237)	33.8	8.0	15.6	42.2	0.4	100.0 (237)	60.3	12.7	5.1	21.5	0.4				
	内部障害	100.0 (765)	90.3	3.7	3.1	2.4	0.5	100.0 (765)	86.1	3.4	4.6	5.2	0.7	100.0 (765)	92.8	3.1	1.7	1.4	0.9				
現在一緒に生活している人 (複数回答) 別	親	100.0 (368)	64.4	9.8	8.2	17.4	0.3	100.0 (368)	61.4	7.9	9.5	20.7	0.5	100.0 (368)	79.9	7.1	2.2	10.3	0.5				
	配偶者	100.0 (1,404)	78.7	7.9	7.3	5.7	0.4	100.0 (1,404)	75.3	5.6	8.3	10.4	0.4	100.0 (1,404)	85.8	6.3	3.0	4.3	0.7				
	子ども	100.0 (791)	81.2	5.8	7.6	4.8	0.6	100.0 (791)	76.9	5.1	8.0	9.4	0.8	100.0 (791)	87.6	5.4	2.5	3.8	0.6				
	兄弟姉妹	100.0 (160)	66.9	6.9	8.1	17.5	0.6	100.0 (160)	61.9	6.9	5.6	24.4	1.3	100.0 (160)	80.6	6.3	2.5	10.0	0.6				
	その他の親族	100.0 (147)	71.4	8.2	10.2	9.5	0.7	100.0 (147)	64.6	6.8	13.6	15.0	-	100.0 (147)	85.0	5.4	4.8	4.8	-				
	一人で暮らしている	100.0 (566)	82.7	10.6	3.0	3.2	0.5	100.0 (566)	75.6	9.4	5.3	9.0	0.7	100.0 (566)	86.2	8.1	1.4	2.8	1.4				

(6) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物)

- 障害を持った時期、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物) を障害を持った時期別にみると、「i 日常の買い物」について「全部手助けが必要」の割合は、出生前または出生時が最も高く 34.7% であった。

身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別にみると「i 日常の買い物」について「全部手助けが必要」の割合は、1 級 (35.0%)、2 級 (35.6%) で約 3 人に 1 人となっている。(表 -4-5)

表 -4-5 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物)

- 障害を持った時期、身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

	g 家の中を移動する						h 外出する						i 日常の買い物											
	総数	きり	ひとり	でき	がス	ひとり	全部	無	総数	きり	ひとり	でき	がス	ひとり	全部	無	総数	きり	ひとり	でき	がス	ひとり	全部	無
	数	り	り	ない	ム	り	手	回	数	り	り	ない	ム	り	手	回	数	り	り	ない	ム	り	手	回
		で	は	は	は	あ	必	答		で	は	は	は	あ	必	答		で	は	は	は	あ	必	答
総数	100.0 (2,762)	77.7	10.5	3.8	7.3	0.7			100.0 (2,762)	59.1	8.7	12.0	19.3	0.9			100.0 (2,762)	55.1	7.7	10.5	24.7	2.0		
障害を持った時期別	出生前または出生時	100.0 (372)	67.2	11.6	5.4	15.6	0.3		100.0 (372)	46.0	8.1	15.3	30.4	0.3			100.0 (372)	43.8	6.7	14.0	<u>34.7</u>	0.8		
	0~3歳	100.0 (106)	76.4	7.5	5.7	10.4	-		100.0 (106)	60.4	6.6	13.2	19.8	-			100.0 (106)	58.5	4.7	13.2	21.7	1.9		
	4~12歳	100.0 (90)	88.9	4.4	-	5.6	1.1		100.0 (90)	72.2	5.6	6.7	14.4	1.1			100.0 (90)	66.7	7.8	7.8	14.4	3.3		
	13~17歳	100.0 (30)	80.0	13.3	3.3	3.3	-		100.0 (30)	60.0	23.3	6.7	10.0	-			100.0 (30)	60.0	13.3	10.0	16.7	-		
	18歳~29歳	100.0 (135)	88.1	4.4	0.7	4.4	2.2		100.0 (135)	74.1	3.0	10.4	11.1	1.5			100.0 (135)	66.7	7.4	7.4	17.0	1.5		
	30歳~39歳	100.0 (145)	82.8	11.7	4.1	1.4	-		100.0 (145)	57.9	13.8	16.6	11.7	-			100.0 (145)	55.2	12.4	14.5	17.9	-		
	40歳~49歳	100.0 (248)	79.0	13.3	0.8	5.6	1.2		100.0 (248)	64.1	10.5	9.7	14.9	0.8			100.0 (248)	59.3	8.1	11.7	20.2	0.8		
	50歳~59歳	100.0 (520)	81.3	9.8	3.7	4.6	0.6		100.0 (520)	63.3	8.5	11.3	15.8	1.2			100.0 (520)	61.9	6.5	8.1	21.0	2.5		
	60歳~69歳	100.0 (578)	78.0	11.6	4.2	5.7	0.5		100.0 (578)	60.4	7.4	11.6	19.9	0.7			100.0 (578)	54.8	6.7	10.2	26.1	2.1		
	70歳以上	100.0 (428)	75.5	11.0	4.9	7.7	0.9		100.0 (428)	55.6	10.5	11.7	20.6	1.6			100.0 (428)	49.3	10.0	9.1	28.0	3.5		
(再掲)65歳以上	100.0 (729)	76.4	10.3	5.2	7.4	0.7		100.0 (729)	57.2	9.6	10.7	21.3	1.2			100.0 (729)	51.4	8.5	9.3	28.1	2.6			
身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別	1級	100.0 (951)	68.2	9.4	5.9	15.5	1.1		100.0 (951)	48.7	6.8	12.7	30.6	1.2			100.0 (951)	44.6	6.1	11.3	<u>35.0</u>	3.0		
	2級	100.0 (500)	71.0	16.0	5.6	7.0	0.4		100.0 (500)	43.6	11.2	17.8	26.6	0.8			100.0 (500)	38.8	10.8	13.0	<u>35.6</u>	1.8		
	3級	100.0 (465)	82.6	12.5	1.3	3.0	0.6		100.0 (465)	68.0	8.8	11.8	10.8	0.6			100.0 (465)	62.2	8.4	9.9	18.3	1.3		
	4級	100.0 (531)	91.0	6.4	0.9	0.9	0.8		100.0 (531)	76.3	8.5	7.3	7.2	0.8			100.0 (531)	72.9	6.6	9.0	10.0	1.5		
	5級	100.0 (119)	82.4	16.0	1.7	-	-		100.0 (119)	66.4	16.0	10.9	5.9	0.8			100.0 (119)	63.9	15.1	6.7	13.4	0.8		
	6級	100.0 (182)	91.2	4.4	3.8	0.5	-		100.0 (182)	80.2	7.7	6.0	5.5	0.5			100.0 (182)	79.7	5.5	7.1	7.7	-		

(7) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物)

- 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物) を障害名別にみると、肢体不自由 (体幹) では「h 外出をする」(55.3%)、「i 日常の買い物」(65.6%) の割合が高くなっている。(表 -4-6)

表 -4-6 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出をする i 日常の買い物) -

- 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	g 家の中を移動する						h 外出する						i 日常の買い物							
	総数	ひとり きと り で 全 部 で	でき ない は ず に は る	ひ と り で 可 能 な は ず に は る	一 部 手 助 け が あ る	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総数	ひとり き と り で 全 部 で	でき ない は ず に は る	ひ と り で 可 能 な は ず に は る	一 部 手 助 け が あ る	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総数	ひとり き と り で 全 部 で	でき ない は ず に は る	ひ と り で 可 能 な は ず に は る	一 部 手 助 け が あ る	全 部 手 助 け が 必 要
総数	100.0 (2,762)	77.7	10.5	3.8	7.3	0.7	100.0 (2,762)	59.1	8.7	12.0	19.3	0.9	100.0 (2,762)	55.1	7.7	10.5	24.7	2.0		
身体障害者手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害	100.0 (390)	81.5	11.3	2.6	3.8	0.8	100.0 (390)	44.1	10.5	23.3	20.5	1.5	100.0 (390)	41.5	10.5	16.9	29.2	1.8	
	聴覚障害	100.0 (405)	93.1	3.7	1.2	1.7	0.2	100.0 (405)	80.0	6.9	6.4	6.4	0.2	100.0 (405)	76.8	7.9	6.9	7.9	0.5	
	平衡機能障害	100.0 (15)	60.0	13.3	6.7	20.0	-	100.0 (15)	53.3	6.7	13.3	26.7	-	100.0 (15)	40.0	6.7	20.0	26.7	6.7	
	音声機能・言語機能・ そしゃく機能の障害	100.0 (261)	86.6	5.4	1.1	6.1	0.8	100.0 (261)	72.0	6.9	8.8	11.5	0.8	100.0 (261)	65.9	6.9	8.8	15.7	2.7	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	55.1	20.8	8.4	14.9	0.8	100.0 (370)	38.1	8.9	13.2	39.5	0.3	100.0 (370)	33.0	7.0	11.9	46.2	1.9	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	61.2	21.0	6.0	10.2	1.5	100.0 (518)	44.8	11.6	13.9	28.8	1.0	100.0 (518)	41.9	8.3	12.2	35.3	2.3	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	39.1	22.9	10.7	26.1	1.2	100.0 (253)	19.8	7.9	15.4	<u>55.3</u>	1.6	100.0 (253)	13.8	7.1	9.9	<u>65.6</u>	3.6	
	肢体不自由(乳幼児期以前の 非進行性の脳病変による 脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	49.8	15.6	9.7	24.5	0.4	100.0 (237)	28.3	8.0	19.8	43.9	-	100.0 (237)	25.3	7.2	18.6	47.3	1.7	
内部障害	100.0 (765)	90.5	4.8	2.0	2.1	0.7	100.0 (765)	76.5	6.8	8.2	7.5	1.0	100.0 (765)	72.7	5.9	7.3	12.0	2.1		
(複数回答)別 現在一緒に生活している人	親	100.0 (368)	72.0	10.3	4.9	12.2	0.5	100.0 (368)	52.4	8.7	12.8	25.5	0.5	100.0 (368)	49.7	7.3	12.5	29.1	1.4	
	配偶者	100.0 (1,404)	81.5	9.8	3.6	4.7	0.5	100.0 (1,404)	62.6	8.7	13.0	15.0	0.8	100.0 (1,404)	58.3	7.3	10.4	21.9	2.1	
	子ども	100.0 (791)	81.4	10.1	4.0	3.9	0.5	100.0 (791)	62.8	7.7	13.5	15.0	0.9	100.0 (791)	59.3	6.8	11.4	20.9	1.6	
	兄弟姉妹	100.0 (160)	74.4	8.8	5.0	10.6	1.3	100.0 (160)	51.9	10.0	10.0	27.5	0.6	100.0 (160)	46.3	8.1	10.6	33.1	1.9	
	その他の親族	100.0 (147)	72.8	12.9	7.5	6.8	-	100.0 (147)	56.5	7.5	11.6	23.8	0.7	100.0 (147)	54.4	5.4	10.9	29.3	-	
	一人で暮らしている	100.0 (566)	83.2	12.5	1.6	2.1	0.5	100.0 (566)	68.2	10.4	9.5	11.5	0.4	100.0 (566)	64.5	9.9	9.5	15.2	0.9	

5 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在） - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

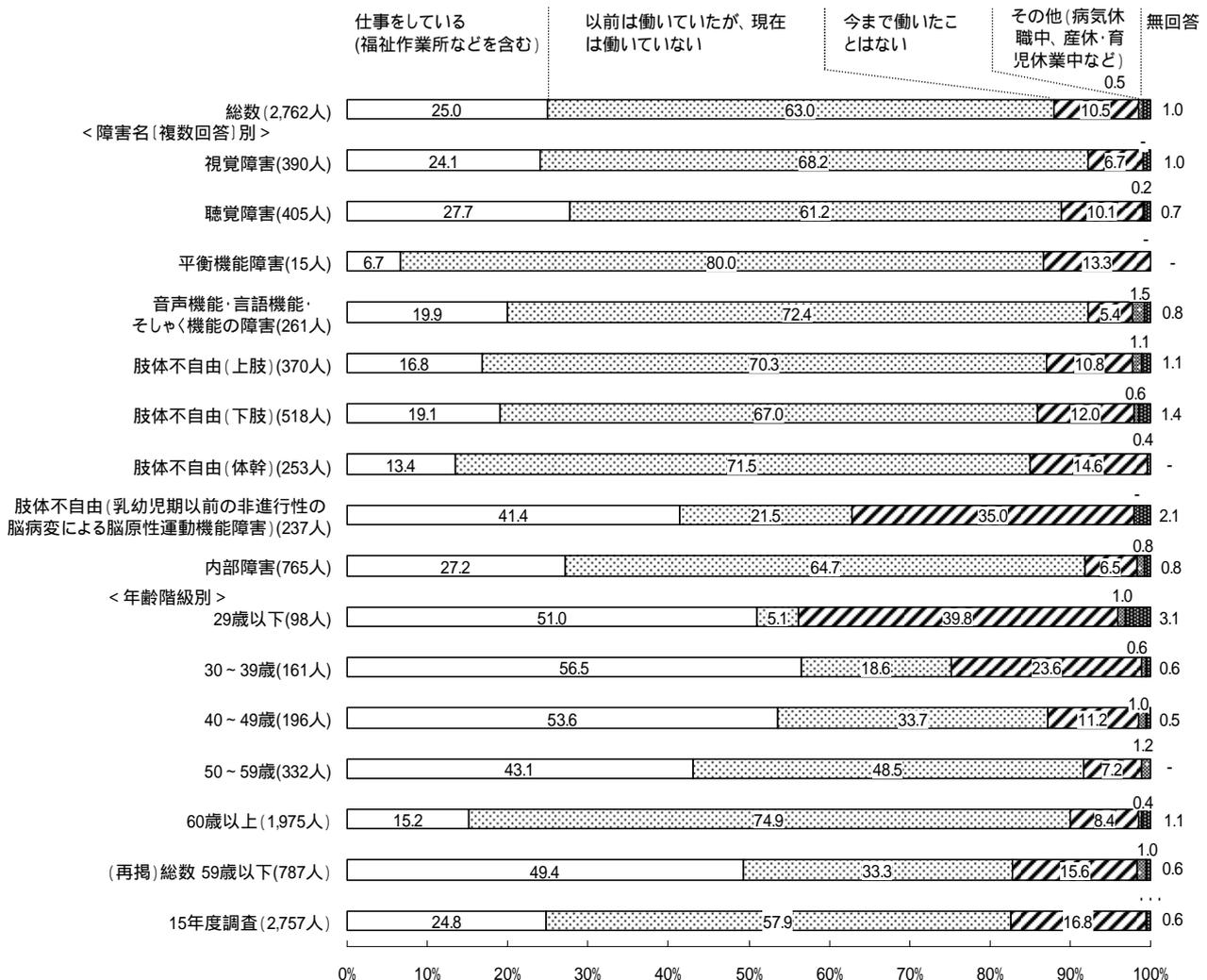
「^{しごと}仕事をしている（^{ふくしきぎょうしょ}福祉作業所などを含む）」人は ^{ひと}59歳以下では ^{さいい}49.4%

収入を伴う仕事の有無は「仕事をしている（福祉作業所などを含む）」割合が25.0%、「以前は働いていたが現在は働いていない」が63.0%、「今まで働いたことはない」は10.5%であった。障害名別にみると、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では、「仕事をしている（福祉作業所などを含む）」割合（41.4%）と「今まで働いたことはない」割合（35.0%）が他の障害よりも高くなっている。

年齢階級別にみると「仕事をしている（福祉作業所などを含む）」割合は、59歳以下で49.4%と5割近い。（図 -5-1）

と
問 あなたは平成20年10月15日（調査基準日）現在、収入を伴う仕事をしていますか。

図 -5-1 収入を伴う仕事の有無 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別



(注) 前回調査 (15年度調査) では「その他 (病気休職中、産休、育児休業中など)」の選択肢は設けていない。

(2) 仕事の種類〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

調査基準日現在、「仕事をしている（福祉作業所など含む）」と回答した 690 人が対象

前回調査よりも一般就労（正規の職員、アルバイト等）の割合が 14.9 ポイント上昇

仕事の種類を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が 29.3%、「会社等の役員」が 5.7%、「パート・アルバイト・日雇等」が 29.0%で、これらを合わせた一般就労の割合は 63.9%であった。前回調査(15年度調査)の「正規の職員・従業員」と「パート・アルバイト・日雇等」を合わせた一般就労の割合(49.0%)よりも 14.9 ポイント上昇した。一方、「作業所・授産施設等で就労」の割合は 12.0%で、前回調査(15年度調査)(12.4%)よりも 0.4 ポイント減少した。障害名別にみると一般就労(「正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等」)の割合は、聴覚障害の割合が 74.1%と最も高く、「作業所・授産施設等で就労」は肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)の割合が 51.0%と最も高い。(表 -5-1)

問 仕事の種類は何ですか。

表 -5-1 仕事の種類〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	派遣職員・契約職員を含む	パート・アルバイト・日雇等	自営業	家庭の手伝い	内職	就労施設等で授産作業所等	その他	無回答
総数	100.0 (690)	29.3	5.7	29.0	18.1	2.2	0.9	12.0	2.6	0.7	
		63.9									
身体障害者手帳の障害名(複数回答)別	視覚障害	100.0 (94)	29.8	8.5	26.6	28.7	-	-	4.3	4.3	-
	聴覚障害	100.0 (112)	39.3	3.6	31.3	8.9	1.8	1.8	8.9	4.5	-
			74.1								
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (52)	25.0	7.7	38.5	15.4	-	1.9	11.5	-	-
	肢体不自由(上肢)	100.0 (62)	27.4	8.1	30.6	11.3	-	1.6	21.0	-	-
	肢体不自由(下肢)	100.0 (99)	29.3	3.0	28.3	16.2	4.0	1.0	15.2	2.0	1.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (34)	20.6	11.8	14.7	17.6	5.9	2.9	20.6	2.9	2.9
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (98)	25.5	-	16.3	3.1	-	1.0	51.0	2.0	1.0
内部障害	100.0 (208)	26.0	7.2	31.3	26.4	3.4	1.0	2.4	1.9	1.0	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (50)	32.0	2.0	32.0	-	-	-	34.0	2.0	-
	30～39歳	100.0 (91)	50.5	1.1	17.6	5.5	2.2	-	20.9	-	2.2
	40～49歳	100.0 (105)	48.6	-	21.0	5.7	-	-	22.9	1.9	-
	50～59歳	100.0 (143)	34.3	6.3	31.5	16.1	2.8	-	7.0	2.1	-
	60歳以上	100.0 (301)	13.2	9.3	33.6	30.2	3.0	2.0	4.3	4.0	1.0
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (201)	8.0	10.4	33.3	32.3	3.5	2.5	4.5	5.0	1.0
15年度調査	100.0 (683)	34.4	...	14.6	29.4	2.6	1.6	12.4	4.8	0.9	
		49.0									

(注)・前回調査(15年度調査)では「会社等の役員」は「正規の職員・従業員」に含めて聞いている。

・本文中のパート・アルバイト・日雇等には派遣職員・契約職員を含む。

(3) 1週間の就労日数 - 障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

調査基準日現在、「仕事をしている（福祉作業所など含む）」と回答した690人が対象

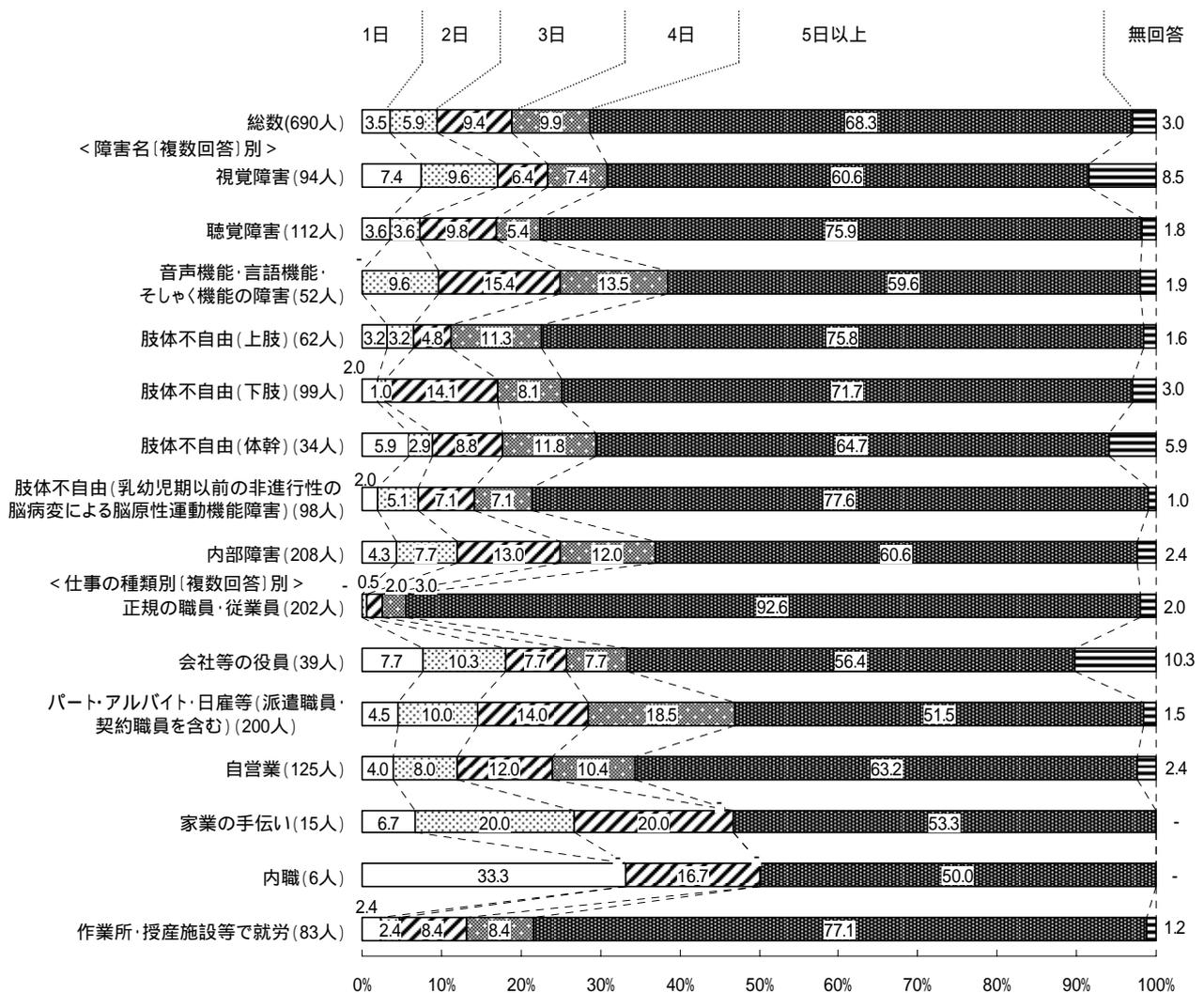
1週間の就労日数は「5日以上」が68.3%

「仕事をしている（福祉作業所など含む）」と回答した人（690人）に1週間の就労日数を聞いたところ、最も割合が高かったのは「5日以上」の68.3%であった。

障害名別にみると「5日以上」の割合が最も高いのは、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）の77.6%、次いで聴覚障害の75.9%、肢体不自由（上肢）の75.8%と続く。仕事の種類別にみると「5日以上」の割合が最も高いのは、正規の職員・従業員での92.6%、次いで作業所・授産施設等で就労の77.1%と続く。（図-5-2）

問 1週間の就労日数はどのくらいですか。

図 -5-2 1週間の就労日数 - 障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別



(4) 1週間の労働時間 - 障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

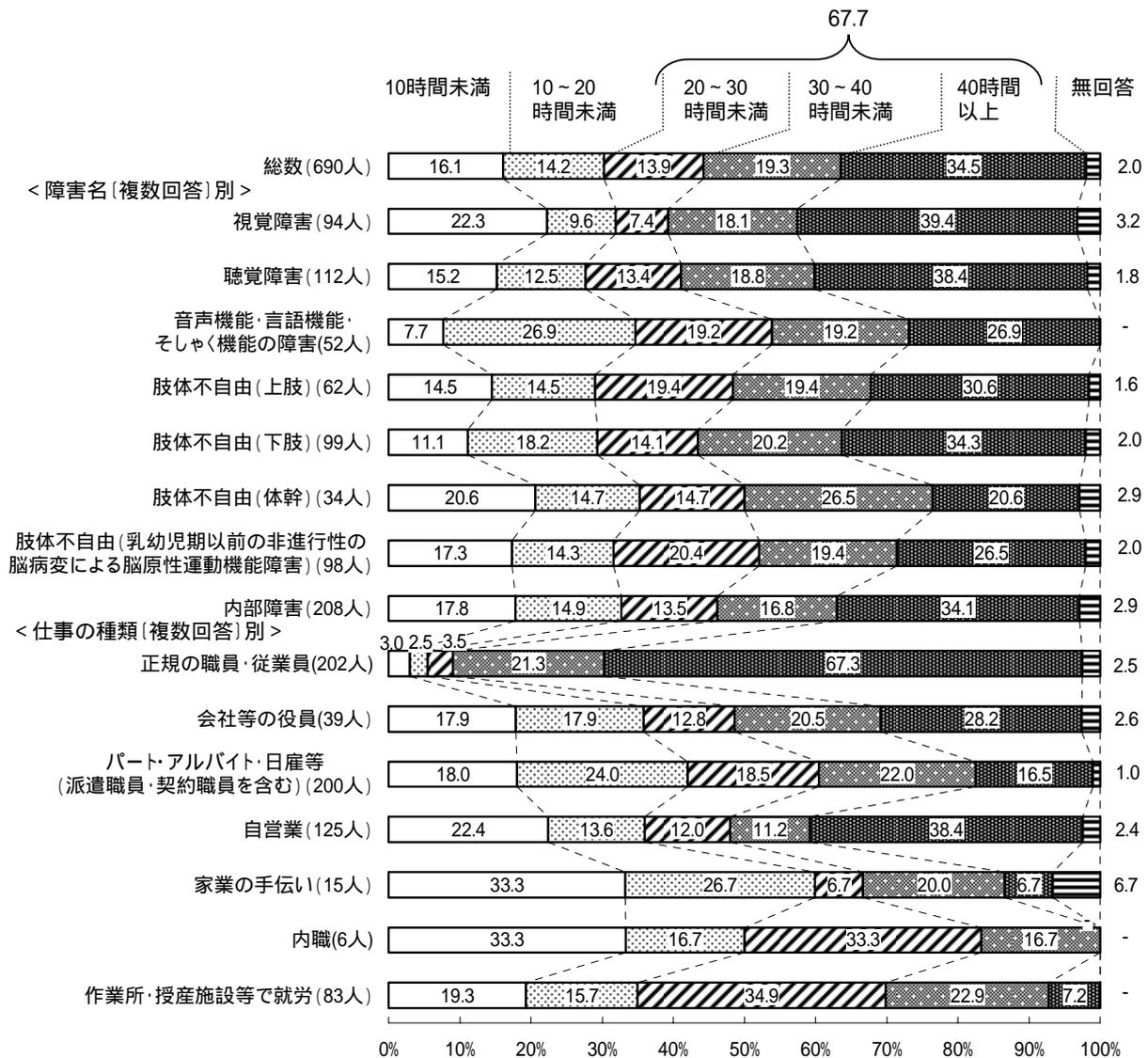
調査基準日現在、「仕事をしている（福祉作業所など含む）」と回答した690人が対象

1週間に20時間以上労働している人の割合は67.7%で、作業所・授産施設等では「20～30時間未満」の割合が最も高い

1週間の労働時間をみると「40時間以上」の割合が最も高く34.5%、次いで「30～40時間未満」が19.3%であった。「20時間以上」労働している割合は67.7%となっている。障害名別にみると、「40時間以上」の割合が高いのは、視覚障害(39.4%)、聴覚障害(38.4%)で4割弱である。仕事の種類別にみると、作業所・授産施設で就労している人は「20～30時間未満」の割合が34.9%と最も高い。(図 -5-3)

問 1週間の労働時間はどのくらいですか。

図 -5-3 1週間の労働時間 - 障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

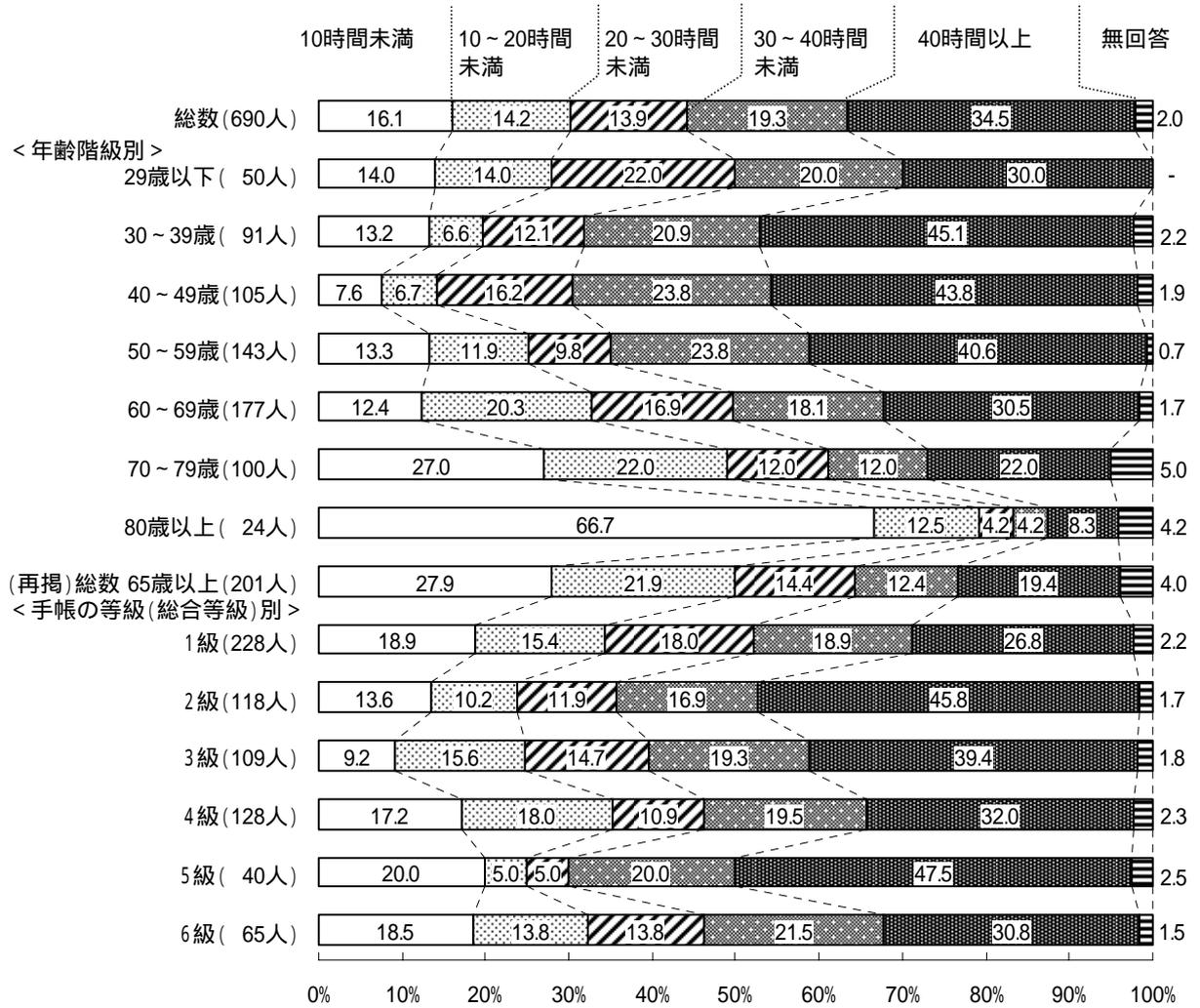


(5) 1 週間の労働時間 - 年齢階級、手帳の等級 (総合等級) 別

1 週間の労働時間を年齢階級別にみると、40 代では、20 時間以上の割合が 83.8% と高い。

(図 -5-4)

図 -5-4 1 週間の労働時間 - 年齢階級、手帳の等級 (総合等級) 別



(6) 就職した時期 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

仕事をしている(福祉作業所など含む)と回答した人の内、仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む)の仕事をしている441人が対象

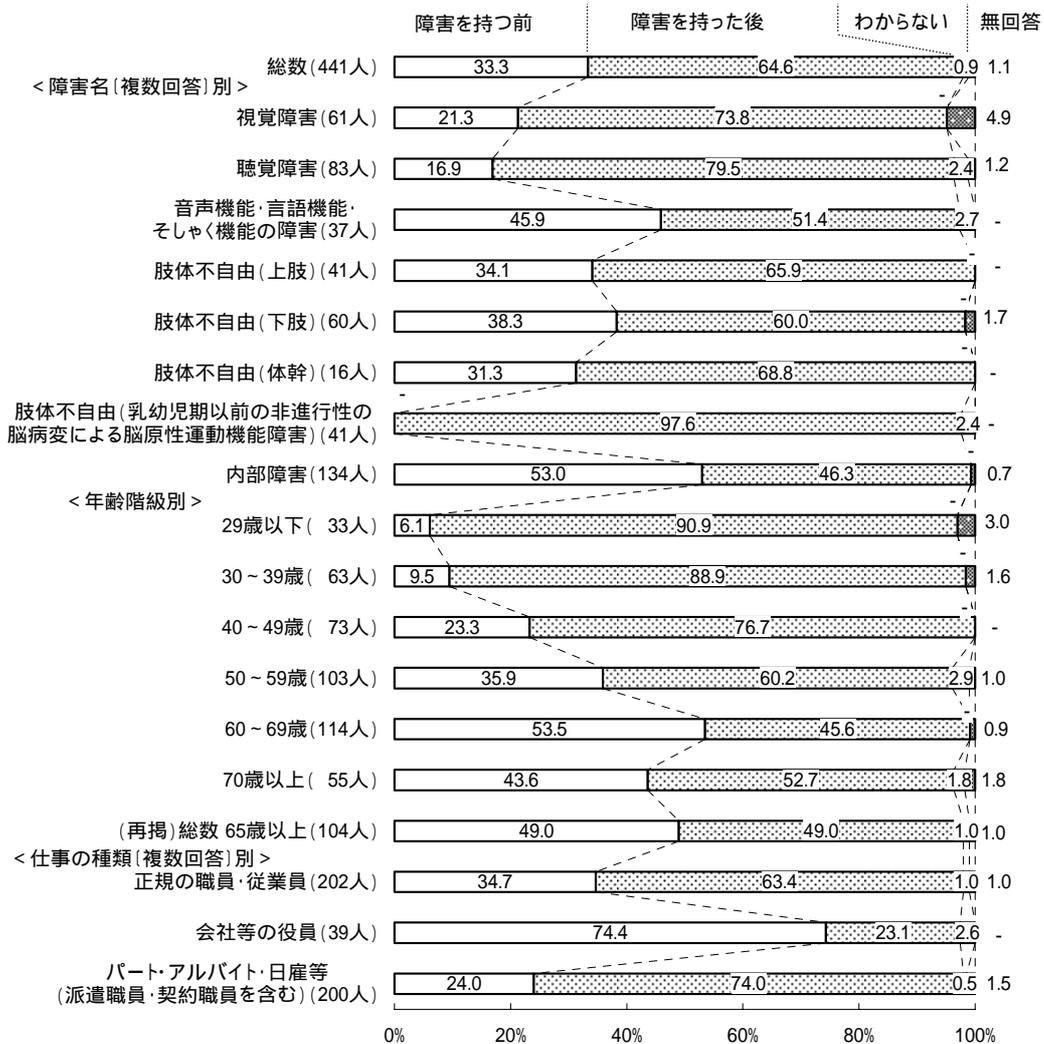
現在の就職先に就職をした時期は「障害を持った後」が64.6%

現在の就職先に就職したのは障害を持つ前か、それとも持った後か聞いたところ、「障害を持つ前」が33.3%、「障害を持った後」が64.6%であった。

年齢階級別にみると、「障害を持った後」に就職をした人は、70歳以上の階級を除き年齢が高くなるにつれて、割合が減少している。一方、「障害を持つ前」に就職をした人は、70歳以上の階級を除き年齢が高くなるにつれて、割合が増加している。(図 -5-5)

問 現在の就職先に就職したのは障害を持つ前ですか、それとも持った後ですか。

図 -5-5 就職した時期 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別



(7) 就職をするために支援を受けたところ(人)[複数回答]

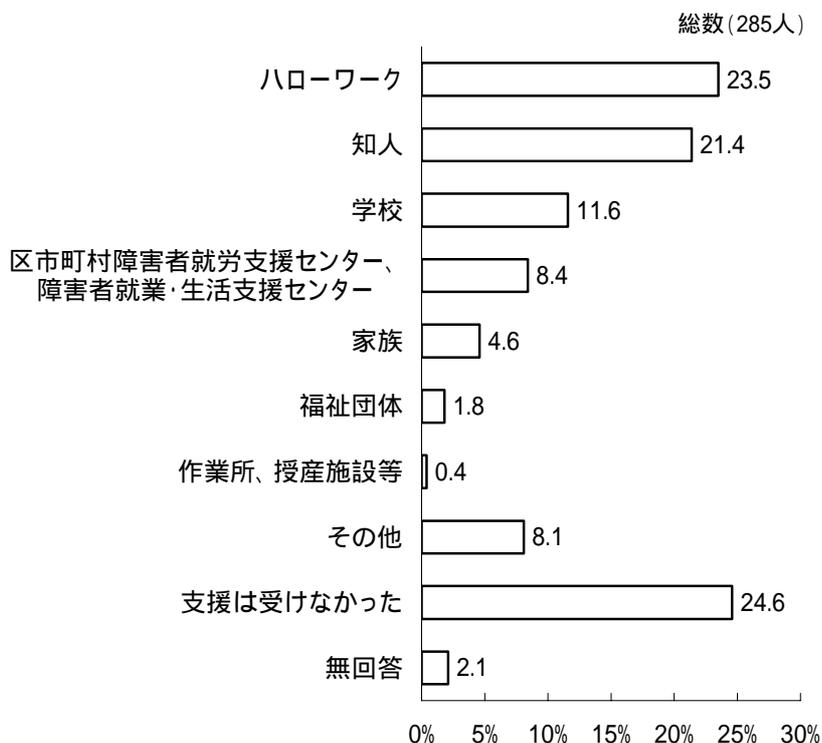
仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等(契約職員、派遣職員を含む)の仕事をしている人(441人)の内、障害を持った後に現在の就職先に就職した285人が対象

就職をするために支援を受けたところは「ハローワーク」が23.5%

どこ(誰)の支援を受けて仕事に就いたか聞いたところ、最も割合が高かったのは「ハローワーク」で23.5%、次いで「知人」21.4%、「学校」11.6%と続いた。(図 -5-6)

問 どこ(誰)の支援を受けて現在の仕事に就きましたか。

図 -5-6 就職をするために支援を受けたところ(人)[複数回答]



(8) 現在の仕事に就いてからの期間 - 年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む）である 441 人が対象

現在の仕事に就いてからの期間は「10年以上」が 47.6%

現在の仕事に就いてからの期間を聞いたところ、最も高い割合は「10年以上」の 47.6%、次いで「5年以上 10年未満」19.7%、「1年以上 3年未満」14.5%と続いた。

年齢階級別にみると、29歳以下では「1年以上 3年未満」の割合が高く 30.3%、40歳以上の年齢階級では、「10年以上」の割合が全ての階級で5割を超えている。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員及び会社等の役員は「10年以上」の割合が6割以上だが、パート・アルバイト・日雇等（派遣職員・契約職員を含む）は「10年以上」の割合が 29.0%、「5年以上 10年未満」の割合が 28.0%、「1年以上 3年未満」の割合も 21.5%と2割を超えている。（表 -5-2）

問 現在の仕事に就いてからの期間はどれくらいですか。

表 -5-2 現在の仕事に就いてからの期間 - 年齢階級、仕事の種類〔複数回答〕別

		総数	3か月未満	6か月未満以上	1年未満以上	1年以上3年未満以上	3年以上5年未満以上	5年以上10年未満以上	10年以上	無回答
総数		100.0 (441)	2.5	2.5	5.0	14.5	6.1	19.7	47.6	2.0
年齢階級別	29歳以下	100.0 (33)	6.1	6.1	12.1	30.3	21.2	12.1	6.1	3.0
	30～39歳	100.0 (63)	3.2	4.8	3.2	17.5	6.3	27.0	36.5	1.6
	40～49歳	100.0 (73)	4.1	2.7	5.5	11.0	5.5	12.3	56.2	2.7
	50～59歳	100.0 (103)	1.9	2.9	1.9	12.6	7.8	19.4	53.4	-
	60～69歳	100.0 (114)	0.9	-	7.9	14.9	1.8	21.1	53.5	-
	70歳以上	100.0 (55)	1.8	1.8	1.8	7.3	3.6	23.6	50.9	9.1
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (104)	1.9	1.0	4.8	9.6	3.8	24.0	50.0	4.8
仕事の種類別 (複数回答)	正規の職員・従業員	100.0 (202)	2.0	1.5	4.5	8.9	5.9	12.4	62.4	2.5
	会社等の役員	100.0 (39)	-	-	-	7.7	5.1	15.4	66.7	5.1
	パート・アルバイト・日雇等 (派遣職員・契約職員を含む)	100.0 (200)	3.5	4.0	6.5	21.5	6.5	28.0	29.0	1.0

(9) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別
 仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む）である 441 人が対象

仕事をしていく上で困ることは、総数では「定期的な通院や健康管理との両立」の割合が最も高いが、障害の種類によって困ることが異なる

仕事をしていく上で「困ることがある」と答えた割合は 55.3%、「困ることは特にはない」が 43.5%であった。困ることの内容は、「定期的な通院や健康管理との両立」の割合が 12.2%と最も高い。障害名別にみると、視覚障害では「通勤時の混雑」(21.3%)の割合が他の障害よりも高く、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「言いたいことを伝える手段・方法がない」(29.7%)や「言いたいことの内容が相手に通じない」(45.9%)の割合が他の障害よりも高くなっている。また、肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）では「人間関係（職場内でのいじめなど）」(19.5%)、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」(22.4%)の割合がそれぞれ他の障害よりも高いのが目立つ。仕事の種類別にみると「困ることがある」の割合は正規の職員・従業員で高く 62.9%であった。(表 -5-3)

問 仕事をしていく上で困ることは何ですか。

表 -5-3 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

	総数	困ることがある	仕事の内容	人間関係(職場内)	ない手段・方法が伝	言いたいことの内容が相手に通じない	が(不十分)化	職場の物理的環境	勤務時間・日数	通勤距離・時間	通勤時の混雑	定期的な通院や健康管理との両立	立育児・介護との両	その他	困ることは特にはない	無回答
総数	100.0 (441)	55.3	9.5	10.4	6.1	10.4	6.6	7.3	7.5	10.4	12.2	1.4	13.2	43.5	1.1	
身体障害者手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害 (61)	100.0	62.3	11.5	9.8	1.6	3.3	16.4	1.6	3.3	21.3	9.8	1.6	18.0	34.4	3.3
	聴覚障害 (83)	100.0	60.2	15.7	14.5	12.0	19.3	7.2	6.0	7.2	3.6	3.6	2.4	18.1	38.6	1.2
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (37)	100.0	64.9	2.7	8.1	29.7	45.9	-	-	2.7	2.7	5.4	-	10.8	35.1	-
	肢体不自由(上肢) (41)	100.0	41.5	14.6	7.3	-	2.4	4.9	-	2.4	7.3	2.4	2.4	14.6	58.5	-
	肢体不自由(下肢) (60)	100.0	58.3	13.3	13.3	5.0	3.3	10.0	10.0	13.3	13.3	15.0	3.3	15.0	41.7	-
	肢体不自由(体幹) (16)	100.0	68.8	18.8	6.3	-	6.3	12.5	-	12.5	12.5	12.5	6.3	18.8	31.3	-
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) (41)	100.0	61.0	9.8	19.5	7.3	17.1	12.2	2.4	12.2	12.2	9.8	2.4	12.2	36.6	2.4
	内部障害 (134)	100.0	47.8	4.5	6.0	1.5	3.7	1.5	14.2	7.5	10.4	22.4	-	7.5	50.7	1.5
仕事の種類 (複数回答)別	正規の職員・従業員 (202)	100.0	62.9	11.9	13.4	7.9	10.4	8.9	5.9	8.9	15.3	17.8	2.0	10.9	34.7	2.5
	会社等の役員 (39)	100.0	46.2	7.7	2.6	-	12.8	7.7	2.6	-	5.1	12.8	-	17.9	53.8	-
	パート・アルバイト・日雇等(派遣職員・契約職員を含む) (200)	100.0	49.5	7.5	9.0	5.5	10.0	4.0	9.5	7.5	6.5	6.5	1.0	14.5	50.5	-

(10) 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別
 仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む）である 441 人が対象

仕事で困ったことがあったときの相談先は「会社の上司」や「家族」が 3割以上

仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む）の仕事をしている人（441 人）に、仕事で困ったときの相談先を尋ねたところ、「会社の上司」（36.1%）及び「家族」（35.1%）の割合が高くなっている。

仕事の種類別にみると、正規の職員・従業員では「会社の上司」の割合が 47.0%と最も高く、パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む）では「家族」の割合が 34.5%と最も高くなっている。（表 -5-4）

問 仕事で困ったことがあったとき、誰に相談しますか。

表 -5-4 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、仕事の種類〔複数回答〕別

	総数	会社の上司	会社の同僚	職場に派遣されたジョブコーチ	就業支援センター等の職員	家族	会社の同僚以外の友人	ホームの職員、グループ	出身校の教員	その他	相談する相手はいない	今まで特に困ったことはない	無回答	
総数	100.0 (441)	36.1	28.6	0.7	1.1	35.1	14.3	0.5	1.4	5.4	4.3	23.4	2.5	
身体障害者手帳の障害名 （複数回答）別	視覚障害	100.0 (61)	37.7	29.5	1.6	1.6	29.5	21.3	-	1.6	1.6	4.9	24.6	3.3
	聴覚障害	100.0 (344)	42.2	33.7	-	1.2	36.1	18.1	1.2	1.2	6.0	2.4	12.0	4.8
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (37)	27.0	16.2	-	-	45.9	2.7	-	-	8.1	5.4	13.5	-
	肢体不自由（上肢）	100.0 (41)	31.7	24.4	-	-	39.0	17.1	-	-	2.4	4.9	29.3	2.4
	肢体不自由（下肢）	100.0 (60)	36.7	33.3	1.7	-	35.0	16.7	-	1.7	3.3	5.0	25.0	1.7
	肢体不自由（体幹）	100.0 (16)	50.0	31.3	-	-	37.5	6.3	-	-	6.3	6.3	18.8	-
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (41)	53.7	41.5	-	-	43.9	17.1	-	4.9	2.4	2.4	12.2	4.9
仕事の種類別	内部障害	100.0 (134)	29.1	23.1	0.7	2.2	32.1	12.7	0.7	0.7	7.5	3.0	32.8	3.0
	正規の職員・従業員	100.0 (202)	47.0	41.1	0.5	0.5	35.1	19.8	0.5	0.5	5.0	5.0	17.3	2.5
	会社等の役員	100.0 (39)	5.1	10.3	-	-	38.5	7.7	-	-	10.3	5.1	38.5	2.6
パート・アルバイト・日雇等（派遣職員・契約職員を含む）	100.0 (200)	31.0	19.5	1.0	2.0	34.5	10.0	0.5	2.5	5.0	3.5	26.5	2.5	

(11) 作業所、授産施設の利用の有無 - 仕事の種類〔複数回答〕別

仕事の種類が正規の職員・従業員、会社等の役員、パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む）である 441 人が対象

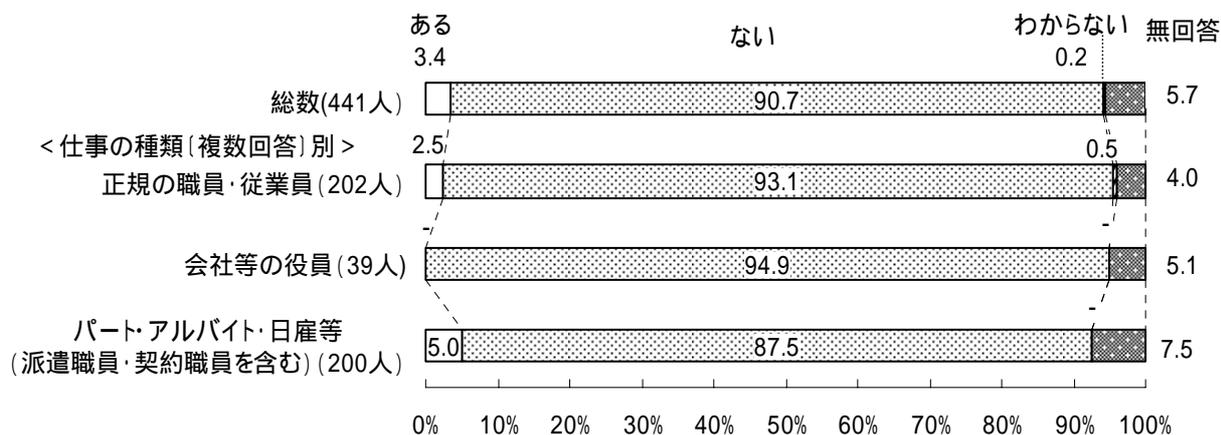
これまでに、^{さぎょうしょ}作業所や^{じゆさんしせつとう}授産施設等^{りよう}を利用したことがある^{せいぎ}正規の職員等^{わりあい}の割合は 3.4%

これまでに、作業所や授産施設等を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」が 3.4%、「ない」が 90.7%であった。

仕事の種類別にみると「ある」の割合は、正規の職員・従業員が 2.5%、パート・アルバイト・日雇等（派遣職員・契約職員を含む）が 5.0%となっている。（図 -5-7）

問 これまでに、^{さぎょうしょ}作業所や^{じゆさんしせつとう}授産施設等^{りよう}を利用したことがありますか。

図 -5-7 作業所、授産施設の利用の有無 - 仕事の種類〔複数回答〕別



(12) 現在仕事をしていない理由〔3つまでの複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別
 以前は働いていたが、現在は働いていない人及び今まで働いたことがない人(2,030人)が対象

現在、仕事をしていない理由は、59歳以下では「健康上の理由(病気等を含む)」が最も高く、次いで「受け入れてくれる職場がないため」の割合が高い

現在、仕事をしていない理由を聞いたところ、「健康上の理由(病気等を含む)」の割合が最も高く64.6%、次いで「高齢のため(定年を含む)」45.6%となっている。

年齢階級別にみると59歳以下の階級では「健康上の理由(病気等を含む)」の割合が最も高く、次いで「受け入れてくれる職場がないため」が高くなっている。(表 -5-5)

問 現在、仕事をしていない理由は何ですか。

表 -5-5 現在仕事をしていない理由〔3つまでの複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	事自 が分 ない にあ った 仕	む (病 気 等 を 含 む)	健 康 上 の 理 由	整 会 社 倒 産 、 人 員	な 婚 家 庭 の 都 合 (結 婚 、 育 児 、 介 護	年高 を 含 む の 理 由 (定	め負 担 が か か る の た め	た く 人 間 関 係 が な く な る た め	か事 業 が な か ら な い た め
総数	100.0 (2,030)	5.3	64.6	1.5	4.8	45.6	2.5	1.3	1.0	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (292)	6.2	63.4	1.0	4.8	50.3	4.5	1.0	0.3
	聴覚障害	100.0 (289)	5.2	51.6	1.0	4.8	63.7	0.3	2.1	1.0
	平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	78.6	-	-	42.9	7.1	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (203)	5.9	70.0	0.5	3.4	44.3	1.5	2.0	1.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (300)	3.7	68.7	0.7	5.3	38.7	2.7	1.7	0.7
	肢体不自由(下肢)	100.0 (409)	3.7	63.6	1.0	7.6	39.6	3.4	1.2	1.5
	肢体不自由(体幹)	100.0 (218)	2.3	74.8	1.8	2.8	39.4	1.8	0.9	0.5
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (134)	17.9	64.9	3.0	3.0	6.0	4.5	3.7	-
	内部障害	100.0 (545)	3.9	68.6	2.6	4.4	50.6	1.3	0.6	1.7
	年齢階級別	29歳以下	100.0 (44)	9.1	61.4	2.3	-	-	-	2.3
30～39歳		100.0 (68)	13.2	66.2	1.5	7.4	-	4.4	8.8	-
40～49歳		100.0 (88)	19.3	73.9	3.4	9.1	-	12.5	3.4	1.1
50～59歳		100.0 (185)	17.3	77.3	2.2	7.6	3.2	7.6	2.2	1.6
60～69歳		100.0 (464)	5.4	73.1	2.2	6.5	33.4	3.2	1.7	1.1
70～79歳		100.0 (765)	2.5	64.4	1.3	3.7	58.4	0.9	0.4	1.4
80歳以上		100.0 (416)	0.5	48.1	0.2	2.9	76.2	-	0.2	0.2
(再掲)総数 65歳以上		100.0 (1,465)	2.5	61.0	1.1	4.2	60.3	1.2	0.5	1.0

(次ページへ続く)

表 -5-5 現在仕事をしていない理由〔3つまでの複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、年齢階級別（続）

		が労働条件に不満	まよったため	利用料が高いため	学校などでの勉強	職業訓練中のため	職場が入れないため	働く必要がないため	働きたくないため	その他	無回答
総数		0.9	0.0	0.3	0.0	10.3	13.0	2.3	4.9	3.7	
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答〕別	視覚障害	1.7	0.3	0.3	-	12.7	11.6	3.8	5.8	2.4	
	聴覚障害	0.7	-	0.7	-	9.3	18.3	4.2	3.1	2.1	
	平衡機能障害	7.1	-	-	-	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	-	-	-	-	14.8	11.3	3.4	4.9	2.0	
	肢体不自由(上肢)	0.3	-	0.3	-	8.0	10.0	2.0	4.3	4.7	
	肢体不自由(下肢)	0.5	-	-	0.2	10.8	12.7	1.5	4.6	3.9	
	肢体不自由(体幹)	-	-	-	-	6.9	7.3	2.3	3.2	4.6	
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	2.2	-	1.5	-	14.2	3.7	0.7	14.2	9.0	
	内部障害	1.1	-	0.2	-	8.4	15.2	1.7	2.9	3.7	
年齢階級別	29歳以下	-	-	4.5	-	<u>6.8</u>	-	2.3	18.2	13.6	
	30～39歳	2.9	-	4.4	-	<u>14.7</u>	1.5	2.9	11.8	8.8	
	40～49歳	6.8	-	1.1	1.1	<u>19.3</u>	4.5	1.1	10.2	2.3	
	50～59歳	3.2	0.5	-	-	<u>20.5</u>	3.8	0.5	7.6	3.2	
	60～69歳	0.6	-	0.2	-	13.6	7.8	2.2	5.2	3.0	
	70～79歳	0.3	-	-	-	8.1	15.9	2.6	3.4	3.5	
	80歳以上	-	-	-	-	4.1	22.4	2.9	2.6	3.4	
	(再掲)総数 65歳以上	0.2	-	-	-	7.6	16.5	2.8	3.5	3.1	

(13) 会社等での就労経験の有無 - 年齢階級、収入を伴う仕事の有無別

以前は働いていたが、現在は働いていない及び作業所・授産施設等で就労している1,824人が対象。

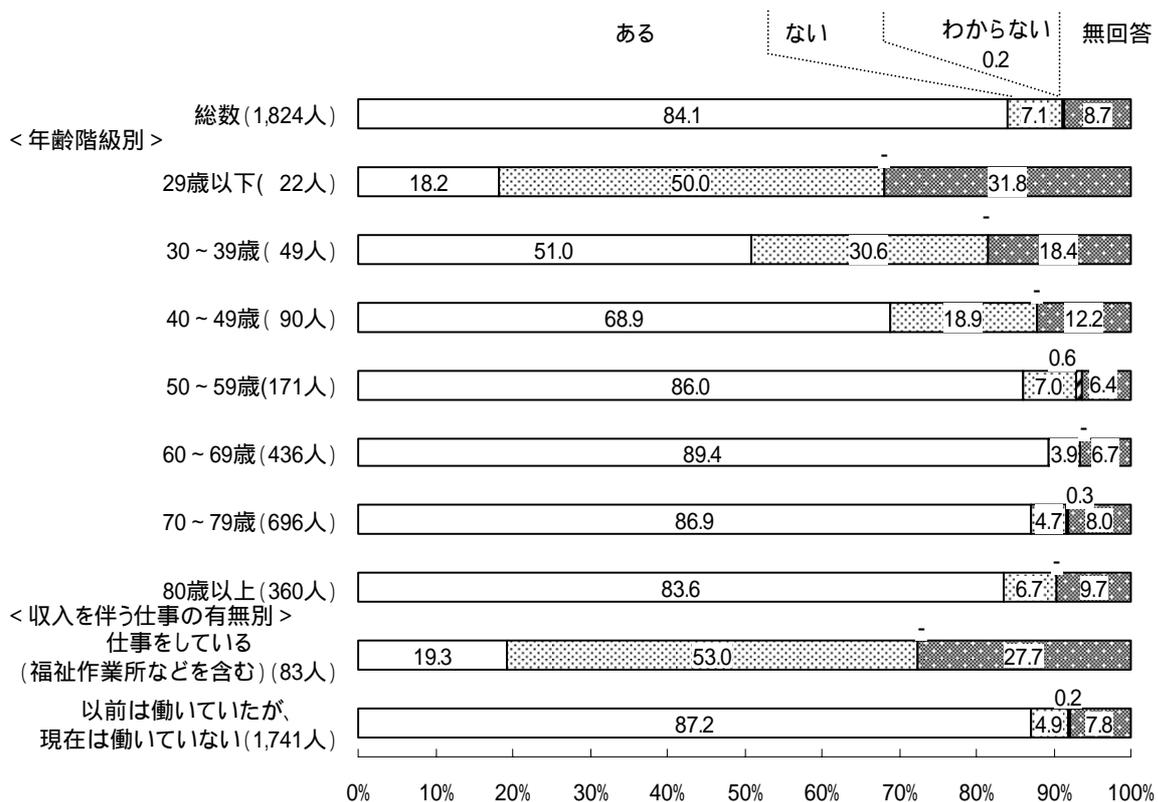
過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）がある割合は84.1%

過去に会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）が「ある」と答えた割合は84.1%、「ない」は7.1%であった。

収入を伴う仕事の有無別にみると、過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）が「ある」という人の割合は、仕事をしている（福祉作業所などを含む）人では19.3%、以前は働いていたが、現在は働いていない人では87.2%と高くなっている。（図-5-8）

問 あなたは、過去、会社等で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）がありますか。

図 -5-8 会社等での就労経験の有無 - 年齢階級、収入を伴う仕事の有無別



(14) 会社等での就労意向の有無 - 年齢階級別

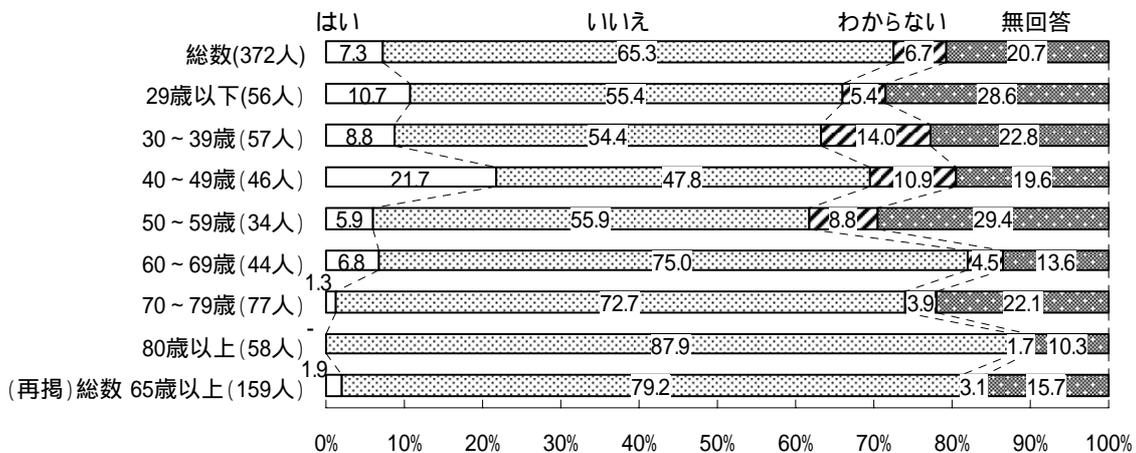
今まで働いたことがない人と作業所・授産施設等で就労している 372 人が対象

今後、会社等で働きたい(パート、アルバイト等を含む)割合は 7.3%

今まで働いたことがない人と作業所・授産施設等で就労している人(372人)に、今後、会社等で働きたいか聞いたところ、「はい」と答えた割合は 7.3%、「いいえ」は 65.3%であった。(図 -5-9)

問 今後、会社等で働きたい(パート、アルバイト等を含む。)と思いますか。

図 -5-9 会社等での就労意向の有無 - 年齢階級別



(15) 現在会社等で働いていない理由

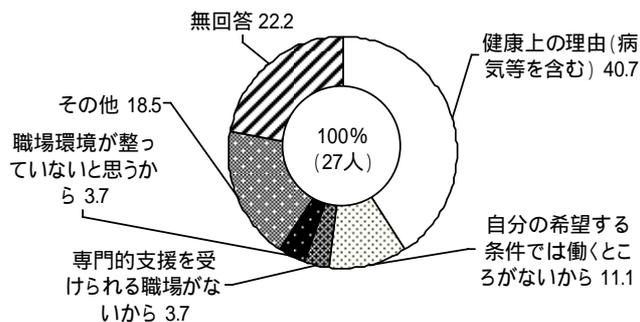
今まで働いたことがない及び作業所・授産施設等で就労している人の中で、今後、会社等で働きたい(パート、アルバイト等を含む)と答えた 27 人が対象

現在、会社等で働いていない理由は「健康上の理由(病気等を含む)」が 40.7%

今後、会社等で働きたい(パート、アルバイト等を含む)と答えた 27 人に、現在、仕事をしていない理由を聞いたところ、「健康上の理由(病気等を含む)」の割合が最も高く 40.7%であった(図 -5-10)

問 現在、会社等で働いていない理由は何ですか。

図 -5-10 現在会社等で働いていない理由



6 経済基盤

(1) 収入の種類〔3つまでの複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕別

収入の種類は「年金・恩給」の割合が最も高く76.5%

平成19年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」の割合が最も高く76.5%、次いで「手当」22.8%、「賃金・給料」19.6%、「生活保護費」7.0%となっている。

年齢階級別にみると、「生活保護費」の割合は、40代は9.2%、50代では13.3%と総数(7.0%)よりも高いのが目立つ。(表 -6-1)

問 平成19年中のあなたご自身の収入の種類についてお聞きします。

表 -6-1 収入の種類〔3つまでの複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕別

	総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	金保 険金・補償	賃作 業所等の工	その 他の収入	た収入 はなかつ	無 回答	
総数	100.0 (2,762)	19.6	2.9	0.3	5.6	1.1	0.8	76.5	7.0	22.8	0.3	0.4	2.2	3.0	3.5	1.0	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答(分)別	視覚障害	100.0 (390)	18.7	3.3	-	5.4	1.3	1.8	75.4	8.2	23.6	0.3	0.3	0.5	2.1	4.9	0.8
	聴覚障害	100.0 (405)	22.5	1.7	0.7	4.2	1.5	1.0	78.3	5.2	18.0	-	-	1.5	2.5	3.7	0.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	13.3	-	-	6.7	-	6.7	80.0	6.7	13.3	-	-	-	-	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	16.1	3.1	-	5.0	0.8	1.5	72.8	9.2	20.7	1.5	1.9	2.3	5.4	2.7	1.1
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	12.7	1.9	0.5	5.4	0.8	1.1	75.7	9.2	23.0	-	0.5	3.2	3.0	4.3	3.0
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	15.1	1.5	0.4	7.7	1.2	1.0	76.1	8.3	21.2	-	0.4	2.5	1.9	4.8	1.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	9.5	0.8	0.4	5.1	0.8	1.2	84.6	5.9	32.0	-	-	2.8	1.6	2.4	0.8
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	21.9	0.8	0.4	1.3	-	1.3	77.6	5.5	54.0	-	0.4	15.2	1.7	3.0	1.3
内部障害	100.0 (765)	22.5	4.7	0.4	6.3	1.3	0.3	76.7	6.4	19.0	0.5	0.3	0.7	3.9	2.5	0.4	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (98)	36.7	-	-	-	-	1.0	65.3	1.0	46.9	1.0	11.2	1.0	6.1	3.1	
	30～39歳	100.0 (161)	42.2	1.9	-	0.6	0.6	1.2	65.2	2.5	44.7	-	-	9.3	1.9	1.2	
	40～49歳	100.0 (196)	46.9	-	0.5	1.5	0.5	-	46.9	9.2	37.8	1.0	0.5	9.2	1.5	8.7	1.5
	50～59歳	100.0 (332)	37.3	3.9	-	2.7	1.5	1.2	43.7	13.3	28.9	0.6	0.6	2.1	4.8	7.2	0.6
	60～69歳	100.0 (651)	22.7	4.0	0.8	4.5	0.9	0.6	74.7	8.9	23.8	0.5	0.5	0.9	3.1	3.4	1.1
	70～79歳	100.0 (876)	6.8	3.4	0.3	7.9	0.9	0.6	90.8	5.8	14.6	0.1	0.5	0.5	3.4	2.2	0.8
	80歳以上	100.0 (448)	2.7	1.8	-	9.6	2.0	1.1	94.9	3.6	12.9	-	-	0.2	2.2	0.9	1.1
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,693)	8.0	2.7	0.5	7.8	1.2	0.7	90.6	5.6	15.7	0.1	0.3	0.4	3.0	1.9	0.9
15年度調査	100.0 (2,757)	18.7	6.1	0.7	6.0	0.9	1.1	74.5	6.4	31.5	0.4	0.4	...	2.0	3.6	0.7	

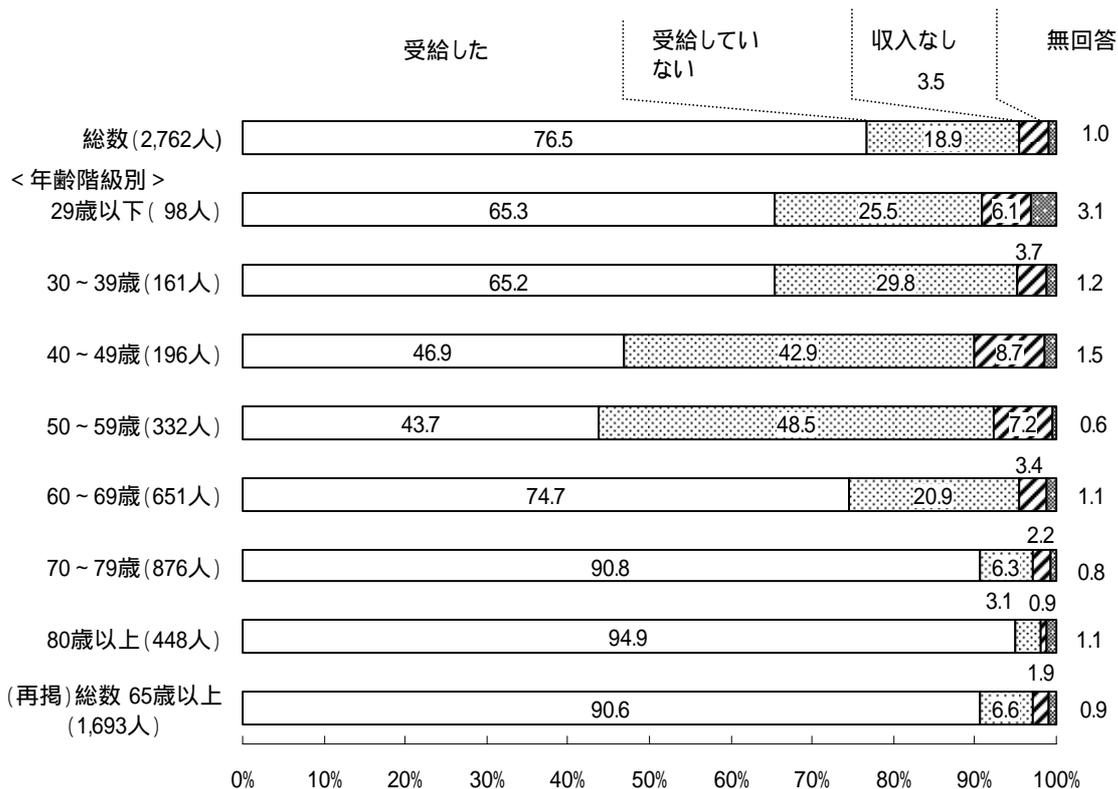
(注) 前回調査では「作業所等の工賃」は「賃金・給料」に含めて聞いている。

(2) 年金・恩給の受給の有無 - 年齢階級別

平成19年中に年金・恩給を「受給した」は76.5%、「受給していない」が18.9%となっている。

年齢階級別にみると、「受給した」の割合は20代、30代でも6割を超えている。(図-6-1)

図 -6-1 年金・恩給の受給の有無 - 年齢階級別



(3) 年金・恩給の収入額 - 年齢階級別

年金・恩給を受給している2,112人が対象

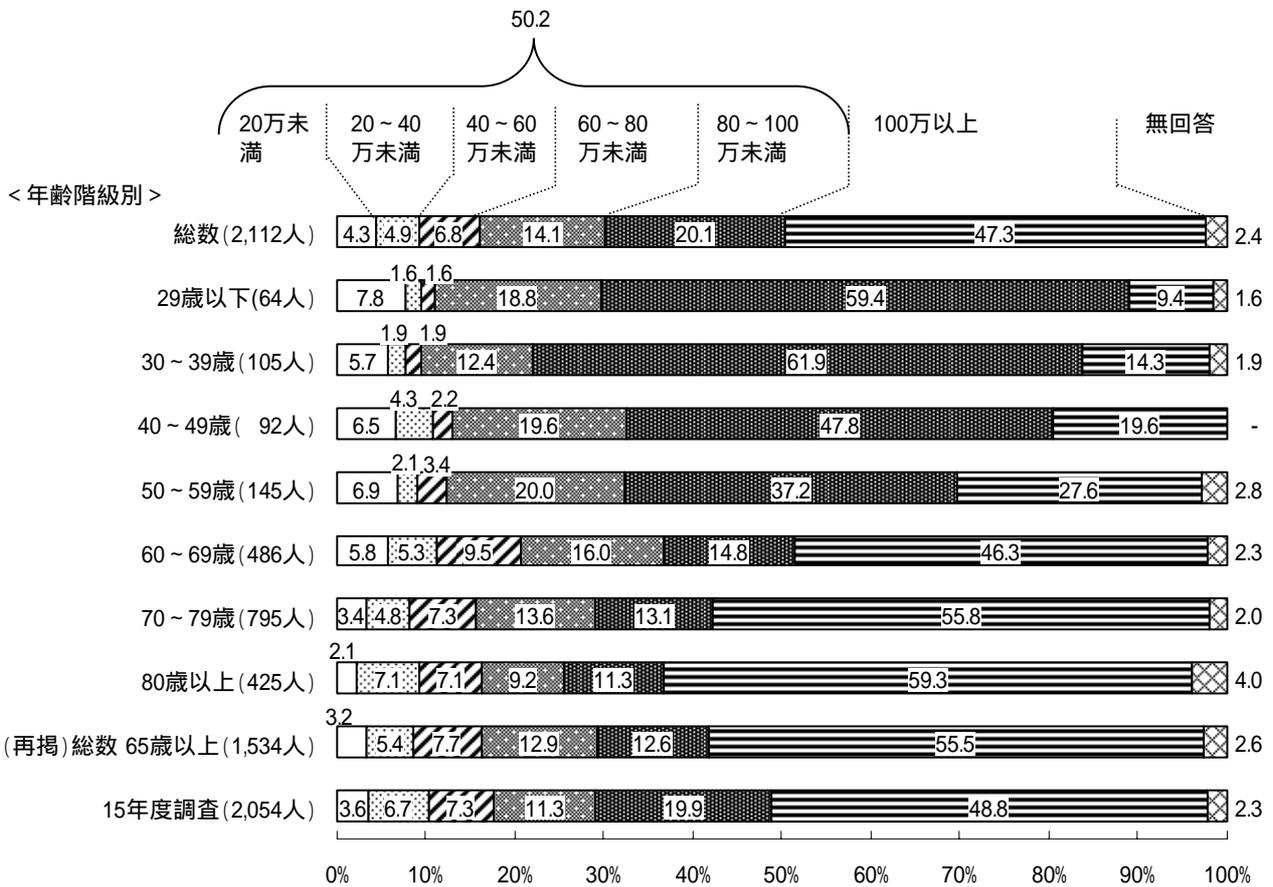
年金・恩給の収入額は「100万円未満」の割合が5割

平成19年中における年金・恩給の収入額は「100万円未満」の割合が50.2%、「100万円以上」の割合は47.3%となっている。

年齢階級別にみると「100万円以上」の割合は、年齢が高くなるにつれて割合が上昇していく傾向にある。(図 -6-2)

問 平成19年中における年金・恩給の収入額はいくらですか。

図 -6-2 年金・恩給の収入額 - 年齢階級別

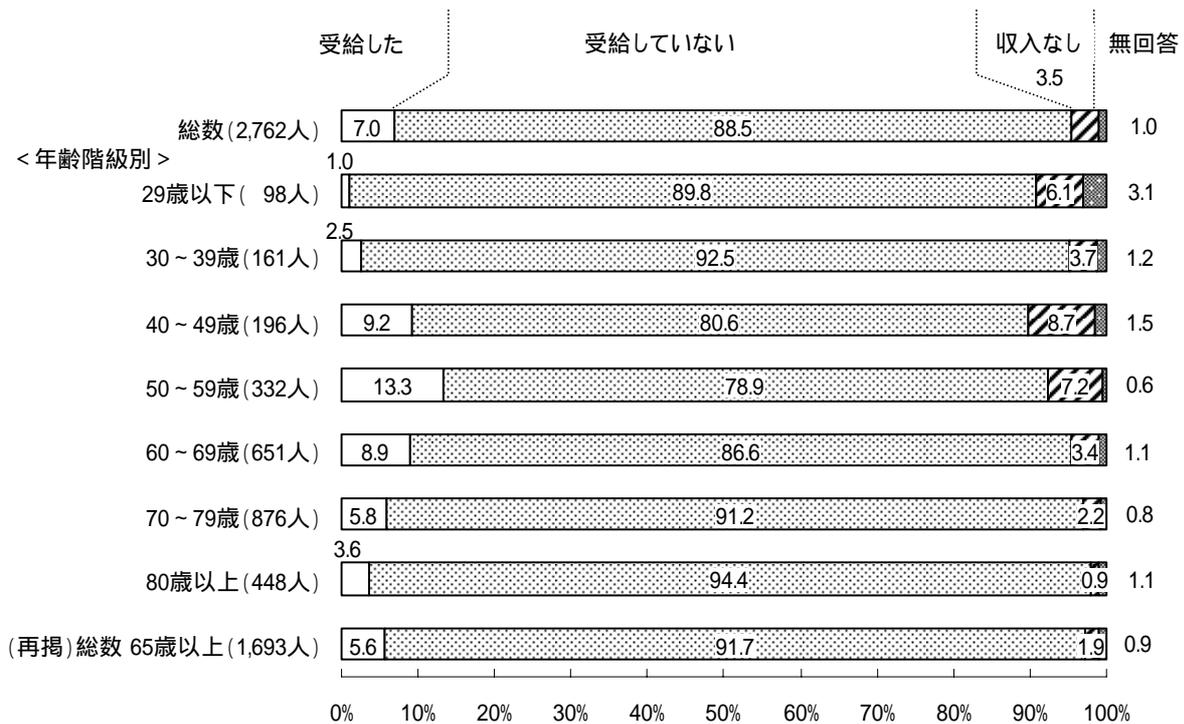


(4) 生活保護の受給の有無 - 年齢階級別

平成 19 年中に生活保護を「受給した」割合は 7.0%、「受給していない」は 88.5%であった。

年齢階級別にみると、「受給した」割合は 50 代で高くなっている。(図 -6-3)

図 -6-3 生活保護の受給の有無 - 年齢階級別



(5) 平成19年中の収入額(生活保護費を除く) - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

年収は「50万円～100万円未満」の割合が最も高い

平成19年中の収入額は「50～100万円未満」の割合が最も高く20.5%、次いで「100～150万円未満」が15.8%である。(表 -6-2)

問 あなたの平成19年中の収入額はいくらですか。収入には、ご自身で働いて得た収入や福祉作業所などからの収入のほか、あなたの年金・手当による収入や仕送りや小遣いを含みますが、生活保護費は除きます。

表 -6-2 平成19年中の収入額(生活保護費を除く) - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	収入なし	50万円未満	50万円1未満	10万円0未満	10万円5未満	20万円0未満	20万円5未満	30万円0未満	40万円0未満	50万円0未満	60万円0未満	70万円0以上	無回答	
総数	100.0 (2,762)	6.8	9.1	20.5	15.8	10.8	9.9	7.1	6.8	3.1	2.0	1.3	3.1	3.8	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (390)	9.5	10.8	23.6	15.6	7.7	8.7	5.9	5.6	2.8	1.8	1.5	2.8	3.6
	聴覚障害	100.0 (405)	6.2	7.2	20.2	19.8	9.9	9.4	6.9	9.6	2.2	1.7	1.7	1.7	3.5
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	6.7	26.7	-	6.7	33.3	6.7	6.7	-	-	-	-	6.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	8.4	5.4	19.2	11.5	14.9	10.7	8.0	8.4	2.3	1.9	1.1	5.4	2.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	8.6	11.4	23.0	12.4	10.8	7.8	7.8	5.7	2.4	1.4	0.8	2.2	5.7
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	8.3	11.6	22.6	15.4	11.2	8.3	6.4	4.6	2.3	2.1	0.2	3.1	3.9
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	5.9	8.7	23.7	15.8	11.9	13.0	6.3	5.1	2.4	1.2	1.6	0.8	3.6
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	3.4	8.0	24.5	23.6	13.9	10.5	3.8	4.6	1.3	0.8	0.4	0.8	4.2
	内部障害	100.0 (765)	5.4	9.3	16.7	13.7	9.7	11.0	9.4	8.0	4.8	2.7	1.7	4.0	3.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (98)	9.2	8.2	27.6	19.4	15.3	9.2	5.1	2.0	1.0	-	-	-	3.1
	30～39歳	100.0 (161)	4.3	3.7	18.6	17.4	16.8	8.7	6.2	8.1	6.8	3.1	2.5	0.6	3.1
	40～49歳	100.0 (196)	10.7	8.2	18.9	14.3	7.7	7.1	6.1	6.6	4.6	5.1	3.1	4.1	3.6
	50～59歳	100.0 (332)	13.9	11.1	17.8	13.3	8.1	8.4	3.9	5.7	3.3	3.3	1.5	6.0	3.6
	60～69歳	100.0 (651)	8.4	10.1	20.3	16.9	9.2	9.7	7.2	5.7	3.2	1.4	1.1	3.4	3.4
	70～79歳	100.0 (876)	4.3	8.8	22.9	14.4	11.8	12.4	7.6	6.3	2.9	1.4	0.9	2.7	3.7
	80歳以上	100.0 (448)	2.7	8.9	17.9	18.1	11.4	8.0	9.2	10.9	1.8	1.8	1.1	2.6	5.6
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,693)	4.3	8.6	21.4	16.4	11.2	11.2	8.3	7.0	2.5	1.4	0.9	2.7	4.1
15年度調査	100.0 (2,757)	5.8	11.0	20.2	14.5	9.6	9.2	6.3	8.5	3.0	2.5	1.4	3.4	4.6	

7 社会参加等

(1) 平日の日中に過ごす場所 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

前回調査よりも「職場」は約1ポイント、「通所施設（作業所、デイケア等を含む）」は約2ポイント増加

平日の日中に過ごす場所について聞いたところ、「自分の家」の割合が72.6%と最も高く、次いで「職場」14.5%、「通所施設（作業所、デイケア等を含む）」6.2%と続く。

前回調査（15年度調査）と比べると、「自分の家」の割合は2.3ポイント減少、「職場」は0.9ポイント増加、「通所施設（作業所、デイケア等を含む）」は2.3ポイント増加した。

（表 -7-1）

問 この1年間にあなたは、平日の日中主にどこで過ごしましたか。

表 -7-1 平日の日中に過ごす場所 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	自分の家	職場	学校	通所施設（作業所、デイケア等を含む）	入所施設	その他	無回答	
総数	100.0 (2,762)	72.6	14.5	0.3	6.2	3.1	2.7	0.7	
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (390)	77.9	13.3	0.3	2.1	4.4	1.3	0.8
	聴覚障害	100.0 (405)	75.1	16.3	0.5	4.4	0.7	2.2	0.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	80.0	6.7	-	-	6.7	-	6.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	78.5	10.0	-	4.2	1.1	4.2	1.9
	肢体不自由（上肢）	100.0 (370)	74.6	8.6	0.3	8.1	5.9	1.6	0.8
	肢体不自由（下肢）	100.0 (518)	76.6	11.0	0.2	6.2	2.9	2.5	0.6
	肢体不自由（体幹）	100.0 (253)	69.2	5.9	-	11.1	9.9	3.6	0.4
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (237)	32.1	19.4	0.4	38.0	8.0	2.1	-
	内部障害	100.0 (765)	77.5	16.3	0.5	1.2	0.5	3.3	0.7
年齢階級別	29歳以下	100.0 (98)	15.3	31.6	5.1	43.9	3.1	-	1.0
	30～39歳	100.0 (161)	26.1	41.6	0.6	24.2	6.2	0.6	0.6
	40～49歳	100.0 (196)	41.3	38.8	0.5	13.3	3.6	2.0	0.5
	50～59歳	100.0 (332)	59.3	28.3	-	4.2	2.4	5.1	0.6
	60～69歳	100.0 (651)	79.1	14.9	0.2	1.5	0.8	2.8	0.8
	70～79歳	100.0 (876)	88.2	3.7	-	2.3	3.1	2.1	0.7
	80歳以上	100.0 (448)	85.0	0.7	-	4.0	5.8	3.6	0.9
	（再掲）総数 65歳以上	100.0 (1,693)	86.5	4.1	-	2.5	3.3	2.8	0.8
15年度調査	100.0 (2,757)	74.9	13.6	0.5	3.9	3.7	2.9	0.4	

(2) 現在利用している通所施設に対する不満〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別
 平日の日中主に通所施設（作業所、デイケア等を含む）で過ごしている 170 人が対象

現在利用している施設に対する不満の内容は「工賃が少ない」の割合が最も高い

平日の日中主に通所施設（作業所、デイケア等を含む）で過ごしている人で、現在利用している施設に「不満がある」と答えた割合は 37.1%、「不満はない」は 56.5%であった。不満の内容は、「工賃が少ない」の割合が 11.8%で最も高く、年齢階級別でみると 40 代で「工賃が少ない」と答えた割合が 30.8%と高くなっている。（表 -7-2）

問 あなたは、現在利用している施設に対して不満はありますか。

表 -7-2 現在利用している通所施設に対する不満〔複数回答〕
 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	不満がある	自由がない	言えないことが	情報やコミュニケーションがない	不満がある	職員の利用者に	が外の人の交流	通所者・職員以外	訓練や作業にや	工賃が少ない	医療的ケアが足	その他	不満はない	無回答
総数	100.0 (170)	37.1	1.2	5.9	2.9	10.0	1.8	2.4	11.8	6.5	10.0	56.5	6.5		
身体障害者手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害 (8)	100.0	37.5	-	-	-	25.0	12.5	12.5	-	12.5	-	62.5	-	
	聴覚障害 (18)	100.0	22.2	5.6	5.6	-	5.6	-	-	11.1	-	5.6	77.8	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (11)	100.0	45.5	9.1	18.2	-	9.1	18.2	-	-	9.1	9.1	36.4	18.2	
	肢体不自由(上肢) (30)	100.0	50.0	-	6.7	3.3	6.7	6.7	3.3	16.7	10.0	20.0	43.3	6.7	
	肢体不自由(下肢) (32)	100.0	43.8	-	3.1	-	9.4	-	3.1	15.6	12.5	18.8	50.0	6.3	
	肢体不自由(体幹) (28)	100.0	60.7	-	14.3	7.1	7.1	3.6	3.6	14.3	17.9	17.9	32.1	7.1	
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害) (90)	100.0	40.0	-	4.4	3.3	13.3	2.2	2.2	14.4	7.8	11.1	53.3	6.7	
内部障害 (9)	100.0	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1	-	-	88.9	-		
年齢階級別	29歳以下 (43)	100.0	32.6	-	4.7	4.7	7.0	-	2.3	4.7	4.7	11.6	60.5	7.0	
	30～39歳 (39)	100.0	51.3	-	2.6	5.1	15.4	-	2.6	17.9	7.7	12.8	38.5	10.3	
	40～49歳 (26)	100.0	38.5	-	3.8	-	19.2	3.8	-	30.8	7.7	7.7	53.8	7.7	
	50～59歳 (14)	100.0	42.9	7.1	14.3	-	7.1	7.1	7.1	14.3	-	7.1	57.1	-	
	60～69歳 (10)	100.0	40.0	-	10.0	-	10.0	-	-	-	10.0	20.0	50.0	10.0	
	70～79歳 (20)	100.0	35.0	5.0	15.0	5.0	5.0	5.0	-	-	5.0	10.0	65.0	-	
	80歳以上 (18)	100.0	11.1	-	-	-	-	-	5.6	-	5.6	-	83.3	5.6	
(再掲)総数 65歳以上 (42)	100.0	23.8	2.4	7.1	2.4	2.4	2.4	2.4	-	7.1	4.8	71.4	4.8		

(3) 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

前回調査よりも「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合が5.3ポイント上昇

この1年間に行った趣味、学習、スポーツ、社会活動について聞いたところ、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合が25.6%と高く、前回調査(15年度調査)(20.3%)よりも5.3ポイント上昇した。一方で、「活動したいと思うができない」の割合も26.8%となっている。

年齢階級別にみると「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」の割合は、29歳以下、30代で5割を超えている。(表 -7-3)

問 この1年間にあなたは、趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動をしましたか。

表 -7-3 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	画、コンサートや映画の鑑賞、見物	コンサートやレジャーなどの活動	学習活動	趣味のサークル活動	ボランティア活動	障害者団体などの活動	参加できない活動場	活動したいと思う	活動したいと思わない	その他	無回答	
総数	100.0 (2,762)	25.6	16.3	7.4	15.9	5.9	4.9	1.6	26.8	19.8	8.1	5.1	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (390)	16.7	16.2	9.2	15.4	5.6	5.4	2.3	24.6	25.6	8.2	6.7
	聴覚障害	100.0 (405)	24.4	22.5	9.1	21.0	9.6	6.9	2.2	21.2	21.5	7.9	4.0
	平衡機能障害	100.0 (15)	20.0	13.3	-	-	-	6.7	-	33.3	26.7	13.3	6.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	23.0	15.3	4.2	11.9	5.0	6.1	1.5	30.3	19.2	12.3	4.2
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	24.3	10.5	4.3	12.4	4.1	5.7	1.6	29.5	23.0	9.5	4.9
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	25.7	11.0	6.2	15.1	4.2	4.1	2.1	33.2	18.7	7.1	4.2
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	18.2	11.9	5.5	11.5	4.7	5.5	0.8	35.6	20.2	8.3	9.1
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	44.7	24.5	11.4	17.3	3.8	17.7	1.3	20.3	11.4	7.2	4.2
	内部障害	100.0 (765)	26.5	14.8	6.9	16.2	6.0	1.8	1.8	27.3	19.0	8.5	4.3
年齢階級別	29歳以下	100.0 (98)	50.0	26.5	16.3	20.4	7.1	20.1	-	17.3	8.2	4.1	4.1
	30～39歳	100.0 (161)	55.3	36.0	17.4	11.2	4.3	13.7	0.6	16.1	6.2	6.2	5.6
	40～49歳	100.0 (196)	42.3	25.5	9.7	12.2	7.7	9.7	2.0	21.4	12.8	6.1	5.6
	50～59歳	100.0 (332)	34.0	19.6	7.8	12.7	4.5	6.3	1.8	25.9	15.7	9.9	5.1
	60～69歳	100.0 (651)	26.0	16.7	7.4	18.6	7.1	3.7	2.0	29.5	18.9	7.4	3.7
	70～79歳	100.0 (876)	17.8	12.2	4.0	15.4	5.6	2.5	1.8	28.3	23.6	9.0	5.3
	80歳以上	100.0 (448)	10.7	7.6	7.4	17.9	5.6	1.8	1.1	28.6	27.5	8.5	6.5
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,693)	17.8	11.8	5.8	17.5	5.9	2.6	1.5	29.1	23.2	8.4	5.2
15年度調査	100.0 (2,757)	20.3	14.1	7.8	17.8	7.0	7.4	9.0	0.8	

(4) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

「電車やバスなどを使つての移動が不便」「道路や駅などの利用が不便」の割合は前回調査よりも減少

社会参加をする上で妨げになっていることを聞いたところ、「電車やバスなどを使つての移動が不便」(21.5%)、「道路や駅などの利用が不便」(20.5%)の割合が高くなっている。

平日の日中主に過ごしたところ別にみると、通所施設(作業所、デイケア等を含む)で過ごしている人は「利用する建物の設備が整備されていない」の割合が21.8%で総数(7.8%)よりも高いのが目立つ。

前回調査(15年度調査)と比べると「道路や駅などの利用が不便」の割合は5.7ポイント減少、「電車やバスなどを使つての移動が不便」も2.6ポイント減少した。(表 -7-4)

問 あなたが社会参加をする上で、妨げになっていることはありますか。

表 -7-4 社会参加する上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	道路や駅などの利用が不便	電車やバスなどを使つての移動が不便	利用する建物の設備が整備されていない	損等により利用が破	点字版が古い	介助者がいない	情報がない	情報がわからない	連絡などの問い合わせが難しい	方法の整備がされてない	ADL番号やメールアドレスなどの連絡先が不明	周りの人の理解不足	障害者の利用を拒否	障害を理由に施設に入れない	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	配慮がされていない	字幕、点字など、通訳してない	障害者の参加を想定していない	その他	特にな	無回答
総数	100.0 (2,762)	20.5	21.5	7.8	0.3	7.9	5.0			1.8	10.9	0.9	1.6	6.3	2.6	12.7	41.8	5.0					
身体障害者手帳の障害名(複数回答)別	視覚障害	100.0 (390)	29.7	30.0	6.9	1.5	10.8	5.1		2.3	13.3	2.1	3.3	6.7	4.1	13.6	31.0	4.9					
	聴覚障害	100.0 (405)	10.1	11.6	3.5	-	4.7	9.4		4.9	17.3	0.7	1.2	8.6	10.4	11.9	45.4	4.0					
	平衡機能障害	100.0 (15)	20.0	26.7	-	-	13.3	-		6.7	13.3	6.7	6.7	13.3	13.3	6.7	33.3	6.7					
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	11.1	14.6	4.6	-	7.7	5.7		4.2	14.6	1.9	2.3	8.8	5.0	14.6	39.5	5.7					
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	27.8	29.7	12.2	0.3	14.1	4.6		0.5	7.6	0.8	0.8	7.6	1.1	14.9	33.5	5.9					
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	32.8	32.2	12.4	-	9.1	5.0		0.8	8.5	0.4	1.5	5.8	1.0	12.9	33.6	3.9					
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	31.2	30.8	11.1	-	12.6	2.0		0.4	7.9	0.8	0.8	3.6	0.4	18.6	28.9	7.1					
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	29.5	30.8	19.8	-	18.6	4.2		1.3	18.1	2.1	3.0	9.3	0.8	9.7	27.0	3.8					
	内部障害	100.0 (765)	12.4	12.7	3.5	-	3.3	3.8		0.8	7.1	0.4	1.2	4.7	0.4	12.7	55.8	5.5					
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (2,004)	21.8	23.2	7.1	0.3	8.1	5.1		1.7	10.5	0.7	1.5	6.8	2.4	12.4	41.4	4.5					
	職場	100.0 (400)	15.3	15.5	6.3	0.3	2.0	6.0		3.0	16.3	1.3	0.8	3.5	4.3	9.5	51.5	4.5					
	学校	100.0 (8)	12.5	-	12.5	-	25.0	12.5		-	-	-	12.5	12.5	-	-	62.5	-					
	通所施設(作業所、デイケア等を含む)	100.0 (170)	27.6	27.1	21.8	-	18.2	2.9		1.8	9.4	1.2	2.4	7.6	1.8	11.2	28.2	5.3					
	入所施設	100.0 (86)	12.8	15.1	3.5	-	14.0	2.3		-	5.8	2.3	1.2	1.2	2.3	30.2	36.0	7.0					
	その他	100.0 (74)	12.2	6.8	9.5	-	2.7	1.4		1.4	5.4	2.7	4.1	2.7	1.4	23.0	43.2	6.8					
15年度調査	100.0 (2,757)	26.2	24.1	8.6	...	8.4	6.9		2.2	14.8	1.0	3.7	7.7	4.6	6.2	44.4	1.8						

(5) 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、障害を持った時期別

障害のためにあきらめたり妥協したことは「旅行や遠距離の外出」の割合が最も高い

障害のためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことは「旅行や遠距離の外出」の割合が41.5%と最も高い。障害名別にみると「旅行や遠距離の外出」の割合は、肢体不自由（下肢）と肢体不自由（体幹）で5割を超えている。前回調査（15年度調査）と比べると「進学」「就職」「異性との付き合い」「結婚」「人付き合い」の割合が減少している。（表-7-5）

あなたは障害を持っているためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことがありますか。

表 -7-5 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、障害を持った時期別

	総数	進学	就職	異性との付き合い	結婚	出産・育児	人付き合い	近距離の外出	旅行や遠距離の外出	どのおしゃれな	フットボール・文化	その他	特にな	無回答	
総数	100.0 (2,762)	4.6	13.5	5.5	6.7	3.7	15.3	19.7	41.5	7.4	24.0	4.0	34.6	3.0	
身体障害者手帳の障害名（複数回答）別	視覚障害	100.0 (390)	5.1	16.4	4.1	5.1	2.1	14.1	26.9	40.5	8.2	25.4	7.2	30.5	5.4
	聴覚障害	100.0 (405)	4.9	8.9	4.9	6.4	2.7	22.2	11.9	24.2	2.7	14.8	4.7	45.9	1.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	26.7	13.3	13.3	6.7	33.3	33.3	6.7	26.7	-	40.0	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	2.3	16.9	3.1	4.6	1.9	25.7	16.5	35.2	3.1	20.3	4.6	35.6	3.1
	肢体不自由（上肢）	100.0 (370)	3.8	13.2	4.9	7.0	4.6	15.7	28.4	48.9	13.2	28.4	3.8	30.3	3.5
	肢体不自由（下肢）	100.0 (518)	4.6	12.0	4.2	6.0	3.9	13.1	28.8	53.5	11.0	29.9	4.1	28.2	2.7
	肢体不自由（体幹）	100.0 (253)	5.1	15.0	7.9	7.5	6.3	17.8	34.8	53.8	15.8	28.9	5.5	26.9	4.3
	肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）	100.0 (237)	20.3	29.5	24.9	25.7	16.0	23.2	19.4	35.9	15.6	25.7	3.4	27.0	5.5
	内部障害	100.0 (765)	1.8	10.8	2.6	4.3	2.4	9.4	15.6	47.3	4.3	24.1	2.2	36.9	1.7
障害を持った時期別	出生前または出生時	100.0 (372)	17.2	26.3	19.4	21.8	14.0	21.0	16.7	33.1	12.6	25.0	3.8	32.0	5.6
	0～3歳	100.0 (106)	23.6	23.5	16.0	18.9	8.5	18.9	11.3	32.1	8.5	24.5	5.7	31.1	2.8
	4～12歳	100.0 (90)	13.3	23.3	12.2	11.1	7.8	17.8	11.1	25.6	8.9	24.4	7.8	36.7	2.2
	13～17歳	100.0 (30)	30.0	20.0	3.3	10.0	6.7	13.3	13.3	33.3	20.0	26.7	3.3	26.7	6.7
	18歳～29歳	100.0 (135)	5.2	20.0	6.7	15.6	6.7	14.1	11.1	31.1	8.1	22.2	4.4	35.6	0.7
	30歳～39歳	100.0 (145)	2.1	22.1	9.7	11.0	6.2	22.8	22.8	46.9	13.8	36.6	6.9	24.8	2.1
	40歳～49歳	100.0 (248)	0.8	16.1	2.8	4.4	2.0	13.7	18.5	37.9	7.7	32.3	5.6	33.5	3.6
	50歳～59歳	100.0 (520)	0.4	11.9	1.5	1.9	0.6	14.4	19.8	46.0	6.3	25.8	2.1	34.6	1.7
	60歳～69歳	100.0 (578)	-	6.7	0.7	0.9	0.7	13.0	24.4	50.5	6.9	24.2	3.1	34.4	2.4
	70歳以上	100.0 (428)	0.5	1.4	0.5	0.5	0.5	13.1	22.0	44.9	2.1	14.7	4.2	40.7	2.6
(再掲)65歳以上	100.0 (729)	0.3	2.2	0.4	0.4	0.4	12.8	22.3	47.5	3.8	17.0	4.0	38.1	2.6	
15年度調査	100.0 (2,757)	5.5	16.1	6.1	7.3	3.5	17.5	19.3	40.2	7.4	22.6	1.7	38.8	1.4	

8 情報の入手やコミュニケーションの手段

(1) 情報の入手やコミュニケーションの手段(視覚障害者)(複数回答)

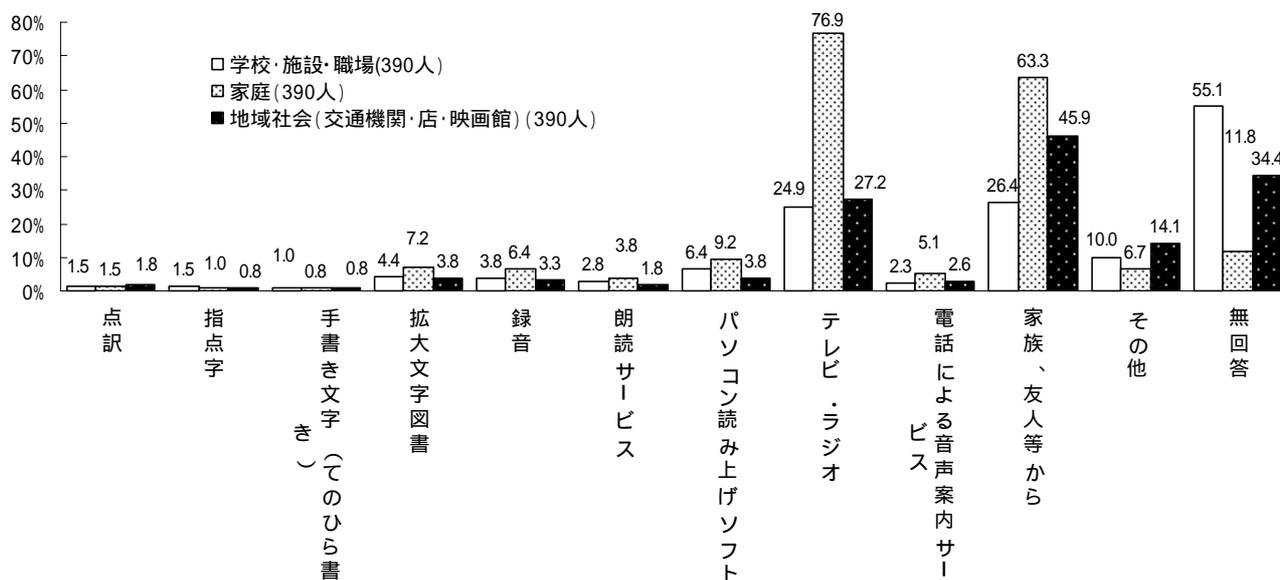
視覚障害者 390 人が対象

視覚障害者の「学校・施設・職場」「地域社会(交通機関・店・映画館)」における情報の入手やコミュニケーションの手段は、「家族、友人等から」の割合が最も高い

視覚障害者 390 人に「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。それぞれ、最も高い割合は「学校・施設・職場」では、「家族、友人等から」の 26.4%、「家庭」では、「テレビ・ラジオ」の割合の 76.9%、「地域社会(交通機関・店・映画館)」では「家族、友人等から」の 45.9%であった。(図 -8-1)

あなたは、「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において、どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。

図 -8-1 情報の入手やコミュニケーションの手段(視覚障害者)(複数回答)



(2) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること(視覚障害者)[2つまでの複数回答]

視覚障害者 390 人が対象

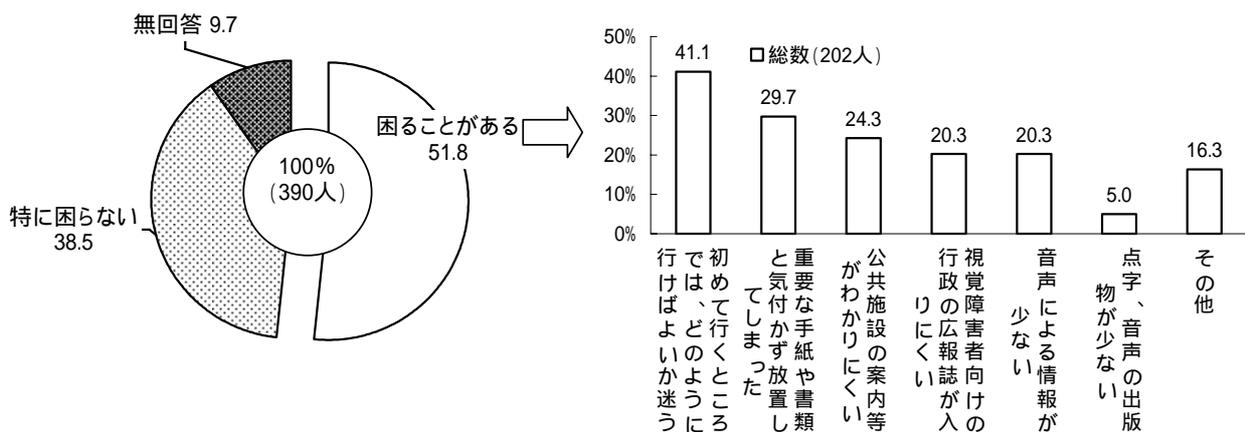
視覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が最も高い

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は51.8%と半数以上の人があることがありと回答した。

困る内容で最も割合が高かったのは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」で41.1%であった。(図 -8-2)

問 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図 -8-2 情報を入手したりコミュニケーションをとる上で困ること(視覚障害者)[2つまでの複数回答]



(3) 情報の入手やコミュニケーションの手段(聴覚障害者)[複数回答]

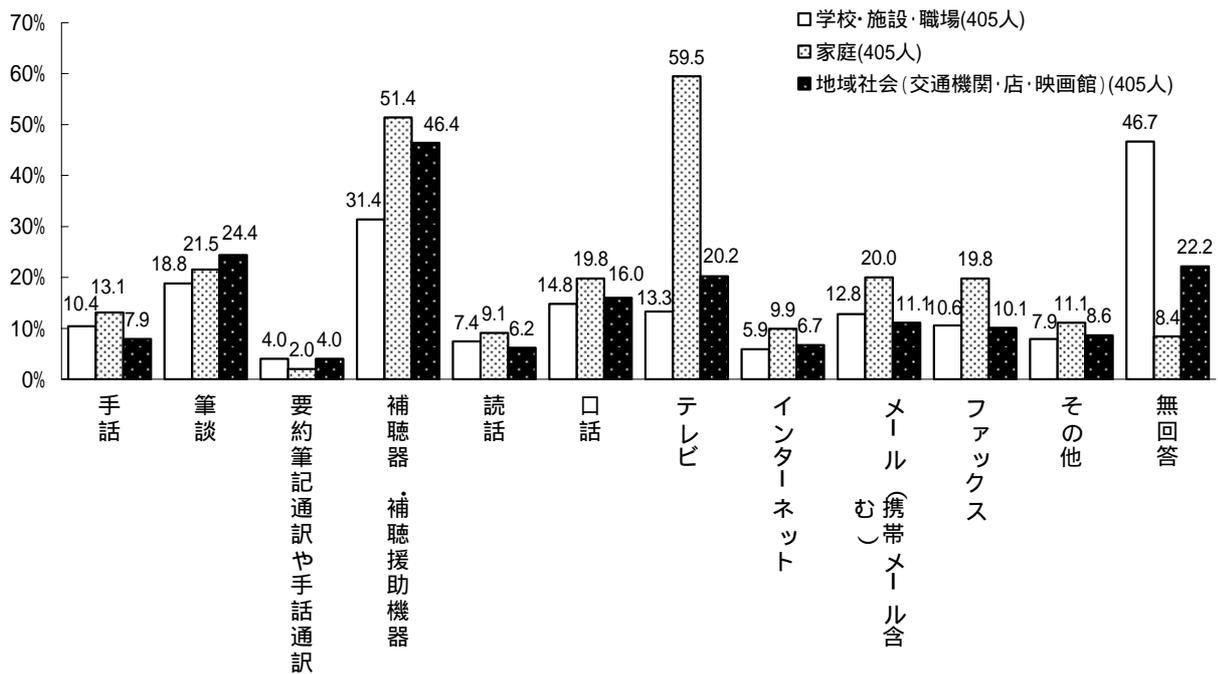
聴覚障害者 405 人が対象

聴覚障害者の「学校・施設・職場」「地域社会(交通機関・店・映画館)」における情報の入手やコミュニケーションの手段は、「補聴器・補聴援助機器」の割合が最も高い

聴覚障害者 405 人に「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いた。それぞれ、最も高い割合は「学校・施設・職場」では「補聴器・補聴援助機器」の 31.4%、「家庭」では「テレビ」の割合が 59.5%、「地域社会(交通機関・店・映画館)」では「補聴器・補聴援助機器」の 46.4%であった。(図 -8-3)

問 あなたは、「学校・施設・職場」「家庭」「地域社会」のそれぞれの場所において、どのようにして情報を得たり、コミュニケーションをとったりしていますか。

図 -8-3 情報の入手やコミュニケーションの手段(聴覚障害者)[複数回答]



(4) 情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ること(聴覚障害者)[2つまでの複数回答]

聴覚障害者 405 人が対象

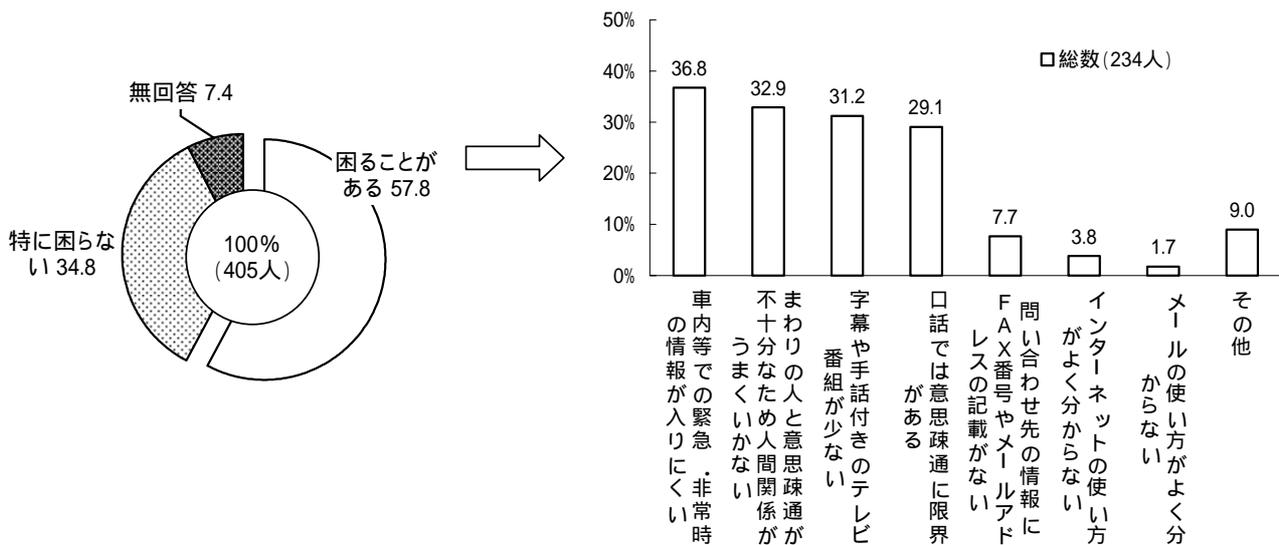
聴覚障害者が情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が最も高い

情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ「困ることがある」と答えた割合は 57.8% と半数以上の人があることがありと回答した。

困る内容で最も割合が高かったのは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」で 36.8% であった。(図 -8-4)

問 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることがありますか。

図 -8-4 情報を入手したりコミュニケーションをとる上で困ること(聴覚障害者)[2つまでの複数回答]



(5) 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

しょうがい 障害があるため、いし つた ばあい こま 意思を伝える場合に困ることは「かいわ 会話」が 27.2%

障害があるため、意思を伝える場合に困ることがあるか聞いたところ、「会話」が 27.2%であったが、「困ることはない」の割合も 60.8%となっている。

障害名別にみると、「会話」の割合は音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害が 79.7%と最も高く、「筆記」の割合は視覚障害が 29.2%と最も高い。

年齢階級別にみると「会話」「筆記」の割合は、20代～30代で高くなっている。(表 -8-1)

としい 問 あなたは、しょうがい 障害があるため、いし つた ばあい こま 意思を伝える場合に困ることがありますか。

表 -8-1 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	会話	筆記	その他	困ることはない	無回答
総数		100.0 (2,762)	27.2	14.6	3.7	60.8	2.8
身体障害者手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害	100.0 (390)	10.8	29.2	4.6	55.9	3.8
	聴覚障害	100.0 (405)	56.5	11.9	4.2	36.0	1.2
	平衡機能障害	100.0 (15)	60.0	26.7	6.7	26.7	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	79.7	21.5	2.7	14.2	1.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	26.8	21.4	4.3	57.6	3.8
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	17.4	14.1	2.3	71.8	3.9
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	34.0	26.9	7.9	50.2	2.4
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	50.2	28.3	11.4	35.0	4.6
	内部障害	100.0 (765)	6.8	4.1	1.8	87.2	2.6
年齢階級別	29歳以下	100.0 (98)	49.0	31.6	17.3	31.6	2.0
	30～39歳	100.0 (161)	45.3	29.2	9.9	39.8	3.7
	40～49歳	100.0 (196)	30.1	16.3	5.6	54.6	4.1
	50～59歳	100.0 (332)	24.1	13.0	2.7	64.8	2.4
	60～69歳	100.0 (651)	23.0	12.4	2.8	65.4	2.6
	70～79歳	100.0 (876)	25.2	13.4	2.1	64.4	2.3
	80歳以上	100.0 (448)	26.8	11.8	2.7	60.7	3.3
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,693)	24.5	12.8	2.4	64.1	2.7

(6) 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具
〔複数回答〕 - 障害名別〔複数回答〕

日常生活用具にちじょうせいかつようぐを利用している割合わりあいは10.9%

情報を入力したり、コミュニケーションを円滑にするための日常生活用具を「利用しているものがある」と答えた割合は10.9%、「利用したいものはない」が74.0%、「利用したいがメニューにない」が4.5%であった。

利用している日常生活用具で最も割合が高かったのは、「ファックス」で2.9%であった。

(図 -8-5)

あなたは、情報じょうほうを入力にゅうしゆしたり、コミュニケーションを円滑えんかつにするために、日常生活用具にちじょうせいかつようぐ給付事業きふじぎょうで利用している日常生活用具にちじょうせいかつようぐはありますか。

図 -8-5 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具〔複数回答〕 - 障害名別〔複数回答〕

	総数	利用しているものがある	携帯用会話補助装置	情報・通信支援用具	点字ディスプレイ	点字器	点字タイプライター	視覚障害者ポータブルレコーダー	視覚障害者用活字文書読上げ装置	視覚障害者用拡大読書器	盲人用時計
総数	100.0 (2,762)	10.9	1.2	0.9	0.2	0.6	0.1	0.6	0.5	1.8	1.4
視覚障害	100.0 (390)	25.9	-	2.8	1.3	4.1	1.0	4.4	3.3	12.8	10.0
聴覚障害	100.0 (405)	28.1	3.0	1.0	-	-	-	-	-	0.2	-
平衡機能障害	100.0 (15)	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	21.1	4.2	0.4	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	5.4	0.3	0.5	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	3.5	0.4	0.8	-	-	-	-	-	0.2	0.2
肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	3.6	1.2	1.2	-	-	-	-	-	-	-
肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	8.4	2.5	1.3	-	-	-	-	-	-	0.4
内部障害	100.0 (765)	1.3	0.4	0.1	-	-	-	-	-	0.1	-

聴覚障害者用通信装置	聴覚障害者用情報受信装置	人工咽喉	福祉電話	ファックス	視覚障害者用ワードプロセッサ	点字図書	その他	利用したいものはないが メニューがない	利用したいものはない	無回答
1.3	1.4	0.9	0.9	2.9	0.1	0.4	1.1	4.5	74.0	10.6
-	-	-	0.5	1.0	0.8	2.6	1.8	4.1	61.8	8.2
8.9	9.4	-	2.5	12.8	-	-	3.5	5.9	56.5	9.4
6.7	6.7	-	-	6.7	-	-	-	-	73.3	6.7
0.8	0.8	9.2	0.8	6.9	-	-	2.7	5.7	62.8	10.3
-	0.3	-	0.8	2.2	-	-	1.4	5.9	74.6	14.1
-	0.2	0.2	0.4	1.2	-	-	0.6	5.0	78.6	12.9
-	0.4	0.4	0.4	0.8	-	-	0.4	6.3	77.9	12.3
-	-	-	2.5	3.0	-	-	-	9.3	69.2	13.1
-	-	0.1	0.4	0.3	-	-	0.3	2.2	85.4	11.1

9 障害者自立支援法による障害福祉サービス等

(1) 障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)[複数回答]

在宅で生活している2,674人が対象

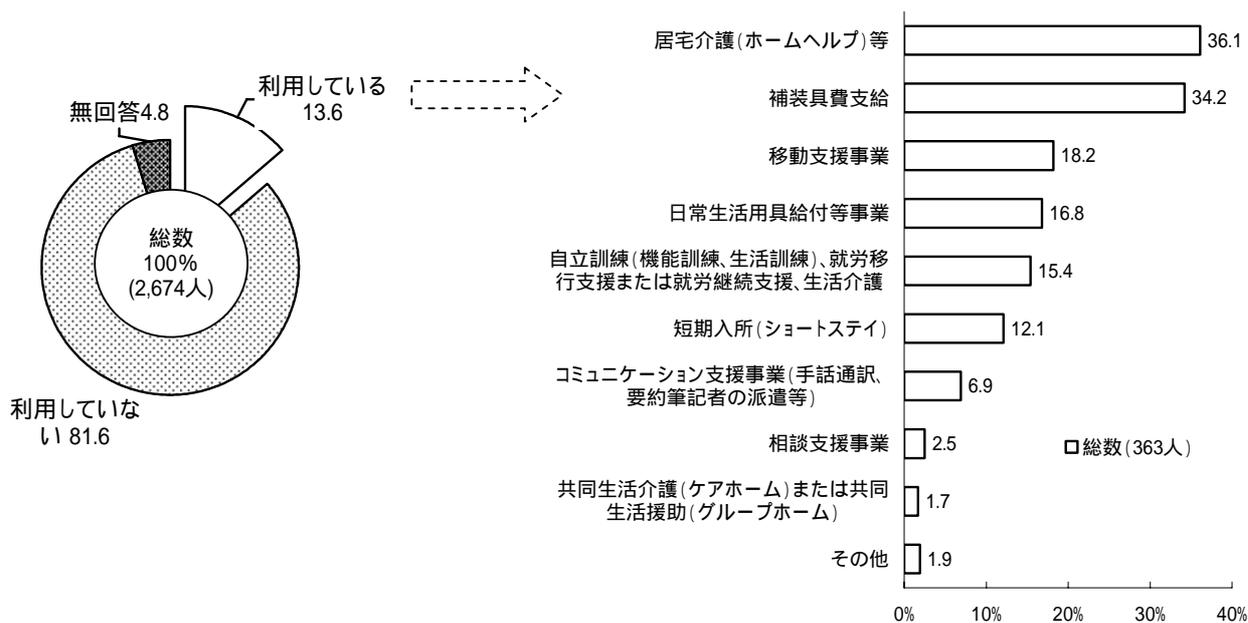
障害者自立支援法による障害福祉サービスを「利用している」割合は13.6%で、「居宅介護(ホームヘルプ)等」の割合が最も高い

過去1年間に障害者自立支援法による障害福祉サービスを「利用している」割合は、13.6%、「利用していない」が81.6%であった。

利用した内容で最も割合が高かったのは、「居宅介護(ホームヘルプ)等」36.1%、次いで「補装具費支給」34.1%であった。(図 -9-1)

問 過去1年間に障害者自立支援法による障害福祉サービスについて、どのような内容のサービスを利用しましたか。

図 -9-1 障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)[複数回答]



(2) 障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)[複数回答]

- 障害名[複数回答]、年齢階級別

在宅で生活している2,674人が対象

障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)について、障害名別にみると「利用している」割合は肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)で54.0%と5割を超えており、サービス内容は「居宅介護(ホームヘルプ)等」の割合が最も高く28.4%となっている。年齢階級別にみると「利用している」割合は、29歳以下、30代で4割以上となっている。(表 -9-1)

表 -9-1 障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)[複数回答]

- 障害名[複数回答]、年齢階級別

	総数	利用している	居宅介護(ホームヘルプ)等	短期入所(シヨートステイ)	労務継続支援、移行支援、生活訓練、就労移行支援または生活訓練	自立訓練(機能訓練、生活訓練)	または共同生活援助(グループホーム)	共同生活介護(ケアホーム)	補装具費支給	相談支援事業	遺等(手話通訳、要約筆記者の派遣等)	コミュニケーション支援事業	日常生活用具給付等事業	移動支援事業	その他	利用していない	無回答
総数	100.0 (2,674)	13.6	4.9	1.6	2.1	0.2	4.6	0.3	0.9	2.3	2.5	0.3	81.6	4.8			
身体障害者手帳の障害名(複数回答)別	視覚障害	100.0 (373)	15.3	5.4	0.3	1.3	0.3	2.1	0.5	-	3.5	5.1	0.5	81.5	3.2		
	聴覚障害	100.0 (402)	14.9	1.7	0.5	-	0.2	6.5	0.5	6.0	2.7	1.2	-	80.8	4.2		
	平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-	-	-	85.7	7.1		
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (258)	8.1	2.3	-	1.9	-	3.1	-	0.8	1.6	0.8	-	85.3	6.6		
	肢体不自由(上肢)	100.0 (350)	12.6	5.4	0.9	3.1	-	4.6	-	-	0.9	1.7	-	80.3	7.1		
	肢体不自由(下肢)	100.0 (505)	11.1	5.7	0.8	2.2	-	5.0	-	-	1.0	1.4	0.2	83.0	5.9		
	肢体不自由(体幹)	100.0 (230)	17.4	9.6	2.6	3.9	-	5.7	-	-	3.9	1.7	0.4	77.0	5.7		
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (215)	<u>54.0</u>	<u>28.4</u>	17.2	11.6	1.4	14.9	2.3	-	9.3	10.2	2.3	43.3	2.8		
内部障害	100.0 (761)	5.9	1.3	0.3	0.5	0.1	2.8	-	-	0.7	1.3	-	88.8	5.3			
年齢階級別	29歳以下	100.0 (94)	<u>44.7</u>	16.0	22.3	13.8	-	13.8	1.1	1.1	6.4	10.6	-	51.1	4.3		
	30～39歳	100.0 (150)	<u>40.0</u>	18.7	9.3	8.0	1.3	10.0	3.3	4.0	8.7	7.3	2.0	58.7	1.3		
	40～49歳	100.0 (190)	26.3	13.2	3.2	3.7	-	6.8	-	2.1	3.7	5.3	0.5	70.0	3.7		
	50～59歳	100.0 (324)	22.5	11.4	0.9	2.2	0.9	6.2	0.6	1.2	4.3	3.1	0.3	72.5	4.9		
	60歳以上	100.0 (1,916)	7.2	1.4	-	0.9	0.1	3.3	0.1	0.5	1.1	1.3	0.1	87.6	5.2		
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (1,637)	5.8	0.6	-	0.7	-	3.0	0.1	0.3	1.1	1.0	0.1	89.1	5.1		

(3) 障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)[複数回答]

- 介護保険制度の利用の有無別

在宅で生活している40歳以上の2,430人が対象

障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)について介護保険制度の利用の有無別にみると、介護保険制度を「利用している」人では、障害者自立支援法によるサービスを「利用している」人の割合が8.3%であった。一方、介護保険制度を「利用していない」人で、障害者自立支援法によるサービスを「利用している」人の割合は、11.3%となっている。(表 -9-2)

表 -9-2 障害者自立支援法で利用したサービス(過去1年間)[複数回答]

- 介護保険制度の利用の有無別

	総数	障害者自立支援法による障害福祉サービスを利用している	居宅介護(ホームヘルプ)等	短期入所(ショートステイ)	労務継続支援、生活介護	自立訓練(機能訓練、生活訓練)、就労移行支援または就労継続支援	共同生活介護(ケアホーム)または共同生活援助(グループホーム)	補装具費支給	相談支援事業	遺言(手話通訳、要約筆記者の派遣等)	コミュニケーション支援事業	日常生活用具給付等事業	移動支援事業	その他	障害者自立支援法による障害福祉サービスを利用していない	無回答
総数	100.0 (2,430)	10.7	3.6	0.4	1.3	0.2	4.0	0.1	0.7	1.7	1.9	0.2	84.2	5.0		
介護保険制度を利用している	100.0 (544)	8.3	0.9	0.2	1.7	-	3.3	0.2	0.2	2.2	2.6	-	83.5	8.3		
ホームヘルプサービス(訪問介護)	100.0 (331)	7.6	-	-	0.9	-	3.0	0.3	0.3	2.7	3.6	-	81.6	10.9		
訪問入浴介護	100.0 (91)	6.6	1.1	-	3.3	-	2.2	1.1	-	3.3	2.2	-	81.3	12.1		
訪問看護	100.0 (63)	4.8	1.6	-	-	-	1.6	-	-	-	1.6	-	85.7	9.5		
訪問リハビリテーション	100.0 (48)	6.3	-	-	-	-	6.3	2.1	-	2.1	2.1	-	87.5	6.3		
デイサービス(通所介護)	100.0 (148)	5.4	0.7	-	0.7	-	2.7	-	-	1.4	1.4	-	85.1	9.5		
デイケア(通所リハビリテーション)	100.0 (79)	10.1	-	-	5.1	-	2.5	-	-	5.1	2.5	-	75.9	13.9		
ショートステイ(短期入所生活介護)	100.0 (62)	3.2	-	-	-	-	-	-	1.6	1.6	-	-	83.9	12.9		
その他	100.0 (16)	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	87.5	-		
在宅サービスは受けていない	100.0 (55)	10.9	1.8	-	3.6	-	9.1	-	-	-	-	-	89.1	-		
介護保険制度を利用していない	100.0 (1,846)	11.3	4.2	0.4	1.2	0.2	4.2	0.1	0.9	1.6	1.6	0.2	85.5	3.3		

(4) 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕

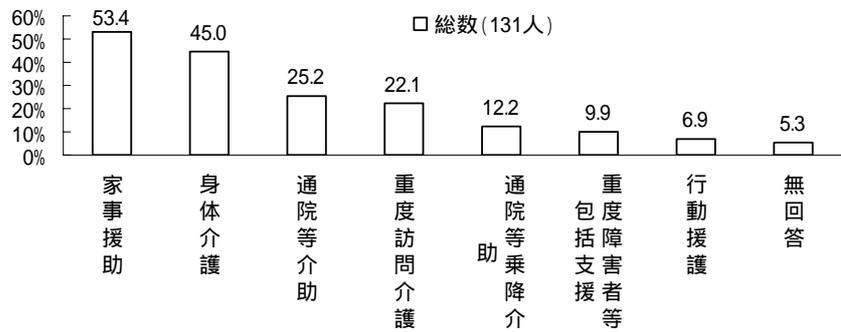
居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）を利用している 131 人が対象

利用した居宅介護等のサービスの種類は「家事援助」が 53.4%

障害者自立支援法による障害福祉サービスで居宅介護（ホームヘルプ）等を利用した人のサービスの種類は「家事援助」（53.4%）と「身体介護」（45.0%）の割合が高くなっている。（図 -9-2）

問 あなたが利用した居宅介護等のサービスの種類は何ですか。

図 -9-2 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕



（注）「重度障害者等包括支援」は支給実績がないため、誤って回答したものと思われる。

(5) サービス支給量は十分か（居宅介護、短期入所）

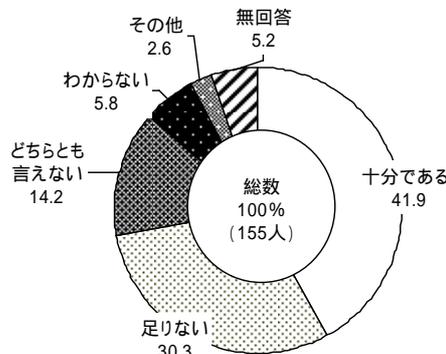
居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）短期入所（ショートステイ）を利用している 155 人が対象

サービス支給量が「十分である」と思っている人は 41.9%

障害者自立支援法による障害福祉サービスで居宅介護（ホームヘルプ）等及び短期入所（ショートステイ）を利用した人に支給量は十分か聞いたところ、「十分である」は 41.9%、「足りない」は 30.3%であった。（図 -9-3）

問 あなたが利用したサービスについて、支給量は十分だと思いますか

図 -9-3 サービス支給量は十分か（居宅介護、短期入所）



(6) 障害者自立支援法における障害程度区分

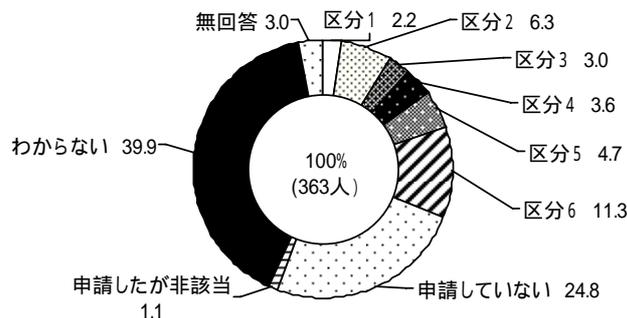
過去 1 年間に障害者自立支援法のサービスを利用した 363 人が対象

障害程度区分は「区分6」の割合が 11.3%

障害程度区分は「区分 6」の割合が 11.3%だが、「申請していない」が 24.8%、「わからない」も 39.9%となっている。(図 -9-4)

問 あなたの障害程度区分はいくつですか。

図 -9-4 障害者自立支援法における障害程度区分



(7) 障害者自立支援法における障害福祉サービスの費用負担

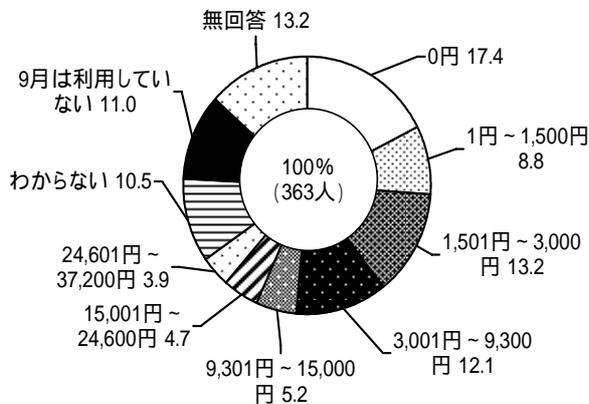
過去 1 年間に障害者自立支援法のサービスを利用した 363 人が対象

障害者自立支援法における障害福祉サービスの費用負担は「0円」の割合が 17.4%

平成 20 年 9 月の費用負担の費用負担額 (食費等実費負担は除く) を聞いたところ、「0 円」17.4%、一方、「15,001 円 ~ 24,600 円」と「24,601 円 ~ 37,200 円」を合わせた 15,001 円以上の割合は 8.5%となっている。(図 -9-5)

問 あなたの自立支援法における障害福祉サービスの費用負担についてお聞きします。1か月にあなたが負担した額 (食費等実費負担は除く) はいくらですか。

図 -9-5 障害者自立支援法における障害福祉サービスの費用負担



(8) 介護保険制度の利用の有無 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

調査基準日現在 40 歳以上の 2,503 人が対象

介護保険制度を利用している人は、23.5%

平成 20 年 10 月 15 日現在、40 歳以上の人に介護保険制度の利用状況を聞いたところ「利用している」と答えた人の割合は 23.5%、「利用していない」は 74.8%であった。

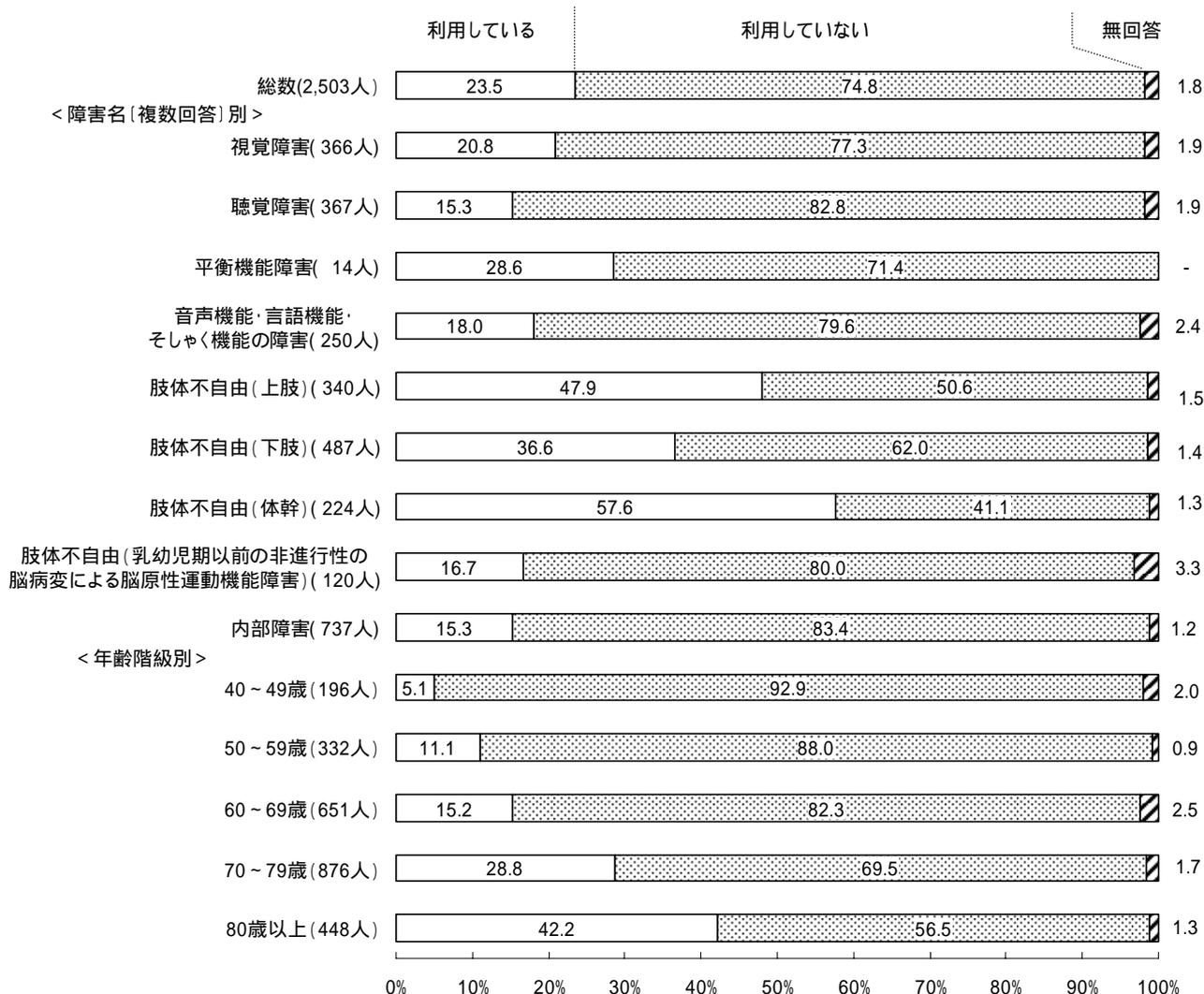
障害名別にみると「利用している」割合は、肢体不自由（体幹）で 57.6%と 5 割を超えている。

年齢階級別にみると「利用している」割合は、年齢が高くなるにつれて、上昇していく。

(図 -9-6)

問 あなたは介護保険制度を利用していますか。

図 -9-6 介護保険制度の利用の有無 - 年齢階級別



(9) 介護保険の要介護度 - 身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別

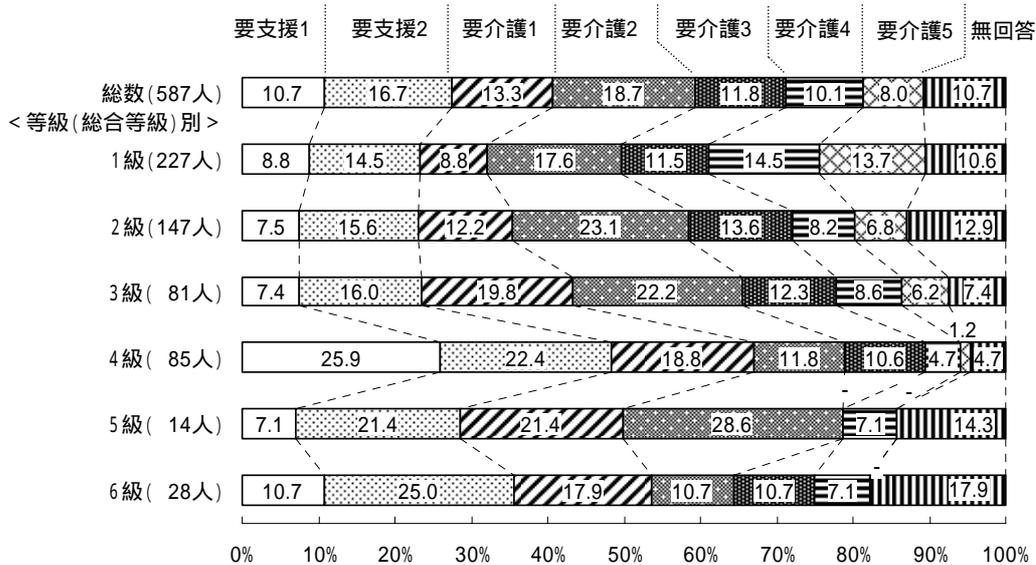
介護保険制度を利用している 587 人が対象

介護保険を利用している人の要介護度は「要介護2」の割合が最も高く 16.7%

介護保険制度を利用している人の要介護度を聞いたところ、「要介護2」の割合が 18.7% と最も高く、次いで「要支援2」が 16.7%、「要介護1」が 13.3%であった。(図 -9-7)

問 あなたの要介護度は何度ですか。

図 -9-7 介護保険の要介護度 - 身体障害者手帳の等級 (総合等級) 別



(10) 介護保険法におけるサービスの費用負担

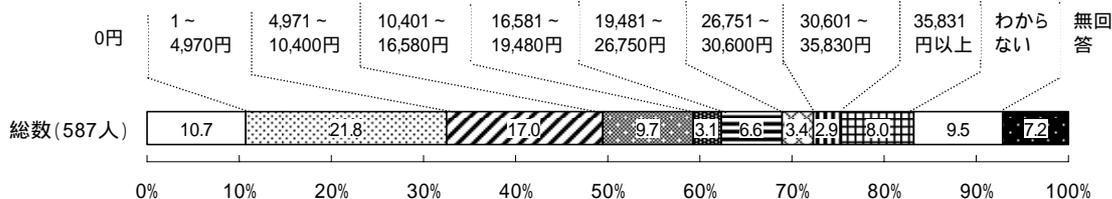
介護保険制度を利用している 587 人が対象

介護保険法におけるサービスの費用負担は「1~4,970円」の割合が最も高い

介護保険法におけるサービスの費用負担額は「1~4,970円」の割合が最も高く 21.8%、次いで「4,971~10,400円」17.0%、「0円」10.7%となっている。(図 -9-8)

問 あなたの介護保険法におけるサービスの費用負担についてお聞きします。1か月にあなたが負担する額(食費等実費負担は除く)はいくらですか。

図 -9-8 介護保険法におけるサービスの費用負担



(11) 介護保険で受けている在宅サービス - 障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別
 介護保険制度を利用している 587 人が対象

介護保険で受けている在宅サービスは「ホームヘルプサービス」の割合が最も高く 57.4%

介護保険制度を利用している人に、どのような内容の在宅サービスを受けているか聞いたところ、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「デイサービス（通所介護）」が 25.6%であった。

介護保険の要介護度別にみると要介護 5 の人では、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」57.4%、「訪問入浴介護」48.9%、「訪問看護」40.4%の割合が高くなっている。（表 -9-3）

問 あなたはどのような内容の在宅サービスを受けていますか。

表 -9-3 介護保険で受けている在宅サービス
 - 障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

	総数	訪問介護 (ホームヘルプサービス)	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	デイサービス (通所介護)	デイサービス (通所介護)	生活介護 (短期入所)	ショートステイ	その他	在宅サービス なし	無回答
総数	100.0 (587)	57.4	15.7	10.7	8.2	25.6	13.5	10.7	2.9	12.9	6.1	
障害名 (複数回答)別	視覚障害	100.0 (76)	61.8	10.5	6.6	3.9	14.5	3.9	5.3	5.3	15.8	7.9
	聴覚障害	100.0 (56)	62.5	8.9	5.4	3.6	35.7	10.7	8.9	3.6	7.1	1.8
	音声機能・言語機能・そ しゃく機能の障害	100.0 (45)	40.0	15.6	11.1	8.9	42.2	20.0	17.8	-	11.1	6.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (163)	60.1	20.9	16.6	15.3	28.2	20.2	13.5	3.7	11.0	4.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (178)	62.4	21.3	13.5	11.2	25.8	19.7	12.9	2.2	13.5	3.4
	肢体不自由(体幹)	100.0 (129)	51.9	25.6	18.6	16.3	30.2	17.1	16.3	4.7	10.1	7.8
	肢体不自由(乳幼児期以 前の非進行性の脳病変に よる脳原性運動機能障害)	100.0 (20)	65.0	25.0	5.0	10.0	20.0	10.0	-	-	5.0	20.0
	内部障害	100.0 (113)	58.4	9.7	8.0	5.3	18.6	7.1	9.7	1.8	17.7	3.5
介護保険の要介護度別	要支援1	100.0 (63)	61.9	4.8	7.9	1.6	12.7	4.8	3.2	1.6	15.9	3.2
	要支援2	100.0 (98)	59.2	5.1	5.1	9.2	26.5	10.2	8.2	2.0	14.3	2.0
	要介護1	100.0 (78)	64.1	7.7	6.4	5.1	30.8	12.8	3.8	3.8	11.5	3.8
	要介護2	100.0 (110)	59.1	13.6	8.2	4.5	30.9	15.5	11.8	3.6	10.0	3.6
	要介護3	100.0 (69)	55.1	24.6	10.1	11.6	29.0	26.1	7.2	2.9	11.6	4.3
	要介護4	100.0 (59)	49.2	23.7	10.2	8.5	35.6	18.6	22.0	5.1	15.3	5.1
	要介護5	100.0 (47)	57.4	48.9	40.4	29.8	12.8	4.3	23.4	2.1	12.8	12.8

(12) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

- 障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

ホームヘルプサービスを受けている 337 人が対象

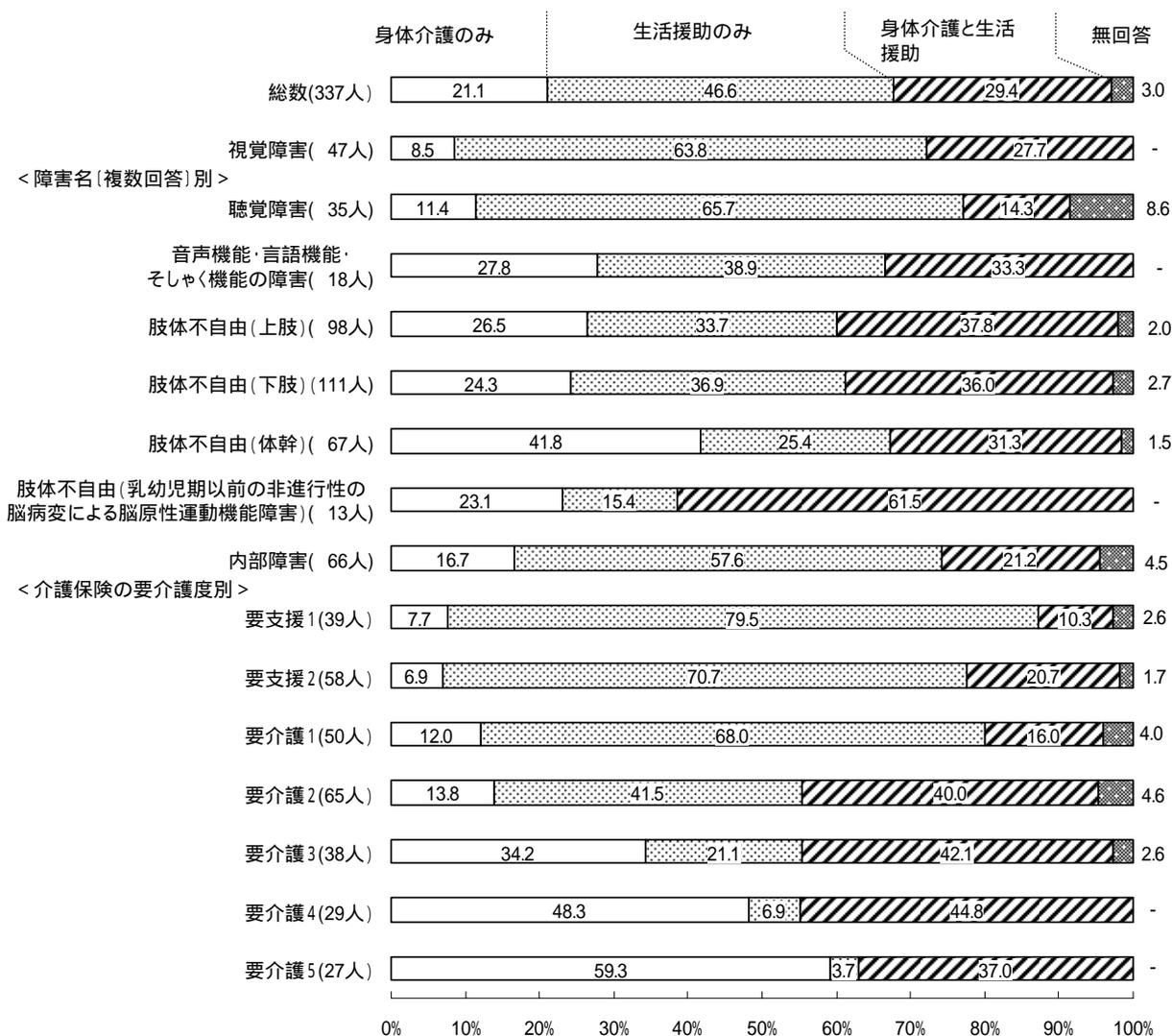
介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は「生活援助のみ」の割合が最も高い

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は、「生活援助のみ」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「身体介護と生活援助」が 29.4%、「身体介護のみ」が 21.1%となっている。介護保険の要介護度別にみると、要介護 5 の人では「身体介護のみ」と「身体介護と生活援助」を合わせた割合は、96.3%となっている。(図 -9-9)

問 あなたが受けているサービスの内容は何か。

図 -9-9 介護保険法で受けているホームヘルプサービスの内容

- 障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別



(注) 障害名の平衡機能障害の方は、2名のため省略した。

(13) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること

- 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

介護保険でホームヘルプサービスを受けている 337 人が対象

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることは「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が最も高い

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることがあるか聞いたところ、「困っていることがある」の割合は 46.6%、「困っていることは特にない」が 43.9%であった。困っていることの内容は「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が 32.0%と高くなっている。障害名別にみると肢体不自由（上肢） 肢体不自由（体幹）で「困っていることがある」がそれぞれ5割を超えている。年齢階級別にみると「困っていることがある」の割合は、60代～70代で5割を超えている。（表 -9-4）

問 サービス内容で困っていることはありますか。

表 -9-4 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること

- 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	あ 困 っ て い る こ と が	の1 時 間 の 訪 問 介 護 が 短 い	ら 何 回 か 分 け	訪 問 介 護 が 1 日	家 族 が 介 護 を 受 け て	い ス が 受 け る サ ー ビ ス	希 望 す る サ ー ビ ス	ら し て も 受 け て 希 望	時 間 延 長 を 希 望	訪 問 介 護 員 が 代 わ り し ま う	も ら え な い 代 理 を し て	急 な 外 出 を し て	そ の 他	特 に 困 っ て い る こ と は	無 回 答
総数	100.0 (337)	46.6	32.0	3.0	4.2	14.2	9.8	6.2	5.9	7.4	43.9	9.5				
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (47)	38.3	27.7	-	4.3	19.1	14.9	2.1	2.1	4.3	55.3	6.4			
	聴覚障害	100.0 (35)	48.6	40.0	5.7	2.9	5.7	11.4	8.6	2.9	5.7	42.9	8.6			
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (18)	38.9	22.2	-	-	11.1	11.1	11.1	-	-	55.6	5.6			
	肢体不自由(上肢)	100.0 (98)	50.0	30.6	2.0	8.2	20.4	9.2	6.1	12.2	4.1	40.8	9.2			
	肢体不自由(下肢)	100.0 (111)	45.9	31.5	1.8	5.4	13.5	8.1	4.5	5.4	9.9	43.2	10.8			
	肢体不自由(体幹)	100.0 (67)	56.7	31.3	6.0	3.0	11.9	9.0	7.5	10.4	10.4	37.3	6.0			
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (13)	38.5	30.8	-	-	7.7	-	-	-	23.1	46.2	15.4			
	内部障害	100.0 (66)	47.0	31.8	4.5	3.0	15.2	10.6	12.1	6.1	3.0	42.4	10.6			
年齢階級別	40～59歳	100.0 (26)	38.5	26.9	-	11.5	7.7	3.8	3.8	-	3.8	53.8	7.7			
	60～69歳	100.0 (59)	52.5	33.9	3.4	3.4	18.6	6.8	8.5	8.5	8.5	44.1	3.4			
	70～79歳	100.0 (145)	50.3	35.9	3.4	5.5	13.8	9.7	7.6	6.9	10.3	40.7	9.0			
	80歳以上	100.0 (107)	40.2	27.1	2.8	0.9	14.0	13.1	3.7	4.7	3.7	45.8	14.0			
	(再掲)総数 65歳以上	100.0 (295)	46.8	32.5	2.7	3.4	14.2	10.5	5.8	5.8	7.8	43.4	9.8			

10 施設入所（施設入所者対象）

調査基準日現在、施設に入所している 88 人が対象

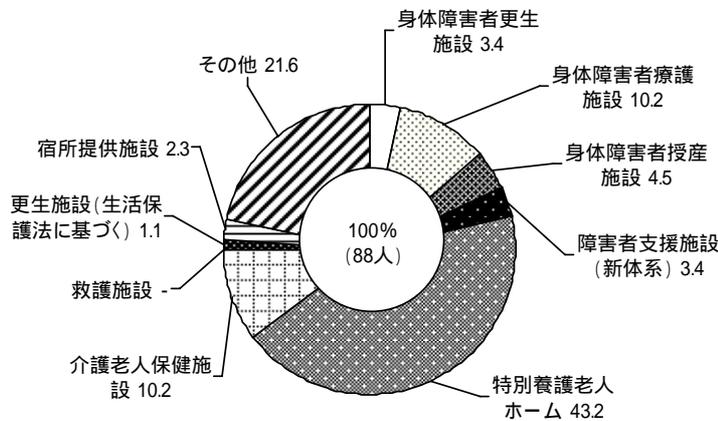
（1）入所している施設の種類の種類

現在入所している施設は「特別養護老人ホーム」が 43.2%

調査基準日現在、入所している施設を聞いたところ、「特別養護老人ホーム」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「身体障害者療護施設」「介護老人保健施設」がそれぞれ 10.2%となっている。（図 -10-1）

問 あなたが現在入所している施設はどれですか

図 -10-1 入所している施設の種類の種類



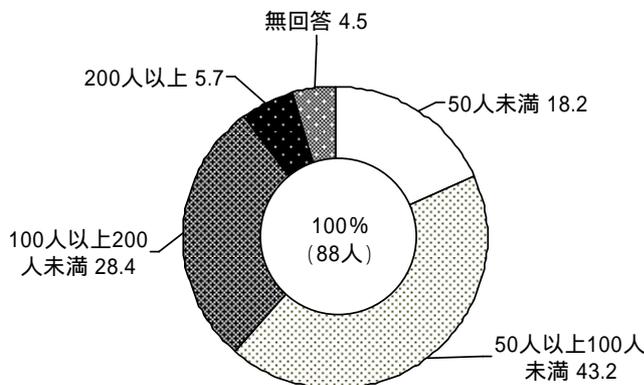
（2）施設定員

入所している施設の定員数の割合は「50人以上100人未満」の割合が最も高い

調査日現在、入所している施設の定員数の割合は「50人以上100人未満」が 43.2%と最も高く、次いで「100人以上200人未満」が 28.4%となっている。（図 -10-2）

問 あなたが現在入所している施設の定員は何人ですか。

図 -10-2 施設定員



(3) 入所を決めた人とその理由

入所を「自分が決めた」人は22.7%

自分で施設入所を決めた人の理由は「家族による介助が困難」の割合が40.0%

入所を決めた人は誰か聞いたところ、「自分が決めた」割合が22.7%、「自分以外の方が決めた」が70.5%となっている。

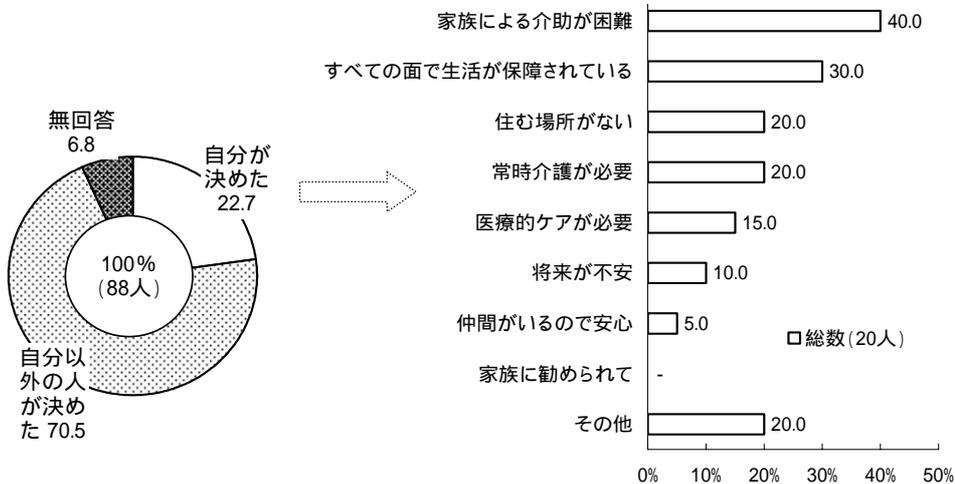
また、自分が施設入所を決めた人(20人)にその理由を聞いたところ、「家族による介助が困難」の割合が40.0%で最も高い。(図 -10-3)

問 入所を決めた人は誰ですか。

問 あなたが施設入所を決めた理由は何ですか。

〔2つまでの複数回答〕

図 -10-3 入所を決めた人とその理由



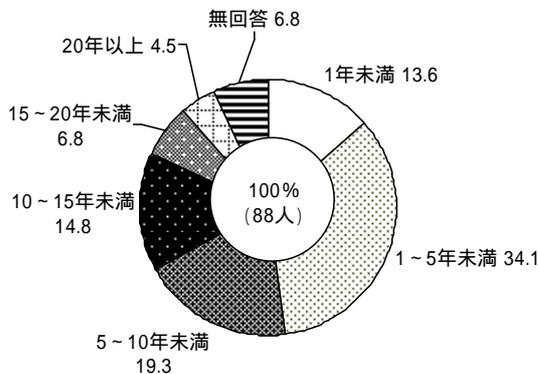
(4) 入所年数

今の施設に入ってから年数は、「1~5年未満」の割合が最も高く34.1%

今の施設に入ってから年数は、「1~5年未満」の割合が34.1%と最も高い。(図 -10-4)

問 あなたは、今の施設に入ってからどれくらい(何年)になりますか。

図 -10-4 入所年数



(5) 施設での生活の不満〔2つまでの複数回答〕

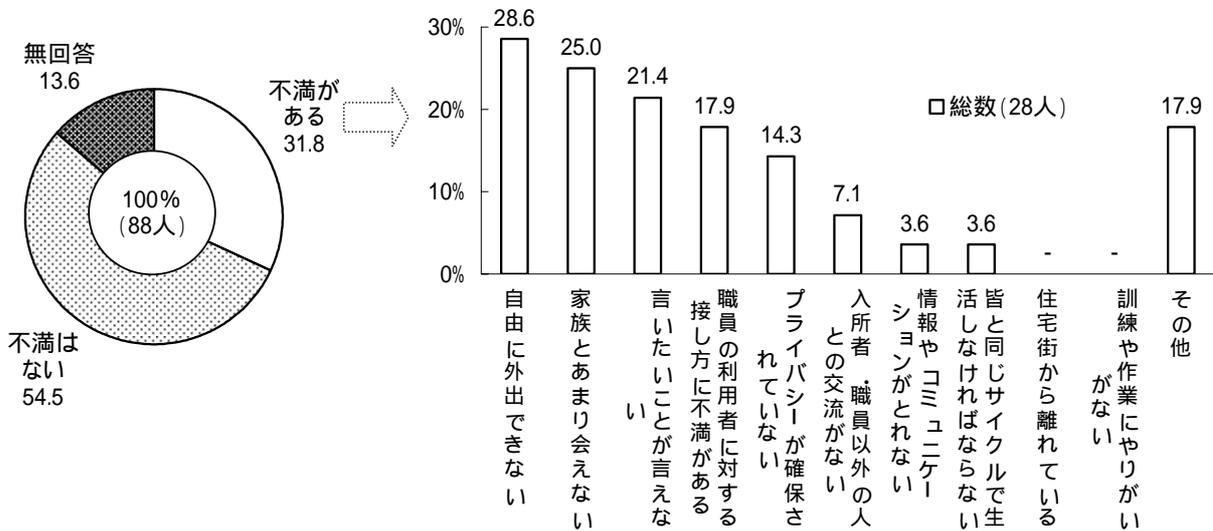
施設での生活に「不満はない」人の割合は54.5%

今の施設での生活に不満があるか聞いたところ、「不満がある」の割合は31.8%、「不満はない」は54.5%であった。

「不満がある」と答えた人(28人)にその内容を聞いたところ、「自由に外出できない」の割合が28.6%と最も高い。(図 -10-5)

問 あなたは、施設での生活に不満はありますか。

図 -10-5 施設での生活の不満〔2つまでの複数回答〕



11 その他の福祉サービス等

(1) 困ったことがあったときの相談先〔複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

何か困ったときの相談先は「家族」に相談する割合が最も高く 66.4%、次いで「福祉事務所／区市町村の障害福祉担当窓口」が 34.3%

何か困ったときの相談先は「家族」の割合が最も高く 66.4%、次いで「福祉事務所／区市町村の障害福祉担当窓口」の 34.3%となっている。

平日の日中主に過ごしたところ別にみると、通所施設（作業所、デイケア等を含む）で過ごした人では、「福祉事務所／区市町村の障害福祉担当窓口」（47.1%）、「サービス提供事業者」（32.9%）の割合が高くなっている。（表 -11-1）

問 あなたは何か困ったことがあったときに、どこ（誰）に相談しますか。

表 -11-1 困ったことがあったときの相談先〔複数回答〕

- 障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	福祉事務所／区市町村の障害福祉担当窓口	身体障害者福祉センター	障害者地域生活自立センター	相談支援事業者	サービス提供事業者	社会福祉協議会	民生委員、障害者相談員	入所施設の職員	家族	オンブズマン	障害者団体等	その他	相談しない	無回答	
総数	100.0 (2,762)	34.3	7.1	2.3	3.2	8.3	2.1	3.4	1.9	66.4	0.2	2.9	13.4	7.9	1.2	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (390)	32.8	6.4	2.1	2.1	7.4	3.8	2.3	1.5	66.7	-	2.6	15.6	8.2	0.8
	聴覚障害	100.0 (405)	39.5	8.9	1.5	3.0	3.7	1.7	4.0	0.2	68.1	-	4.4	13.1	6.4	1.7
	平衡機能障害	100.0 (15)	33.3	6.7	-	-	13.3	-	-	-	73.3	-	-	20.0	6.7	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	38.3	9.6	2.3	3.8	7.7	3.1	3.1	-	70.9	-	4.6	10.0	3.4	1.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	34.6	7.8	2.4	6.2	15.4	2.4	3.2	2.4	65.4	0.3	2.2	10.8	7.3	0.8
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	32.8	7.5	1.5	5.0	11.2	1.9	4.1	1.4	64.5	-	1.9	10.2	8.5	1.2
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	33.6	11.1	2.8	6.3	16.6	3.2	3.6	6.3	65.2	0.8	4.3	11.5	7.5	2.0
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	43.5	12.2	7.2	3.4	24.1	3.0	1.7	7.2	63.3	0.4	8.4	14.3	6.3	0.8
	内部障害	100.0 (765)	32.9	5.1	2.1	2.1	3.8	1.6	3.7	0.1	66.9	0.1	1.7	14.9	9.4	0.9
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (2,004)	33.4	6.6	2.0	3.6	7.6	1.6	4.1	-	68.8	0.1	2.0	13.7	7.0	0.9
	職場	100.0 (400)	37.3	8.0	1.3	0.8	3.3	3.0	1.3	-	61.8	-	5.0	13.0	14.3	1.5
	学校	100.0 (8)	12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	100.0	-	12.5	12.5	-	-
	通所施設(作業所、デイケア等を含む)	100.0 (170)	47.1	16.5	8.8	5.3	32.9	5.3	1.2	2.4	66.5	0.6	9.4	10.6	3.5	0.6
	入所施設	100.0 (86)	14.0	-	-	1.2	3.5	1.2	-	57.0	50.0	-	1.2	5.8	7.0	3.5
	その他	100.0 (74)	39.2	2.7	1.4	4.1	5.4	4.1	2.7	-	52.7	1.4	2.7	21.6	10.8	1.4

(2) 将来暮らしたいところ - 年齢階級、現在の生活の場別

将来暮らしたいところは「今のままでよい」と思っている割合が高いが、39歳以下では「親などから独立した一般の住宅」が1割以上

将来暮らしたいところについて「今の生活の場所から変えたい」と思ってる割合は19.0%、「今のままでよい」が61.9%であった。

年齢階級別にみると、「今の生活の場所から変えたい」の割合は、29歳以下、30代の割合が高く3割を超えており、暮らしたい場所は「親などから独立した一般の住宅」の割合がそれぞれ1割以上で、総数(2.4%)よりも高い。

現在の生活の場別にみると、現在、施設に入所している人では「今の生活の場所から変えたい」の割合は25.0%で、暮らしたい場所は「親などの家族が住んでいる家」の割合が11.4%で総数の割合(3.6%)よりも高くなっている。(表 -11-2)

問 あなたは、将来どこで暮らしたいと思いますか。

表 -11-2 将来暮らしたいところ - 年齢階級、現在の生活の場別

	総数	か今の生活を変えたい場所	て施設に入所する	家が親などでの家族	ホーム又はケブア	住立親などからの独	その他	今のままでよい	わからない	無回答	
			し	る	ホム	住宅	そ				
総数	100.0 (2,762)	19.0	7.1	3.6	2.0	2.4	3.9	61.9	17.6	1.6	
年齢階級別	29歳以下 (98)	34.7	8.2	5.1	7.1	14.3	-	48.0	13.3	4.1	
	30～39歳 (161)	32.3	8.1	3.7	5.0	10.6	5.0	49.1	17.4	1.2	
	40～49歳 (196)	16.8	4.6	3.1	2.6	5.6	1.0	60.2	20.9	2.0	
	50～59歳 (332)	21.7	6.6	3.9	1.8	3.3	6.0	56.3	20.5	1.5	
	60～69歳 (651)	19.8	7.8	4.0	2.0	1.2	4.8	58.5	19.8	1.8	
	70～79歳 (876)	17.1	8.1	3.3	1.4	0.5	3.9	65.8	16.1	1.0	
	80歳以上 (448)	12.1	4.9	3.1	1.1	0.2	2.7	71.7	14.5	1.8	
	(再掲)総数 65歳以上 (1,693)	100.0	16.7	7.4	3.4	1.6	0.5	3.8	66.0	15.8	1.5
現在の生活の場別	在宅で生活している (2,674)	100.0	18.8	7.3	3.3	2.0	2.4	3.7	62.0	17.7	1.5
	施設に入所している (88)	100.0	25.0	-	11.4	2.3	2.3	9.1	58.0	12.5	4.5

(3) 将来暮らしたいところ - 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別
 将来暮らしたいところを障害名別にみると「今の生活の場所から変えたい」の割合は、
 肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害）が36.3%と最
 も高い。（内訳は「施設に入所して生活する」12.2%、「グループホーム又はケアホーム」
 及び「親などから独立した一般の住宅」8.0%）

現在一緒に生活している人別にみると、一人で暮らしている人では「今の生活の場所から
 変えたい」の割合が29.2%で、暮らしたい場所は「施設に入所して生活する」の割合が13.8%
 と高くなっている。（表 -11-3）

表 -11-3 将来暮らしたいところ

- 障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	総 数	か今 らの 変生 え活 たい の場 所	て施	家	が親	ホ	ム	グ	住立	親	そ	今 のま まで よい	わ か ら な い	無 回 答
			施設 生活 に す る	が 住 ん ど の 家 族	な ん だ の 家 族	ム 又 は ケ ア ホ ー ム	ル ー プ ホ ー ム	立 た な ど か ら の 独 立 住 宅	他					
総数	100.0 (2,762)	19.0	7.1	3.6	2.0	2.4	3.9	61.9	17.6	1.6				
身体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 〔 複 数 回 答 〕 別	視覚障害	100.0 (390)	19.5	6.4	5.1	2.1	2.3	3.6	60.3	19.0	1.3			
	聴覚障害	100.0 (405)	17.8	6.7	2.7	1.7	3.0	3.7	58.0	22.5	1.7			
	平衡機能障害	100.0 (15)	-	-	-	-	-	-	73.3	26.7	-			
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障 害	100.0 (261)	11.9	5.7	1.5	-	0.4	4.2	68.6	17.6	1.9			
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	19.2	7.3	4.6	1.6	1.6	4.1	65.9	13.8	1.1			
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	22.2	8.3	4.2	2.7	2.1	4.8	62.2	14.5	1.2			
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	20.2	7.5	4.0	1.6	2.8	4.3	63.2	14.6	2.0			
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の 脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	36.3	12.2	4.6	8.0	8.0	3.4	44.3	15.6	3.8			
現 在 一 緒 に 生 活 し て い る 人 〔 複 数 回 答 〕 別	内部障害	100.0 (765)	14.8	6.3	2.4	1.2	1.6	3.4	64.1	19.9	1.3			
	親	100.0 (368)	26.1	8.7	1.9	4.6	9.5	1.4	56.0	15.8	2.2			
	配偶者	100.0 (1,404)	12.5	4.6	1.9	1.5	1.2	3.3	70.7	15.8	0.9			
	子ども	100.0 (791)	10.6	4.0	1.5	0.5	1.8	2.8	76.5	11.8	1.1			
	兄弟姉妹	100.0 (160)	28.1	8.8	0.6	5.6	11.3	1.9	55.6	13.8	2.5			
	その他の親族	100.0 (147)	13.6	6.8	1.4	2.0	1.4	2.0	78.9	5.4	2.0			
	一人で暮らしている	100.0 (566)	29.2	13.8	8.0	1.6	-	5.8	41.3	27.4	2.1			

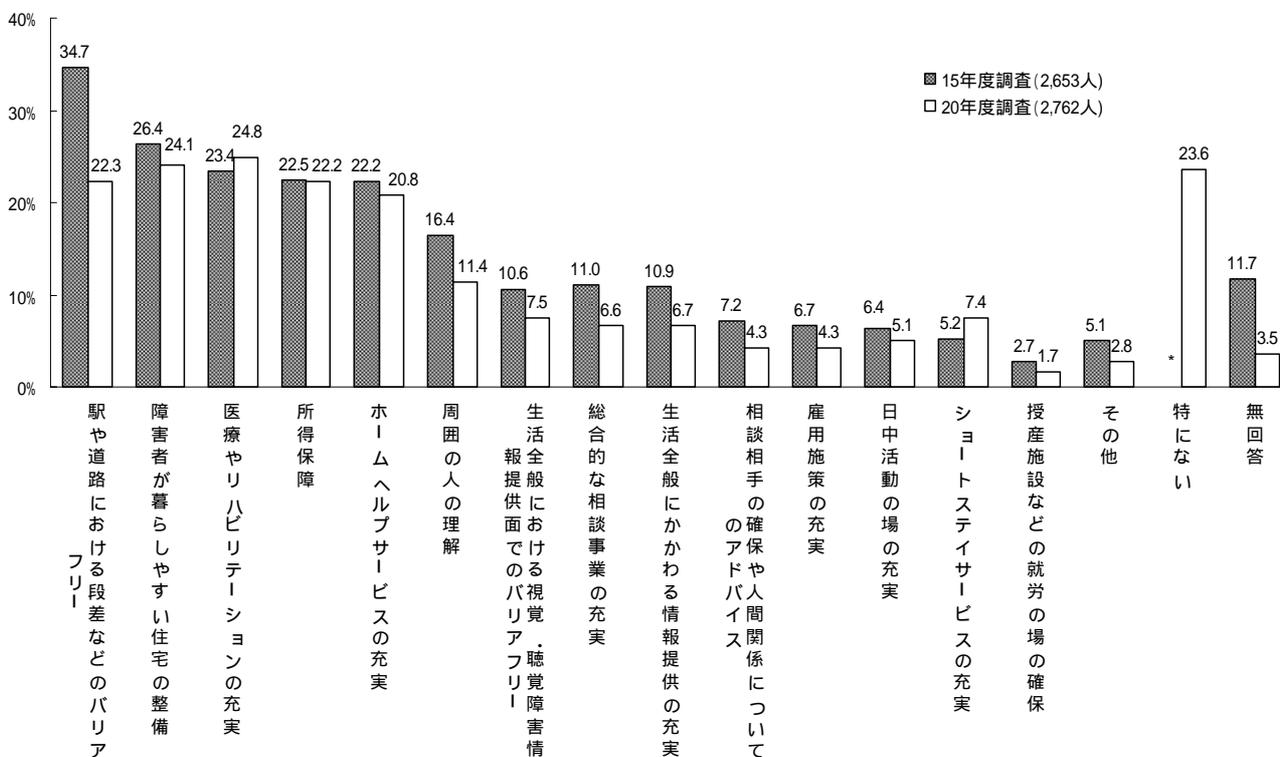
(4) 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

前回調査よりも「駅や道路におけるバリアフリー」の割合が12.4ポイント減少

地域生活をしたたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ「医療やリハビリテーションの充実」の割合が24.8%と最も高く、次いで「障害者が暮らしやすい住宅の整備」24.1%であり、前回調査（15年度調査）で最も割合の高かった「駅や道路におけるバリアフリー（34.7%）」は12.4ポイント下がって22.3%となった。（図-11-1）

問 あなたが、地域生活をしたたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何ですか。

図 -11-1 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



(注) *は前回調査時選択肢がなかったもの

(5) 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別
 地域生活をする上で必要な福祉サービス等を障害名別にみると、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」の割合は肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)で38.8%と高い。平日の日中主に過ごしたところ別にみると、通所施設(作業所、デイケア等を含む)で過ごした人では、「授産施設などの就労の場の確保」(10.0%)、「日中活動の場の充実」(15.3%)、「ショートステイサービスの充実」(25.9%)の割合が、それぞれ総数よりも高いのが目立つ。(表 -11-4)

表 -11-4 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	す 障 害 者 住 宅 の 暮 ら し や 備	授 産 場 の 設 備 の 確 保	ホ ー ム ヘル プ サ ー ビ ス の 充 実	実 日 中 活 動 の 場 の 充 実	サ ー ビ ス の 充 実	シ ョ ー ト ス テ イ の 充 実	医 療 や リ ハ ビ リ テ ィ の 充 実	の 総 合 的 な 相 談 事 業 の 充 実	雇 用 施 策 の 充 実
総数	100.0 (2,762)	24.1	1.7	20.8	5.1	7.4	24.8	6.6	4.3	
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 (複 数 回 答) 別	視覚障害	100.0 (390)	23.3	1.3	21.5	4.9	5.1	16.7	7.7	4.4
	聴覚障害	100.0 (405)	20.5	1.5	12.6	5.2	4.7	13.1	5.4	4.4
	平衡機能障害	100.0 (15)	6.7	-	40.0	6.7	20.0	20.0	13.3	6.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (261)	20.7	2.7	13.0	5.7	7.7	34.9	8.4	4.6
	肢体不自由(上肢)	100.0 (370)	27.0	3.0	29.5	3.8	10.8	37.8	5.1	3.2
	肢体不自由(下肢)	100.0 (518)	28.2	1.5	26.1	3.5	9.1	32.8	4.8	2.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (253)	26.1	1.2	34.0	6.3	14.2	37.2	4.7	1.2
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	100.0 (237)	38.8	8.0	26.2	11.8	15.2	22.8	6.8	8.9
	内部障害	100.0 (765)	22.0	0.9	20.0	3.7	6.5	24.4	8.0	4.2
平 日 の 日 中 主 に 過 こ し た と こ ろ 別	自分の家	100.0 (2,004)	23.4	0.9	23.1	4.4	7.2	25.6	6.9	3.1
	職場	100.0 (400)	26.0	2.5	10.3	4.8	2.0	20.8	6.5	10.5
	学校	100.0 (8)	25.0	-	25.0	-	-	25.0	25.0	-
	通所施設(作業所、デイケア等を含む)	100.0 (170)	35.9	10.0	27.1	15.3	25.9	26.5	4.7	2.9
	入所施設	100.0 (86)	14.0	2.3	11.6	7.0	3.5	22.1	2.3	1.2

(次ページへ続く)

また、「駅や道路における段差などのバリアフリー」の割合は、障害名別で見ると肢体不自由(下肢)が35.3%と高く、「生活全般における視覚・聴覚障害情報提供面でのバリアフリー」の割合は、聴覚障害で27.4%と高くなっている。

表 -11-4 地域生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

- 身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別(続)

		フ リ ー	段 差 な ど の バ リ ア フ リ ー	駅 や 道 路 に お け る	ア フ リ ー	報 告 面 で の バ リ ア フ リ ー	視 覚 ・ 聴 覚 に お け る	生 活 全 般 に お け る	生 活 全 般 に お け る	生 活 全 般 に お け る	所 得 保 障	の 人 間 交 渉 に お け る	相 談 手 の 確 保	周 圍 の 人 の 理 解	そ の 他	特 に な い	無 回 答
総数		22.3				7.5		6.7		22.2	4.3	11.4	2.8	23.6	3.5		
身 体 障 害 者 手 帳 の 障 害 名 (複 数 回 答) 別	視覚障害	32.1				19.0		10.3		21.5	3.3	13.1	3.1	16.9	4.6		
	聴覚障害	12.6				<u>27.4</u>		9.9		18.3	5.7	14.3	4.2	26.9	3.5		
	平衡機能障害	33.3				26.7		13.3		20.0	6.7	20.0	6.7	13.3	-		
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	10.3				5.0		7.3		24.1	7.3	15.3	0.8	26.8	3.8		
	肢体不自由(上肢)	27.0				1.1		4.6		22.7	3.8	10.3	3.8	17.6	1.6		
	肢体不自由(下肢)	<u>35.3</u>				1.4		5.2		20.7	3.9	10.0	3.1	17.6	2.3		
	肢体不自由(体幹)	21.7				2.0		5.1		19.4	2.8	7.5	2.4	20.9	4.3		
	肢体不自由(乳幼児期以前の非進行性の脳病変による脳原性運動機能障害)	26.2				1.7		4.6		26.2	4.6	15.2	4.2	8.9	5.1		
	内部障害	16.6				1.3		6.3		24.7	4.1	8.6	1.6	30.5	3.1		
平 日 の 日 中 主 に 過 ご し た と こ ろ 別	自分の家	23.8				7.4		6.4		20.6	4.1	10.0	2.4	24.3	2.9		
	職場	21.5				11.8		12.0		32.5	5.8	17.3	1.8	22.3	3.3		
	学校	12.5				12.5		-		12.5	12.5	50.0	-	25.0	-		
	通所施設(作業所、デイケア等を含む)	21.2				2.9		4.1		25.9	5.3	13.5	5.9	8.2	2.9		
	入所施設	5.8				-		-		14.0	2.3	5.8	5.8	39.5	9.3		